

【 哲学基礎文化学系 】

講義コード	講義科目名	授業形態	単位数	講義期間	曜時限	授業担当者	使用言語	履修・聴講可否		シラバス番番	備考
								科目等 履修生	学部 聴講生		
5101001	系共通科目(哲学)(講義)	講義	4	通年	火5	出口 康夫	日本語	○	○	哲学基礎文化学系1	2/8 シラバス追加
5131001	哲学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	火3	落合 仁司	日本語	○	○	哲学基礎文化学系2	
5131002	哲学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	田口 茂	日本語	○	○	哲学基礎文化学系3	2/8 シラバス追加
5131003	哲学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	柏瀬 達也	日本語	○	○	哲学基礎文化学系4	2/8 シラバス追加
5131004	哲学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金1	大塚 淳	英語	○	○	哲学基礎文化学系5	
5131005	哲学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金1	大塚 淳	英語	○	○	哲学基礎文化学系6	
5141001	哲学(演習)	演習	2	前期	火5	矢田部 俊介	日本語	○	○	哲学基礎文化学系7	
5141002	哲学(演習)	演習	2	後期	火5	矢田部 俊介	日本語	○	○	哲学基礎文化学系8	
5141007	哲学(演習)	演習	2	前期	月5	大西 琢朗	日本語及 び英語	○	○	哲学基礎文化学系9	
5141008	哲学(演習)	演習	2	後期	月5	大西 琢朗	日本語及 び英語	○	○	哲学基礎文化学系10	
5143001	哲学(演習)	演習	2	前期	水5	出口 康夫	英語	○	○	哲学基礎文化学系11	2/8 シラバス追加
5143002	哲学(演習)	演習	2	後期	水5	出口 康夫	英語	○	○	哲学基礎文化学系12	2/8 シラバス追加
5143003	哲学(演習)	演習	2	前期不定	その他	八木沢 敬	英語	○	○	哲学基礎文化学系13	原則・水3(日程はシラバス参照)
5143004	哲学(演習)	演習	2	前期	火4	大塚 淳	英語	○	○	哲学基礎文化学系14	
5143005	哲学(演習)	演習	2	後期	火4	大塚 淳	英語	○	○	哲学基礎文化学系15	
5143006	哲学(演習)	演習	2	後期不定	その他	八木沢 敬	英語	○	○	哲学基礎文化学系16	
5150002	哲学(演習)	演習	1	前期不定	その他	大田 由美子	英語	○	○	哲学基礎文化学系17	2/8 シラバス追加
5200001	系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)	講義	2	前期	水5	中畑 正志	日本語	○	○	哲学基礎文化学系18	
5202001	系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)	講義	2	後期	水5	中畑 正志	日本語	○	○	哲学基礎文化学系19	
5204001	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)	講義	2	前期	水2	周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系20	
5205001	系共通科目(西洋近世哲学史)(講義)	講義	4	後期	水2,水3	大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系21	
5206001	系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)	講義	2	後期	水2	周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系22	
5230001	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	4	通年	月3	中畑 正志	日本語	○	○	哲学基礎文化学系23	
5230002	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	4	通年	月5	早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系24	
5231001	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木2	西村 洋平	日本語	○	○	哲学基礎文化学系25	
5234001	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	上枝 美典	日本語	○	○	哲学基礎文化学系26	
5234002	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木2	周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系27	
5236001	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木2	大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系28	
5236002	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金3	山崎 雅夫	日本語	○	○	哲学基礎文化学系29	
5236003	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	後期集中	その他	植村 玄輔	日本語	○	○	哲学基礎文化学系30	
5236004	西洋哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	樋井 靖史	日本語	○	○	哲学基礎文化学系31	
5240001	西洋哲学史(演習)	演習	4	通年	金2	中畑 正志	日本語	○	○	哲学基礎文化学系32	
5240002	西洋哲学史(演習)	演習	4	通年	木4,木5	中畑 正志・早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系33	
5241001	西洋哲学史(演習)	演習	2	前期	火3	早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系34	
5241002	西洋哲学史(演習)	演習	2	後期	火3	早瀬 篤	日本語	○	○	哲学基礎文化学系35	
5242001	西洋哲学史(演習)	演習	4	通年	木4,木5	周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系36	
5243001	西洋哲学史(演習)	演習	2	前期	金4	井澤 清	日本語	○	○	哲学基礎文化学系37	
5243002	西洋哲学史(演習)	演習	2	後期	金4	井澤 清	日本語	○	○	哲学基礎文化学系38	
5243003	西洋哲学史(演習)	演習	2	前期	月4	周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系39	
5243004	西洋哲学史(演習)	演習	2	後期	月4	周藤 多紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系40	
5244001	西洋哲学史(演習)	演習	4	通年	金2	竹内 綱史	日本語	○	○	哲学基礎文化学系41	
5245001	西洋哲学史(近世)(演習)	演習	2	後期	水5	大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系42	
5245002	西洋哲学史(近世)(演習)	演習	2	後期	火4,火5	大河内 泰樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系43	隔週授業
5302001	系共通科目(日本哲学史)(講義)	講義	2	前期	火5	上原 麻有子	日本語	○	○	哲学基礎文化学系44	
5304001	系共通科目(日本哲学史)(講義)	講義	2	後期	火5	上原 麻有子	日本語	○	○	哲学基礎文化学系45	
5310002	日本哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水4	上原 麻有子	日本語	○	○	哲学基礎文化学系46	
5310004	日本哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木3	小野 真龍	日本語	○	○	哲学基礎文化学系47	
5310005	日本哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木3	水野 友晴	日本語	○	○	哲学基礎文化学系48	
5310006	日本哲学史(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	美濃部 仁	日本語	○	○	哲学基礎文化学系49	
5341001	日本哲学史(演習)	演習	2	前期	金2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系50	
5341002	日本哲学史(演習)	演習	2	後期	金2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系51	
5341003	日本哲学史(演習)	演習	2	後期	木3	水野 友晴	日本語	○	○	哲学基礎文化学系52	
5343001	日本哲学史(基礎演習)	基礎演習	2	前期	木2	竹花 洋佑	日本語	○	○	哲学基礎文化学系53	
5343002	日本哲学史(基礎演習)	基礎演習	2	後期	木2	竹花 洋佑	日本語	○	○	哲学基礎文化学系54	
5401001	系共通科目(倫理学)(講義)	講義	4	通年	金3	水谷 雅彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系55	
5430001	倫理学(特殊講義)	特殊講義	4	通年	火3	水谷 雅彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系56	
5431001	倫理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	木2	林 芳紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系57	
5431002	倫理学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	木2	林 芳紀	日本語	○	○	哲学基礎文化学系58	
5431003	倫理学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	森村 進	日本語	○	○	哲学基礎文化学系59	
5440001	倫理学(演習)	演習	4	通年	火4	水谷 雅彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系60	
5440002	倫理学(演習)	演習	4	通年	金4	水谷 雅彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系61	
5443003	倫理学(演習)	演習	2	前期	金5	北尾 宏之	日本語	○	○	哲学基礎文化学系62	
5443004	倫理学(演習)	演習	2	後期	金5	北尾 宏之	日本語	○	○	哲学基礎文化学系63	
5443005	倫理学(演習)	演習	2	前期	水4	佐藤 義之	日本語	○	○	哲学基礎文化学系64	
5443006	倫理学(演習)	演習	2	後期	水4	佐藤 義之	日本語	○	○	哲学基礎文化学系65	
5502001	系共通科目(宗教学A)(講義)	講義	2	前期	火1	杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系66	
5503001	系共通科目(宗教学B)(講義)	講義	2	後期	火1	杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系67	
5531001	宗教学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系68	
5531002	宗教学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系69	
5531003	宗教学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水4	杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系70	
5531004	宗教学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水4	杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系71	
5531005	宗教学(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	下田 正弘	日本語	○	○	哲学基礎文化学系72	
5541001	宗教学(演習)	演習	2	前期	水5	杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系73	
5541002	宗教学(演習)	演習	2	後期	水5	杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系74	
5541004	宗教学(演習)	演習	2	前期	金3	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系75	
5541006	宗教学(演習)	演習	2	前期	水4	佐藤 義之	日本語	○	○	哲学基礎文化学系76	
5541007	宗教学(演習)	演習	2	後期	水4	佐藤 義之	日本語	○	○	哲学基礎文化学系77	
5543001	宗教学(基礎演習)	演習	2	前期	金4,金5	杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系78	
5543002	宗教学(基礎演習)	演習	2	後期	金4,金5	杉村 靖彦	日本語	○	○	哲学基礎文化学系79	
5551001	宗教学(講義)	講義	2	前期	木3	下田 和宣	日本語	○	○	哲学基礎文化学系80	
5551002	宗教学(講義)	講義	2	後期	木3	下田 和宣	日本語	○	○	哲学基礎文化学系81	
5602001	系共通科目(キリスト教)(講義)	講義	2	前期	木1	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系82	
5604001	系共通科目(キリスト教)(講義)	講義	2	後期	木1	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系83	
5631001	キリスト教(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系84	
5631002	キリスト教(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系85	
5631003	キリスト教(特殊講義)	特殊講義	2	前期	火2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系86	
5631004	キリスト教(特殊講義)	特殊講義	2	後期	火2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系87	
5631005	キリスト教(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水5	狹間 芳樹	日本語	○	○	哲学基礎文化学系88	
5631006	キリスト教(特殊講義)	特殊講義	2	前期集中	その他	津田 謙治	日本語	○	○	哲学基礎文化学系89	
5641001	キリスト教(演習)	演習	2	前期	金2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系90	
5641002	キリスト教(演習)	演習	2	後期	金2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系91	
5641003	キリスト教(演習)	演習	2	前期	金3	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系92	
5641004	キリスト教(演習)	演習	2	前期	金5	浅野 淳博	日本語	○	○	哲学基礎文化学系93	
5641005	キリスト教(演習)	演習	2	後期	金4	河崎 晴	日本語	○	○	哲学基礎文化学系94	
5651001	キリスト教(講義)	講義	2	前期	木2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系95	
5651002	キリスト教(講義)	講義	2	後期	木2	声名 定道	日本語	○	○	哲学基礎文化学系96	
5705001	系共通科目(美学)(講義)	講義	2	前期	水4	杉山 卓史	日本語	○	○	哲学基礎文化学系97	
5706001	系共通科目(西洋美術史)(講義)	講義	2	前期	水3	平川 佳世	日本語	○	○	哲学基礎文化学系98	
5707001	系共通科目(美学)(講義)	講義	2	後期	水4	杉山 卓史	日本語	○	○	哲学基礎文化学系99	
5708001	系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)	講義	2	前期	金1	根立 研介	日本語	○	○	哲学基礎文化学系100	
5709001	系共通科目(西洋美術史)(講義)	講義	2	後期	水3	平川 佳世	日本語	○	○	哲学基礎文化学系101	
5710001	系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)	講義	2	後期	金1	簡井 忠仁	日本語	○	○	哲学基礎文化学系102	
5713003	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水3	根立 研介	日本語	○	○	哲学基礎文化学系103	
5731004	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水3	根立 研介	日本語	○	○	哲学基礎文化学系104	
5731005	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金3	平川 佳世	日本語	○	○	哲学基礎文化学系105	
5731006	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金3	平川 佳世	日本語	○	○	哲学基礎文化学系106	
5731007	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水2	杉山 卓史	日本語	○	○	哲学基礎文化学系107	
5731008	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水2	杉山 卓史	日本語	○	○	哲学基礎文化学系108	
5731009	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	金2	稲本 泰生	日本語	○	○	哲学基礎文化学系109	

講義コード	講義科目名	授業形態	単位数	講義期間	曜時限	授業担当者	使用言語	履修・聴講可否		シラバス連番	備考
								科目等履修生	学部聴講生		
5731010	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	金2	稲本 泰生	日本語	○	○	哲学基礎文化学系110	
5731011	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	火3	岡田 暁生	日本語	○	○	哲学基礎文化学系111	
5731012	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	火3	岡田 暁生	日本語	○	○	哲学基礎文化学系112	
5731013	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	火2	加須屋 明子	日本語	○	○	哲学基礎文化学系113	
5731014	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期集中	その他	駒田 亜紀子	日本語	○	○	哲学基礎文化学系114	
5731015	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	月3	武田 宙也	日本語	○	○	哲学基礎文化学系115	
5731016	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	月3	武田 宙也	日本語	○	○	哲学基礎文化学系116	
5731017	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水1	永井 隆則	日本語	○	○	哲学基礎文化学系117	
5731018	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	前期	水2	筒井 忠仁	日本語	○	○	哲学基礎文化学系118	
5731019	美学美術史学(特殊講義)	特殊講義	2	後期	水2	筒井 忠仁	日本語	○	○	哲学基礎文化学系119	
5745001	美学美術史学(演習II)	演習	2	前期	木1	平川 佳世	日本語	○	○	哲学基礎文化学系120	
5745002	美学美術史学(演習II)	演習	2	後期	金2	杉山 卓史	日本語	○	○	哲学基礎文化学系121	
5745003	美学美術史学(演習II)	演習	2	後期	木2	平川 佳世	日本語	○	○	哲学基礎文化学系122	
5745004	美学美術史学(演習II)	演習	2	前期	木2	杉山 卓史	日本語	○	○	哲学基礎文化学系123	
5745005	美学美術史学(演習II)	演習	2	前期	月2	永井 隆則	日本語	○	○	哲学基礎文化学系124	
5745006	美学美術史学(演習II)	演習	2	後期	木3	倉持 充希	日本語	○	○	哲学基礎文化学系125	
5745007	美学美術史学(演習II)	演習	2	前期	木5	江尻 育世	日本語	○	○	哲学基礎文化学系126	
5753001	美学美術史学(講読)	講読	2	前期	木2	筒井 忠仁	日本語	○	○	哲学基礎文化学系127	
5753002	美学美術史学(講読)	講読	2	後期	木2	高井 たかね	日本語	○	○	哲学基礎文化学系128	

哲学基礎文化学系 1

科目ナンバリング		U-LET01 25101 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(哲学)(講義) Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		出口 康夫 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		現代哲学入門									
【授業の概要・目的】											
西洋哲学は、神との本格的な決別を果たすことで「現代哲学」へと変貌を遂げました。本授業では、西洋近世哲学の一つの完成形態であるカントやヘーゲルの哲学から説き起こし、大きく大陸哲学と分析哲学という二つの流れに沿いながら、19世紀から21世紀初頭にかけての哲学の動向を概観します。また東西思想の交流史に加え、ポスト分析哲学・分析実存主義・分析アジア哲学といった近年の新潮流をも視野に入れることで、グローバル化しつつある21世紀の哲学状況を見据えた議論を展開します。											
【到達目標】											
分析哲学や大陸哲学といった個々の学派の内部に閉じ籠ることなく、現代哲学の流れに関する包括的な俯瞰図を得ることができる。また単に西洋哲学にとどまらず、他の思想伝統に対しても開かれた眼を養うことができる。さらに現在進行中の新たな哲学動向に触れることもできる。											
【授業計画と内容】											
前期											
1) カント：聖域（サンクチュアリ）に隔離された神											
2) ヘーゲル：歴史的二級市民としての神											
3) ショーペンハウワーⅠ：全生物の断種											
4) ショーペンハウワーⅡ：生の領域の発見											
5) フォイエルバッハ：愛と二人称の哲学											
6) ニーチェⅠ：反キリスト教・反科学・反民主主義											
7) ニーチェⅡ：ディオニソス・ツァラトゥストラ・アンチクリスト											
8) 東西思想交流史Ⅰ											
9) 東西思想交流史Ⅱ											
10) ブーバー：「私とあなた」と老荘的コミュニケーション											
11) ハイデガーⅠ：現存在と共存在											
12) ハイデガーⅡ：死の哲学と「黒ノート」											
13) 「分析」とは何か											
14) 論理学革命											
15) フレーゲの哲学											
後期											
16) ラッセルの確定記述理論											
17) ウィーン学団とカルナップの実証主義											
18) クワインのホーリズム											
19) 実証主義の崩壊：統計学の哲学											
20) 科学的实在論論争：科学の超合理性											
21) 科学的世界観の選択を開く											
22) ポスト分析哲学と分析実存主義											
23) 分析アジア哲学とは何か											
----- 系共通科目(哲学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(哲学)(講義)(2)

- 24) 真矛盾主義：ポスト矛盾律の哲学へ
- 25) 現代哲学における「弱い自己」
- 26) 東アジアの全体論的自己観
- 27) 行為者性（エージェンシー）の委譲と分配
- 28) 「われわれ」としての自己
- 29) 「われわれ」の倫理と共同体
- 30) 総括

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

全授業終了後のレポート（50%）+ 平常点評価（授業内でのパフォーマンス）（50%）

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

毎回、プリントを配布する。それをもとに復習を行なった上で、次回の授業に参加すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 2

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34											
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 落合 仁司 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		フランス現代思想の数理表現											
【授業の概要・目的】													
フランス現代思想第一世代ラカン、クロソウスキー、レヴィ＝ストロース、第二世代ドゥルーズ、フーコー、デリダ等の思想は多岐に及ぶが、その核にはフロイト主義、構造主義、そして能動的ニヒリズムが存在する。本講義ではこのフランス現代思想の核を哲学あるいは社会学の視点から一望し、その数理的な表現の可能性を考察する。何故数理表現の可能性を考察するのか、講義の進行と共に明らかになって来ようが、予兆的に言えば、哲学的思考と数学的思弁はむしろ同型的な営為なのではないだろうか。													
【到達目標】													
20世紀を風靡し21世紀になお影響力を持ち続けているフランス現代思想の核を理解できるようになると共に、哲学あるいは社会学における数理表現とは何でありどのように可能なのか理解できるようになる。													
【授業計画と内容】													
第1回 愛した、読んだ、満ち足りた 第2回 フロイト主義、構造主義、能動的ニヒリズム 第3回 シニフィアン、体系、パロール ソシユール 第4回 ファルス、掟、鏡像 ラカン 第5回 反復、差異、見せ掛け ドゥルーズ 第6回 中間考察 第7回 群、核、像 第8回 直交群、ユニタリ群、射影線型群 第9回 被覆写像 ファイバー束(1) 第10回 ホップ写像 ファイバー束(2) 第11回 射影 ファイバー束(3) 第12回 ニヒリズムの代数学 第13回 結論 第14回 総括と展望 第15回 講評													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
レポート提出。課題、時期、提出方法については講義に中で指示する。													
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----													

哲学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

数学の部分は復習が効果的である。哲学の部分は講義で言及するテキストの予習が望ましいが、何の準備をしなくとも理解可能な講義を心掛ける。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 3

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34											
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 田口 茂 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語		
題目		現象学的明証論と媒介の思想											
【授業の概要・目的】													
E・フッサール(1859-1938)にとって「明証」(Evidenz)の問題への取り組みはその現象学の形成と発展にとって本質的な役割を果たした。本講義では、フッサール現象学における明証論と真理論についてその概略を示した上で、田辺元(1885-1962)の「媒介」概念を参照しつつ、現象学的「明証」概念の弱点と見えるものを補完し、そのポテンシャルを展開することを試みたい。「確かである」とはどういうことかを考える上で、何らかの思考の手がかりとなる素材を提供できるよう工夫したい。また、現象学的に再解釈された「媒介」概念を通して、人間経験の幾つかの局面(倫理、宗教、芸術経験など)を解釈することを試みる。													
【到達目標】													
(1) 現象学的思考方法について理解し、実践できるようになる。 (2) 「確かさ」および「真理」と経験との関係について自ら具体的に考えることができるようになる。 (3) 「媒介」的思考について、その概略と適用可能性を理解する。													
【授業計画と内容】													
第1回：現象学とは何か(1)「現象」の概念と現象学のスタンス 第2回：現象学とは何か(2)「自明性」への問い 第3回：初期フッサールの明証論 第4回：「媒介」としての明証(1)経験における明証の機能 第5回：「媒介」としての明証(2)明証と真理 第6回：絶対的真理はありうるか？ 錯誤経験の意義 第7回：錯誤と真理 第8回：絶対的真理と割り切れないもの 第9回：明証の媒介的機能と真理の運動 第10回：明証のトリアーデ 第11回：媒介としての「物」 第12回：「本質」概念の媒介論的解釈 第13回：媒介論の展開(1)倫理と宗教 第14回：媒介論の展開(2)芸術と政治 第15回：媒介論的現象学の可能性 以上の計画は暫定的なものであり、授業の進み具合等によって適宜変更する。													
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----													

哲学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

基本的にレポート（100％）により評価する。ただし、討論への貢献が際立っている場合、それを加味することがある。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。とりわけ、自ら現象学的思考の実践を試みているかどうかを中心に評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

田口 茂 『現象学という思考 自明なもの の知へ』（筑摩書房）ISBN:978-4-480-01612-6
植村玄輝・八重樫 徹・吉川 孝 編著 『ワードマップ 現代現象学 経験から始める哲学入門』（新曜社）ISBN:978-4-7885-1532-1
ダン・ザハヴィ 『フッサールの現象学』（晃洋書房）ISBN:978-4771028920
フッサール（立松弘孝訳）『現象学の理念』（みすず書房）ISBN:978-4622019213
フッサール 『デカルト的省察』（岩波書店）ISBN:978-4003364338

【授業外学習（予習・復習）等】

- (1)初回授業までにフッサール現象学についての何らかの入門書を読んでおくと、理解の助けになる。
- (2)講義中に提示された思考方法を日常経験や現実の様々な局面に適用して吟味し、その結果をレポートに生かすこと。

（その他（オフィスアワー等））

- (1)授業中に質疑応答・ディスカッションの時間を設けるので、積極的に参加すること。
- (2)知識を整理するタイプではなく、一緒に事柄を吟味するタイプの授業なので、学生諸君の積極的な参加が本質的に重要である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 4

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 柏端 達也 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		死と時間と同一性について									
【授業の概要・目的】											
<p>人の死は、人の通時的な同一性の問題に独特の制約を与え、興味深い問題を生じさせる（もちろん人の通時的同一性は私たちが不死であったとしても問題でありつづけるのだが）。他方で、人が時間的な広がりをもつ具体的存在であるという点は、死を論じるにあたり、とりわけその価値をめぐる問題群の源泉となっている。この講義では、「人とは何か」、「私たちにとって死はどのように意味をもつのか」といった比較的大きな問いを中心にして、現代の存在論や価値論の諸問題を考えてみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 現代の哲学における「人」や「同一性」、「本質」、「存在と非存在」、「価値の帰属」といった諸々の基本的概念の要点を把握する。 2) 広く雑多に見える問題圏から、自身が具体的にどのような問いを切り取れるのかを確認する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1) 導入～準備的考察 (2) 準備的考察（存在論的な問題と価値論的な問題） (3) 終焉テーゼ (4) 私たちは何ものか（動物と死体） (5) 復活と間欠的存在、あるいは魂と死後の生 (6) 人と本質（人の同一性） (7) 死の悪の問題（エピクロスの論証の二つの側面） (8) ネーゲルと剥奪説 (9) 死はいつ人を害するのか・その一（死後説・生前説・同時説） (10) 死はいつ人を害するのか・その二（無時間説） (11) 存在論的な問題（主体不在の問題） (12) 時間と価値（非同一性問題など道徳的な問題もすこし） (13) 非存在対象を扱う一般的な枠組みについて (14) 死者とフィクション（キメラ的アプローチのすゝめ） (15) 総括と課題</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点：授業における課題(100%)											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

鈴木生郎・秋葉剛史・谷川卓・倉田剛 『ワードマップ 現代形而上学』(新曜社) ISBN:978-4788513662 (本書のとくに第1章が講義の前半に関連する。)

トマス・ネーゲル(永井均訳) 『コウモリであるとはどのようなことか』(勁草書房) ISBN:978-4326152223 (第一論文として収録されている「死」を参照するとよい。講義の中頃で取り上げる重要文献。)

柏端達也 『現代形而上学入門』(勁草書房) ISBN:978-4326154494 (本書の第1章と第5章が講義の後半の背景に関わる。)

その他、授業中にも紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

必要に応じて授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

シラバスは変更することがある。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 5

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Advanced topics in causation									
【授業の概要・目的】											
<p>The last half of the 20th century has seen a revived interest in causality both in scientific and philosophical contexts, mainly due to the development of various statistical techniques by Donald Rubin, Judea Pearl, and others. This course introduces these formal approaches to causality and explores their philosophical implications.</p>											
【到達目標】											
<p>* To understand major statistical methods of causal inferences. * To understand the ontological as well as the epistemological background of causal reasoning. * To be able to analyze philosophical assumptions and implications of scientific investigations.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>We begin with a review of basic statistics and probability, followed by introductions of two major approaches to causality, Rubin ' s potential outcome and Pearl ' s causal graph theory. The second half of the class picks up some advanced topics based on students ' interest. For each class, all students are required to read assigned texts and prepare comments or questions in advance.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction [2 weeks] <ul style="list-style-type: none"> * General introduction * Basic probability and statistics 2. The potential outcome approach [3 weeks] 3. Causal graph theory [3 weeks] 4. Recent topics (selected upon students ' interest) [6 weeks] <ul style="list-style-type: none"> * Actual causality * Interventionist theory of causation * Robin ' s G-formula * Pearl ' s Mediation formula * Causality and biased data * Causality and AI 5. Conclusion [1 week] 											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

【履修要件】

No formal requirement, but basic knowledge of statistics will prove helpful.

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Participation to in-class discussion and a term paper.

(NB: the final paper is a necessary, but NOT sufficient condition for credits).

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

【授業外学習(予習・復習)等】

Students are required to read assigned texts closely before class and to note down their comments and/or questions.

(その他(オフィスアワー等))

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 6

科目ナンバリング		U-LET01 35131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Philosophical writing / epistemology									
[授業の概要・目的]											
The aim of this class is twofold: first, as a companion course to the philosophy seminar on epistemology offered by the same instructor (Tue 4th period), the course is devoted to in-depth discussions for a deeper understanding of the material; second, it provides students with opportunities to practice their skill to discuss and write on philosophical topics in English.											
[到達目標]											
In this class, students will * Be able to discuss philosophical topics in English. * Acquire the basic skill to compose a short philosophical essay in English.											
[授業計画と内容]											
The course will proceed in tandem with the philosophy seminar on epistemology on the Tuesday 4th period. Although the participation to the Tuesday seminar is not mandatory to take this course, students are expected to have the basic knowledge of the material and must read the assignment by themselves. In advance to each class, students are required to compose a short (1-2 page, double-space) essay on the assigned reading and submit it online. In class, we review the submitted essays and make comments. Based on these comments, students rewrite their essay and submit a final version at the next class.											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
Presentation, participation to in-class discussion, and bi-weekly essays.											
[教科書]											
授業中に指示する All reading material will be posted on Panda.											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html											
[授業外学習(予習・復習)等]											
See above.											
(その他(オフィスアワー等))											
Tuesday 10:30-12:00 or by appointment. オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系 7

科目ナンバリング		U-LET01 25141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題を取りあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理学とは何を学ぶ学問か 形式言語 最小命題論理の - 導入規則および除去規則 最小命題論理の 、 - 導入規則および除去規則 最小命題論理の問題演習 遠回りのない証明 量子子と最小述語論理 最小述語論理の - 導入規則及び除去規則 最小述語論理の - 導入規則及び除去規則 最小述語論理の問題演習 形式的な自然数論 原始再帰的関数と"$2+2=4$"の証明 再帰関数の数値的表現可能性 総合演習 形式的な論理学と言語の哲学 											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

哲学(演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

[教科書]

使用しない
毎回ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)
小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)
Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

[授業外学習(予習・復習)等]

ハンドアウトなどの授業資料は毎回、事前(1~2日前)にwebsite(上記の授業Blog)にアップする。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 8

科目ナンバリング		U-LET01 25141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 2									
[授業の概要・目的]											
<p>我々は日常的に推論を行う。また「論理的」という言葉をよく使う。哲学においてももちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>また「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、20世紀以降古典論理の体系以外にも多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>											
[到達目標]											
直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。また、古典論理の完全性定理の証明を理解し、モデル論的意味論の意義を理解する。											
[授業計画と内容]											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを旨とする。</p> <p>後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。最後に、論理学の話題として、ゲーデルの不完全性定理等も紹介する。</p>											
<p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理結合子の意味とは何か、意味の理論1と意味の理論 2 意味の理論 2 と論理結合子の条件：プライアーの「トンク」、ベルナップの保存拡大性 プラヴィッツの「反転原理」 ダメットと証明の正規化可能性 「ホームズ論法」と矛盾律、直観主義論理 直観主義論理の問題演習 排中律と古典論理 古典論理における証明・問題演習 古典論理と真理表 古典論理と完全性定理 											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

哲学(演習)(2)

完全性定理の証明

総合演習

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理の証明

(エクストラ課題)不完全性定理の意義

【履修要件】

前期の演習「論理学1」を履修すること

【成績評価の方法・観点及び達成度】

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う

【教科書】

使用しない

毎回ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

【授業外学習(予習・復習)等】

授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 9

科目ナンバリング		U-LET01 25141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大西 琢朗 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to furnish students with basics in logical topics which are required in reading and writing papers in philosophy. It will cover elementary set theory, classical propositional and predicate logic, propositional and predicate modal logic, and related philosophical debates.</p> <p>現代哲学の論文を読み、書くために必要とされる論理学の基礎を習得する。初歩的な集合論、古典命題・述語論理、様相命題・述語論理、および関連する哲学的議論について学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>To master basic skills to deal with logic used in philosophy papers. To obtain broad knowledge about various logical systems and related philosophical issues.</p> <p>哲学の論文で用いられる論理を扱うための基礎的なスキルを習得する。多様な論理体系とそれらに 関係する哲学的な問題について、幅広い知識を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 導入 2. Elementary set theory 初歩的な集合論 3. Classical propositional logic 古典命題論理(1) 4. Classical propositional logic 古典命題論理(2) 5. Classical predicate logic 古典述語論理(1) 6. Classical predicate logic 古典述語論理(2) 7. Classical predicate logic 古典述語論理(3) 8. Exercise 演習 9. Normal modal logic 正規様相論理(1) 10. Normal modal logic 正規様相論理(2) 11. Normal modal logic 正規様相論理(3) 12. Non-normal modal logic 非正規様相論理 (1) 13. Non-normal modal logic 非正規様相論理 (2) 14. Predicate modal logic 述語様相論理(1) 15. Predicate modal logic 述語様相論理(2) 											
【履修要件】											
特になし											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

哲学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

Your final grade will be evaluated by your scores on homework exercises and a term paper.
宿題と学期末のレポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

G.Priest 『An Introduction to Non-classical Logic (2nd edition)』 (Cambridge University Press) (購入の必要はありません。)

[授業外学習(予習・復習)等]

Weekly homework exercises. 毎週、宿題を出題する。

(その他(オフィスアワー等))

同講師による後期の哲学演習の履修もおすすめする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET01 25141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 大西 琢朗 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目											
[授業の概要・目的]											
<p>This course aims to furnish students with basics in logical topics which are required in reading and writing papers in philosophy. It will cover the theory of strict implication, intuitionist logic, many-valued logic, relevant logic, and related philosophical debates.</p> <p>現代哲学の論文を読み、書くために必要とされる論理学の基礎を習得する。厳密含意の理論、直観主義論理、多値論理、関連性論理、および関連する哲学的議論について学ぶ。</p>											
[到達目標]											
<p>To master basic skills to deal with logic used in philosophy papers. To obtain broad knowledge about various logical systems and related philosophical issues.</p> <p>哲学の論文で用いられる論理を扱うための基礎的なスキルを習得する。多様な論理体系とそれらに 関係する哲学的な問題について、幅広い知識を獲得する。</p>											
[授業計画と内容]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 導入 2. Strict implication 厳密含意の理論 (1) 3. Strict implication 厳密含意の理論 (2) 4. Strict implication 厳密含意の理論 (3) 5. Intuitionist logic 直観主義論理 (1) 6. Intuitionist logic 直観主義論理 (2) 7. Intuitionist logic 直観主義論理 (3) 8. Intuitionist logic 直観主義論理 (4) 9. 演習 10. Many-valued logic 多値論理(1) 11. Many-valued logic 多値論理(2) 12. Relevant logic 関連性論理(1) 13. Relevant logic 関連性論理(2) 14. Relevant logic 関連性論理(3) 15. Relevant logic 関連性論理(4) 											
[履修要件]											
特になし											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

哲学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

Your final grade will be evaluated by your scores on homework exercises and a term paper.
宿題と学期末のレポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

G.Priest 『An Introduction to Non-classical Logic (2nd edition)』 (Cambridge University Press) (購入の必要はありません。)

[授業外学習(予習・復習)等]

Weekly homework exercises. 毎週、宿題を出題する。

(その他(オフィスアワー等))

同講師による前期の哲学演習を履修していることが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		出口 康夫 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Philosophy of Self I									
【授業の概要・目的】											
<p>What is self? This has been among the most important questions for the Western and Eastern philosophies for millennia. Philosophical discussions on self can provide the basis for those in psychology, cognitive science, sociology and many other disciplines. This seminar will explore contemporary Western discussions on self as well as traditional and modern Eastern views on it. As for the contemporary Western discussion, the seminar will focus on views on so-called 'weak self', proposing its new version; self-as-we.</p>											
【到達目標】											
<p>Students can acquire up-to-date philosophical discussions in such areas as metaphysics, philosophy of mind and action, phenomenology and analytic Asian philosophy, and acquire skills of philosophical argumentation, critical reading of philosophical texts, articulation and presentation of their own ideas.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to philosophy of Self 2 An East Asian traditional view on Self 3 Contemporary theories on Self 4 Contemporary theories on Action and Agency 5 Contemporary theories on Autonomy 6 Contemporary theories on Joint/Collective Action 7 Contemporary theories on Joint/Collective Responsibility 8 Environmental Philosophy and Self 9 Self and Body I 10 Self and Body II 11 Entrustment and Distribution of Agency I 12 Entrustment and Distribution of Agency II 13 Summary 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Report 50% Performances in classes 50%											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

Students are expected to attend each session after having read all materials for discussions.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 1 2

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		出口 康夫 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Philosophy of Self II									
【授業の概要・目的】											
<p>What is self? This has been among the most important questions for the Western and Eastern philosophies for millennia. Philosophical discussions on self can provide the basis for those in psychology, cognitive science, sociology and many other disciplines. This seminar will explore contemporary Western discussions on self, especially theories on 'weak self' and provide an alternative view; self-as-we. Though being a continuation of Philosophy of Self I in the first semester, this seminar is designed for students who didn't attend the first semester seminar as well as who did.</p>											
【到達目標】											
<p>Students can acquire up-to-date philosophical discussions in such areas as metaphysics, philosophy of mind, collective agency and responsibility, environmental ethics, phenomenology and analytic Asian philosophy, and acquire skills of philosophical argumentation, critical reading of philosophical texts, articulation and presentation of their own ideas.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 Introduction to philosophy of Self 2 Self-as-We I: Its Structure 3 Self-as-We II: Why is 'we' self? 4 Self-as-We III: Self and Action 5 Self-as-We IV: Heterogeneous Self 6 Self-as-We V: Joint/Collective Action 7 Self-as-We VI: Existential Solitude 8 Formal Metaphysics of Self-as-We 9 Ethics of Self-as-We I: What is Goodness? 10 Ethics of Self-as-We II: Joint/Collective Responsibility 11 Ethics of Self-as-We III: Environmental Ethics 12 Self-as-we & Contradiction 13 Summary</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Report 50% Performances in classes 50%											
【教科書】											
使用しない											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

Students are expected to attend each class after having read all the materials for discussions.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		カルフォルニア州立大学 ノースリッジ校 教授 八木沢 敬 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期不定	曜時間	水(日曜は)リカ参照	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目	Perspectivalism										
【授業の概要・目的】											
<p>This course will cover core topics in a broad philosophical stance called "perspectivalism" with an eye towards helping students acquire solid background in the fundamentals of analytic philosophy to maximize the quality of their study in all areas of philosophy.</p> <p>According to perspectivalism, we are inescapably situated in a particular spatial, temporal, and modal locations with an inherent first-person viewpoint so that we have no choice but to access reality from those particular locations and the viewpoint. Even though perspectivalism does not entail that those spatial, temporal, and modal locations and the first-person viewpoint impose metaphysical--as opposed to epistemic--constraints on reality, there is considerable confusion in the philosophical literature about this. We will try to avoid the confusion and gain as clear an understanding of perspectivalism as we can.</p>											
【到達目標】											
<p>We shall aim to obtain deep and accurate mastery of the contemporary analytic philosophical method by studying various connected topics pertaining to perspectivalism. We shall strive to cultivate philosophical and linguistic abilities to enable us to engage in intellectual discussion of the highest degree of sophistication in English.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>We will read several articles, which are distributed in class by the instructor. They will likely include the following (1 - 3, 5 to be covered in the first term, and 4, 6 - 9 in the second) :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Anscombe, G. E. M., 1975, "The First Person," in S. Guttenplan (ed.), <i>Mind and Language</i>: Wolfron College Lecfures 1974 (Oxford University Press). 2. Bermudez, J. L., 2005, "Evans and the Sense of 'I'," in Bermudez (ed.), <i>Thought, Reference, and Experience: Themes From the Philosophy of Gareth Evans</i>, (Clarendon Press): 164 - 94. 3. Devitt, M., 2013, " The Myth of the Problematic De Se, " in N. Feit and A. Capone (eds.), <i>Attitudes De Se: Linguistics, Epistemology, Metaphysics</i>, (CSLI Publications): 133-62. 4. Hoerl, C., 2015, " Tense and the Psychology of Relief, " <i>Topoi</i> 34: 217-31. 5. Lewis, D., 1979, "Attitudes De Dicto and De Se," <i>The Philosophical Review</i> 88-4: 513-43. 6. Ludlow, P., 2016, "Tense, Perspectival Properties, and Special Relativity", <i>Manuscrito</i> 39-4: 49-74. 7. Meyer, U., 2016, "Tense, Propositions, and Facts," <i>Synthese</i> 193-11: 3691-99. 8. Ninan, D., 2016, "What is the Problem of De Se Attitudes?" in M. Garcia-Carpintero and S. Torre (eds.), <i>About Oneself: De Se Thought and Communication</i>. 9. Prosser, S., 2015, "Why Are Indexicals Essential?," <i>Proceedings of the Aristotelian Society</i> 115: 211-33. <p>This list of readings is tentative and subject to change at any point.</p> <p>Below is a provisional course schedule for June - August 2019, subject to change at any time:</p>											
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----											

哲学(演習 I) (2)

06/18 Anscombe
06/19 Anscombe
06/20 Anscombe
06/25 Anscombe
06/26 Bermudez
06/27 Bermudez
07/02 Bermudez
07/03 Buffer Day
07/04 Lewis
07/16 Lewis
07/17 Lewis Writing Assignment Announced
07/18 Lewis
07/23 Devitt
07/24 Devitt
07/25 Devitt
08/15 Not a Class Day: Writing Assignment due

【履修要件】

Ability to use English, in listening, speaking, reading, and writing.

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Term paper and participation in class discussion.

【教科書】

Articles made available to the students by the instructor. See (授業計画と内容) above.

【参考書等】

(参考書)

The following entries in Stanford Encyclopedia of Philosophy (online)
<https://plato.stanford.edu/> :

- (1) The Experience and Perception of Time (Robin Le Poidevin)
- (2) Actualism (Christopher Menzel)
- (3) Representational Theories of Consciousness (William Lycan)

【授業外学習(予習・復習)等】

Read the text, and be prepared to ask questions and express opinions during class discussion.

Here are three useful links:

James Pryor 's Guidelines on Reading and Writing Philosophy:

哲学(演習 I) (3)へ続く

哲学(演習Ⅰ) (3)

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Angela Mendelovici ' s Sample Philosophy Paper:

https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/

(その他 (オフィスアワー等))

You are encouraged to ask questions inside and outside the classroom, in person or via email. Office hours are held by appointment; email me to make an appointment. All discussion in class and other communication concerning this course should be conducted in English. Do not be afraid to make a mistake (linguistic or philosophical). Keep a positive attitude about participation and speak up! Silence is NOT golden.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目	Formal tools for philosophy										
【授業の概要・目的】											
<p>Much of the contemporary philosophical literature in the analytic tradition assumes a basic understanding of mathematical logic, set theory, and probability theory. This course introduces to humanities students, with no tears, the minimum formal skills essential for doing philosophy.</p>											
【到達目標】											
<p>* To learn the basic formal skill for doing philosophy. * To understand the role of mathematical tools in contemporary philosophical discussions. * To nurture the familiarity with mathematical thinking.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>We will use Eric Steinhart ' s More Precisely as the main textbook, and occasionally refer to other texts if necessary. The book consists of 8 chapters, and we will spend one to two weeks for each chapter. Students seeking credits are required to do at least one presentation during the semester. All students are required to read the text and prepare comments or questions in advance.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Sets 2. Relations 3. Machines 4. Semantics 5. Probability 6. Utilitarianism 7. From the Finite to the Infinite 8. Bigger Infinities 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>Presentation, participation to in-class discussion, and a final exam. (NB: the final exam is a necessary, but NOT sufficient condition for credits).</p>											
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

Eric Steinhart 『More Precisely』 (Broadview press)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学習 (予習・復習) 等]

Students are required to carefully read assigned texts and prepare comments before class.

(その他 (オフィスアワー等))

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 1 5

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Epistemology									
【授業の概要・目的】											
Ever since Socrates, epistemology has been one of the central concerns of philosophers. What do we know, and how can we justify our knowledge? This course introduces students the contemporary literature and discussions on epistemology in the analytic tradition.											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> * To understand the main issues and positions in the contemporary epistemology. * To be able to read and analyze philosophical writings. * To nurture the ability to discuss philosophical topics. 											
【授業計画と内容】											
We plan to cover the following topics, but the order and topics may be changed depending on the progress of the course and students' interest.											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction [1 week] 2. The modern "epistemological turn " and the rise of skepticism [1 week] 3. Internalism [3 weeks] 4. Externalism [3 weeks] 5. Pragmatism [2 weeks] 6. Contemporary topics [ea. 1-2 weeks] <ul style="list-style-type: none"> * Naturalism * Social epistemology * Feminist epistemology * Virtue epistemology * Formal epistemology * etc. 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
Presentation, participation to in-class discussion, and a term paper. (NB: the final paper is a necessary, but NOT sufficient condition for credits).											
【教科書】											
Alvin Goldman et al. 『Epistemology』 (Oxford UP) Ernest Sosa 『Epistemology』 (Princeton UP)											
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学習(予習・復習)等]

Students are required to read assigned texts closely before class and prepare comments and/or questions.

(その他(オフィスアワー等))

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET01 35143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		カルフォルニア州立大学 ノースリッジ校 教授 八木沢 敬 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目	Perspectivalism										
【授業の概要・目的】											
<p>This course will continue our investigations of the first semester and cover core topics in a broad philosophical stance called "perspectivalism" with an eye towards helping students acquire solid background in the fundamentals of analytic philosophy to maximize the quality of their study in all areas of philosophy.</p> <p>According to perspectivalism, we are inescapably situated in a particular spatial, temporal, and modal locations with an inherent first-person viewpoint so that we have no choice but to access reality from those particular locations and the viewpoint. Even though perspectivalism does not entail that those spatial, temporal, and modal locations and the first-person viewpoint impose metaphysical--as opposed to epistemic--constraints on reality, there is considerable confusion in the philosophical literature about this. We will try to avoid the confusion and gain as clear an understanding of perspectivalism as we can.</p>											
【到達目標】											
<p>We shall aim to obtain deep and accurate mastery of the contemporary analytic philosophical method by studying various connected topics pertaining to perspectivalism. We shall strive to cultivate philosophical and linguistic abilities to enable us to engage in intellectual discussion of the highest degree of sophistication in English.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>We will read several articles, which are distributed in class by the instructor. They will likely include the following (1 - 3 and 5 to be covered in the first term; 4 and 6 - 9 in the second) :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Anscombe, G. E. M., 1975, "The First Person," in S. Guttenplan (ed.), <i>Mind and Language</i>: Wolfron College Lecfures 1974 (Oxford University Press). 2. Bermudez, J. L., 2005, "Evans and the Sense of 'I'," in Bermudez (ed.), <i>Thought, Reference, and Experience: Themes From the Philosophy of Gareth Evans</i>, (Clarendon Press): 164 - 94. 3. Devitt, M., 2013, " The Myth of the Problematic De Se, " in N. Feit and A. Capone (eds.), <i>Attitudes De Se: Linguistics, Epistemology, Metaphysics</i>, (CSLI Publications): 133-62. 4. Hoerl, C., 2015, " Tense and the Psychology of Relief, " <i>Topoi</i> 34: 217-31. 5. Lewis, D., 1979, "Attitudes De Dicto and De Se," <i>The Philosophical Review</i> 88-4: 513-43. 6. Ludlow, P., 2016, "Tense, Perspectival Properties, and Special Relativity", <i>Manuscrito</i> 39-4: 49-74. 7. Meyer, U., 2016, "Tense, Propositions, and Facts," <i>Synthese</i> 193-11: 3691-99. 8. Ninan, D., 2016, "What is the Problem of De Se Attitudes?" in M. Garcia-Carpintero and S. Torre (eds.), <i>About Oneself: De Se Thought and Communication</i>. 9. Prosser, S., 2015, "Why Are Indexicals Essential?," <i>Proceedings of the Aristotelian Society</i> 115: 211-33. <p>This list of readings is tentative and subject to change at any point.</p> <p>Below is a provisional course schedule for December 2019 - February 2020, subject to change at any time:</p>											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習 I)(2)

12/10 Ninan
12/11 Ninan
12/12 Ninan
12/17 Meyer
12/18 Hoerl
12/19 Hoerl
12/24 Buffer Day
12/25 Prosser
12/26 Prosser
01/07 Prosser, Writing Assignment Announced
01/08 Ludlow
01/09 Ludlow
01/14 Ludlow
01/15 Ludlow
01/16 Ludlow
02/04 or 24: Not a Class Day, Writing Assignment due

【履修要件】

Ability to use English in listening, speaking, reading, and writing.

【成績評価の方法・観点及び達成度】

Term paper and participation in class discussion.

【教科書】

Articles made available to the students by the instructor. See (授業計画と内容) above.

【参考書等】

(参考書)

The following entries in Stanford Encyclopedia of Philosophy (online)
<https://plato.stanford.edu/> :

- (1) The Experience and Perception of Time (Robin Le Poidevin)
- (2) Actualism (Christopher Menzel)
- (3) Representational Theories of Consciousness (William Lycan)

【授業外学習(予習・復習)等】

Read the text, and be prepared to ask questions and express opinions during class discussion.

Here are three useful links:

James Pryor ' s Guidelines on Reading and Writing Philosophy:

哲学(演習 I)(3)へ続く

哲学(演習Ⅰ)(3)

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Angela Mendelovici ' s Sample Philosophy Paper:

https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/

(その他 (オフィスアワー等))

You are encouraged to ask questions inside and outside the classroom, in person or via email. Office hours are held by appointment; email me to make an appointment. All discussion in class and other communication concerning this course should be conducted in English. Do not be afraid to make a mistake (linguistic or philosophical). Keep a positive attitude about participation and speak up! Silence is NOT golden.

オフィスの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 1 7

科目ナンバリング		U-LET01 35150 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 犬飼 由美子 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2019・ 前期不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Self, World and Interdependence in Buddhist and Early Modern Philosophy									
[授業の概要・目的]											
These lectures explore the idea that the self (understood as an enduring subject of experience and agent of actions) and the world (understood as the totality of ordinary middle-sized objects) are jointly constructed in mutual interdependence. Our explorations will come by way of an examination of some key themes found in early modern philosophy and in Buddhist thought.											
[到達目標]											
Students will learn various theories of the self and its relation to the world from Buddhist and Early Modern traditions. By exploring them, students will learn to do fruitful comparative investigations.											
[授業計画と内容]											
1. Introduction 2. Early Modern Philosophy I 3. Early Modern Philosophy II 4. Early Modern Philosophy III 5. Buddhist Philosophy I 6. Buddhist Philosophy II 7. Buddhist Philosophy III 8. Warp-up											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
TBA											
[教科書]											
授業中に指示する To be distributed in class											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
Read assigned readings prior to class.											
(その他(オフィスアワー等))											
TBA											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET02 25200 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古代哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中畑 正志 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋古代哲学史講義									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は西洋古代哲学史について基礎的な知識を提供することにある。こんにち「哲学」と呼ばれる営みは古代ギリシアにおいて形成された。その形成の現場に遡って、哲学とはどのような営みであったのか、その原型を確認し、現代の哲学のあり方を再考する。											
【到達目標】											
「哲学」と呼ばれる営みが形成されるにいたるプロセスを理解し、こんにちの哲学のあり方を考察する手がかりを得る。さらに、哲学の諸問題が形成されるに至った経緯や前提を解明する歴史的な分析能力、さらに西洋古代から伝承された資料の扱い方について、文献学の基礎的素養も養う。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。											
第1回 西洋古代哲学への一般的案内(1) 古代哲学の時間的・空間的スコープ											
第2回 西洋古代哲学への一般的案内(1) 古代哲学の歴史記述の問題											
第3回 ミレトスで何が起きたか(1)											
第4回 ミレトスで何が起きたか(2)											
第5回 ピタゴラス 神話と実像											
第6回 批判的思考とその表現(1) ヘラクレイトス											
第7回 批判的思考とその表現(1) クセノファネス											
第8回 論理の破壊力(1) パルメニデス											
第9回 論理の破壊力(2) ゼノン											
第10回 世界の再構築の試み エンペドクレス											
第11回 世界の再構築の試み アナクサゴラス											
第12回 世界の再構築の試み 原子論											
第13回 契約教育者たち											
第14回 相対主義											
第15回 弁論の力の演示											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
定期試験80点 + 授業中に課す小レポート 1回20点											
----- 系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
内山勝利編 『哲学の歴史 1』 (中央公論新社)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業内で事前に読むべき資料などの配付するので、予習しておくこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET02 25202 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古代哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中畑 正志 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋古代哲学史講義 II									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は西洋古代哲学史について基礎的な知識を提供することにある。こんにち「哲学」と呼ばれる営みは、ソクラテスとプラトンを通じて、思想的にも社会的にも確立されるに至った。彼らの思索とその問題をたどり、哲学の一つの基本的あり方を見届ける。											
【到達目標】											
ソクラテスの対話という方法、あるいはプラトンによる対話篇という執筆形式などの思考のスタイルと、イデア論や魂についての見解という思考の内容のそれぞれについて深く理解するとともに、両者の関連について考察する力を養う。											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について講述する。 第1回 「ソクラテス」問題は問題か 第2回 対話と真理(1) 第3回 対話と真理(2) 第4回 プラトンの「生の選び」 第5回 アカデメイア 第6回 なぜ対話篇なのか 第7回 イデア論の成立(1) 第8回 イデア論の成立(2) 第9回 世界の価値性と規範性 第10回 洞窟の内と外 第11回 知の可能性に賭ける(1) 第12回 知の可能性に賭ける(2) 第13回 魂の構造(1) 第14回 魂の構造(2) 第15回 プラトニズムの行方											
【履修要件】											
西洋古代哲学史講義Iを履修していることがきわめて望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
定期試験80点 + 授業内で課す小レポート 1回20点											
----- 系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋古代哲学史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
神崎繁他編 『西洋哲学史 I』 (講談社)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業内で事前に読むべき資料などの配付するので、予習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 2 0

科目ナンバリング		U-LET03 15204 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋中世哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋中世哲学史講義 I									
【授業の概要・目的】											
西洋中世哲学の歴史の大まかな流れについての知識を得るとともに、主要な哲学者の教説について理解することを目的とする。中世哲学は古代哲学やキリスト教と深く連関しているので、それらとの関係についての歴史的な理解を深めることも目標とされる。											
【到達目標】											
古代末期から十二世紀までの西洋哲学史の大まかな流れを理解し、説明できるようになる。この時期の主要な哲学者・神学者の中心思想を理解し、説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第 1回:イントロダクション：中世哲学史の時代区分と学ぶ意義 第 2回:アウグスティヌス(1) 生涯と主要著作、魂・認識論 第 3回:アウグスティヌス(2) 神 第 4回:アウグスティヌス(3) 倫理・政治思想 第 5回:ボエティウス(1) 生涯と主要著作、分有論 第 6回:ボエティウス(2) 普遍の問題 第 7回:エリウゲナ(1) 生涯と主要著作、『神の予定について』 第 8回:エリウゲナ(2) 『ペロフュセオン』 第 9回:アンセルムス(1) 生涯と主要著作、倫理思想 第 10回:アンセルムス(2) 神の存在論的証明 第 11回:十二世紀の思想概観 第 12回:アベラール(1) 生涯と主要著作、倫理思想 第 13回:アベラール(2) 普遍論争 第 14回:シャルトル学派 第 15回:フィードバック：期末試験や授業内容についての質問受付											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
定期試験による											
系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)へ続く											

系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)

[教科書]

ほぼ毎回プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

配布する資料を読んでおく。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 2 1

科目ナンバリング		U-LET04 25205 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋近世哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		大河内 泰樹 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2,3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋近世・近代哲学史概説									
【授業の概要・目的】											
西洋近世・近代哲学史を概観する。担当者の専門からこの概観はドイツ、とくにカント及びドイツ観念論を中心としたものとなる。											
【到達目標】											
カントの批判哲学、ドイツ観念論を中心に哲学史を理解し知識を身に付ける。											
【授業計画と内容】											
第1回	ガイダンス	西洋哲学史とは？近世・近代とは？									
第2回	デカルト1										
第3回	デカルト2										
第4回	スピノザ1										
第5回	スピノザ2										
第6回	ライプニッツ1										
第7回	ライプニッツ2										
第8回	ヴォルフ学派										
第9回	カント(批判前期)										
第10回	カント(『純粹理性批判』1)										
第11回	カント(『純粹理性批判』2)										
第12回	カント(実践哲学)										
第13回	カント(宗教論)										
第14回	カント(『判断力批判』)										
第15回	カント(『判断力批判』と自然哲学)										
第16回	カントとフィヒテの間										
第17回	ヤコービ										
第18回	フィヒテ(初期知識学)										
第19回	フィヒテ(『自然法の基礎』)										
第20回	シェリング(初期及び自然哲学)										
第21回	ヘーゲル(フランクフルト期)										
第22回	ヘーゲル(イエナ期)										
第23回	ヘーゲル(『精神現象学』1)										
第24回	ヘーゲル(『精神現象学』2)										
第25回	ヘーゲル(『大論理学』)										
第26回	後期フィヒテと後期シェリング										
第27回	ヘーゲル(『法哲学』)										
第28回	初期マルクス										
第29回	『資本論』の哲学										
第30回	まとめ										
系共通科目(西洋近世哲学史)(講義) (2)へ続く											

系共通科目(西洋近世哲学史)(講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

定期試験（筆記）。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

各自の関心に応じて講義内容を踏まえて自主的に学習し深めること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 2 2

科目ナンバリング		U-LET03 15206 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋中世哲学史)(講義) History of Western Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		西洋中世哲学史講義 II									
【授業の概要・目的】											
前期「西洋中世哲学史講義 I」の続き。西洋中世哲学の歴史の大まかな流れについての知識を得るとともに、十三世紀以降の主要な思想家の思想について理解することを目的とする。											
【到達目標】											
十三世紀のアリストテレス導入から十四世紀までの西洋哲学史の大まかな流れを理解し、説明できるようになる。 この時期の主要な思想家の中心思想を理解し、説明できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション：十三世紀の思想的傾向性と歴史的背景 第2回：アルベルトゥス・マグヌス 第3回：トマス・アキナス(1)生涯と主要著作、存在論 第4回：トマス・アキナス(2)神の存在証明 第5回：トマス・アキナス(3)認識論 第6回：トマス・アキナス(4)倫理学・政治思想 第7回：ボナヴェントゥラ 第8回：「ラテン・アヴェロエス主義」 第9回：14世紀の思想的傾向性と歴史的背景 第10回：エックハルト 第11回：ドゥンス・スコトゥス(1)生涯と主要著作、形而上学 第12回：ドゥンス・スコトゥス(2)認識論、倫理学 第13回：オッカム(1)生涯と主要著作、論理学と形而上学 第14回：オッカム(2)認識論、倫理学 第15回：フィードバック：期末試験や授業内容についての質問受付											
【履修要件】											
西洋中世哲学史Iを前提として説明も多いので、西洋中世哲学史Iを先に履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
定期試験による。											
【教科書】											
ほぼ毎回プリントを配布する。											
----- 系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋中世哲学史)(講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

配布する資料を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 2 3

科目ナンバリング		U-LET02 35230 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中畑 正志 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		形而上学の原型・歴史・現在									
【授業の概要・目的】											
形而上学とは、もともとどのような知であったのか。そして、どのように継承され、現在はいかなる知であるのか。形而上学の原型と現在を再検討する。											
【到達目標】											
形而上学の原型と歴史、そして現在を再検討することを通じて、歴史的視点と理論的視点から、現代の分析形而上学の諸問題を含めて、哲学の基本問題を平明に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進行や聴講者の理解などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>「形而上学」という概念の形成（2週） 「形而上学」という概念の歴史（2週） 「形而上学」の成立の謎（2週） 「形而上学」の原像と展開(1) 言語・概念・カテゴリー（3週） 「形而上学」の原像と展開(2) 種、形相、ソータル（4週） 「形而上学」の原像と展開(3) デュナミスとエネルゲイア（3週） 「形而上学」の原像と展開(4) 神（2週） 形而上学の否定と復興（2週） 現代形而上学の展開(1)（3週）オントロジー 現代形而上学の展開(2)（2週）因果性 現代形而上学の諸問題（3週） 形而上学と生（2週）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート（詳細については授業で説明する）。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業内で事前に読むべき資料などを配付するので、予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET02 35230 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プラトンの形而上学説の再構築 その一									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシア哲学を代表するプラトンは「イデア論」を提唱した人として広く認知されています。しかしこのイデア論の内実については、基礎的なレベルで学者たちの同意が成立していません。そもそもほとんどの研究者は、アリストテレスに依拠してそれを「イデア論」と呼び、またイデアとはしかじかのものだという想定にもとづいてプラトンの全著作からイデア論的著作（中期著作）を選別しています。しかし本講義の講師は、この基本方針こそプラトンの形而上学説に関して基礎的なレベルで同意が成立しない原因だと考えています。そこで本講義では「イデア論」という用語が成立する前の段階、そしてイデア論的著作が選別される前の段階にいったん差し戻して、プラトンの全著作から形而上学説を再構築し直すことを試みます。</p> <p>本年度は、この試みの準備段階として、上記二つの基本方針とそれに関わる問題を明確に把握することを目的とします。</p>											
【到達目標】											
西洋哲学史に深刻な影響を与えたプラトンの形而上学説をその基本から考え直すことを通じて、基礎的な形而上学的研究を理解し、自分でも検討できるようになること。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画に従って講義を進めます。ただし受講者の理解の程度を考慮して、必要に応じた変更を加えながら話を進めたいと思います。</p> <p>イントロダクション（1週） 「イデア論」とは何か 現代の学者たちの見解（2週） プラトンの著作年代順序の概説（2週） イデア論的著作について（2週） アリストテレスの報告(1)：概説（2週） アリストテレスの報告(2)：「離在」概念の二つの解釈（2週） アリストテレスの報告(3)：イデアの普遍性と個別性（2週） プラトンの「エイドス」「イデア」(1)：概説（3週） プラトンの「エイドス」「イデア」(2)：定義探究（2週） プラトンの「エイドス」「イデア」(3)：『パイドン』『国家』（3週） プラトンの「エイドス」「イデア」(4)：分割と総合（2週） 思考と感覚（2週） 普遍と原範型（2週） 関係性と離在性（2週） まとめ（1週）</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

期末レポートによって評価します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

授業内で参考書目を指示し、必要な資料を配付しますので、必要に応じて予習をして講義に臨んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET02 35231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学 人間学部 准教授 西村 洋平 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		行為をめぐる古代の議論とその現代的意義の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>「行為」は、認識、欲求、自由意志、心的因果、言語、規範など様々な哲学・倫理学的問題を横断する重要なテーマである。この講義の目的は、行為をめぐる古典的テクストを読み解きながら、哲学史における行為論の出発点とその展開を考察することにある。同時に、現代の哲学者たちがそうした古典をどのように解釈し、何を引き出しているのか参照しながら、古代の議論の現代的意義について検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>行為をめぐる古代の議論を学び、その哲学史的展開の説明ができるようになる。 関連する哲学・倫理学的問題についての理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画で講義を進めるが、進み具合に応じて、受講生の理解を得たうえでプランを変更することがある。</p> <p>第1回 イントロダクション：「行為」はどのようなテーマか 第2回 ソクラテスのパラドックス：だれも進んで悪い行為をしない 第3回 プラトンの行為論とその存在論的背景：能動と受動、行為を説明する原因 第4回 プラトンの魂の三区説（1）テクストを読む 第5回 プラトンの魂の三区説（2）ディスカッション 第6回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』を読む（1）：行為はどのように評価できるか（自発性の議論） 第7回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』を読む（2）：実践理性 第8回 アリストテレス『ニコマコス倫理学』を読む（3）：抑制のなさ（アクラシア）を説明する 第9回 ストア派の行為論とソクラテスの伝統 第10回 行為不可能性議論：行為を引き起こす表象と同意をめぐる懐疑主義者の立場 第11回 行為の自由をめぐるヘレニズム哲学の論争 第12回 新プラトン主義者プロティノスの行為論 第13回 その後の展開・補足 第14回 総括 第15回 レポートの返却とフィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>議論への積極的な参加（20点）、コメントシート（4回x5点=20点）、レポート（60点）により評価する。</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

レポートは、行為をめぐる古代の議論とその発展、関連する哲学的・倫理学的問題を正しく理解して考察ができているかを評価する。授業で扱った内容を把握したうえで、独自の議論ができているものについては高い点を与える。

[教科書]

扱うテキスト（おもに翻訳を用いる）については毎回プリントを配布する。参考文献についてはその都度、授業内で紹介する。

[参考書等]

（参考書）

関連するテーマに入る前に、使用するテキストと合わせて紹介する。

[授業外学習（予習・復習）等]

事前に配布するテキストを読んで、与えられる課題について考えてくること。

（その他（オフィスアワー等））

積極的な質問と活発な議論を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET03 35234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 上枝 美典 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスのキリスト教的形而上学									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は西洋中世哲学史の基礎的な知識を提示することにある。とくに、13世紀ヨーロッパにおいて「哲学」という営みがトマス・アキナスの著作と活動を通じてどのように確立されたのかをたどり、哲学的思考の成り立ちを考察する。											
【到達目標】											
トマス・アキナスの理論の基本をなす「存在」にかんする立場がどのように形成されたかを理解し、その視点から哲学史を吟味し、考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい、受講者の関心などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. トマスにおける基本的なアリストテレス的存在論の枠組み (3回) 2. トマスによるアリストテレス的存在論の拡張 (3回) 3. 三位一体論における存在の取り扱い (3回) 4. キリスト論における存在の取り扱い (3回) 5. 「存在」のトマスの総合とその意義 (3回) 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
質問、討論、コメントなどによる授業への積極的な参加 (20点)、最終レポート (1回、80点)。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。 ・ 最終レポートは必須とする。 											
【教科書】											
講義資料はWEB上に掲載するので、受講者には、各自が所有する情報端末 (スマートフォン、タブレット、ノートパソコン等) で資料を読むことが求められる。ただし、情報端末を所持しないなどの理由で、WEB上の資料にアクセスできない受講者には個別に対応する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業前には、直前の授業で指示された資料を予め読んでおくこと。
授業後は、その日の議論を整理し、資料と照合して理解を確実なものにすること。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間の前後に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET03 35234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスの感情論									
【授業の概要・目的】											
主として『神学大全』の第二部の一に基づき、トマス・アキナスの感情 (passio) 論を考察する。今年、感情についての一般論を押さえたうえで、愛と憎しみ、欲情と快の感情を扱う。											
【到達目標】											
トマス・アキナスが、感情と道徳的善悪の関係をどのように考えていたかを理解する。また、各感情をどのようなものとして分析していたかを理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、文献案内、感情(passio)の基体 2. 感情相互の相違 3. 感情における善・悪 4. 感情相互の序列 5. 愛 6. 愛の原因 7. 愛の結果 8. 憎しみ 9. 欲情 10. 快それ自体 11. 快の原因 12. 快の結果 13. 快と善悪 14. まとめ 15. フィードバック：授業内容についての質問受付 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

トマス・アクィナス 『神学大全 第十分冊』 (創文社) ISBN:4-423-39310-7
その他の文献は授業中に紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

講義で扱う『神学大全』の箇所について事前に読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET04 35236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		大河内 泰樹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヘーゲルと現代哲学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
ヘーゲルの哲学は、20世紀、21世紀の哲学においてたびたび批判されながらも、同時に依然として重要な哲学理論の源泉であり続けている。本授業では、そうした中から、批判理論、フランス現代哲学、分析哲学におけるヘーゲル受容を検討する。											
【到達目標】											
ヘーゲルを座標軸として、現代哲学のマッピングを得ることができる。 古典哲学研究と現代哲学との接点となる論点について理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 反ヘーゲルの世紀 第2回 フランス現代思想の出発点としてのヘーゲル 第3回 コジェーヴとイポリット 第4回 サルトル 第5回 フーコーとドゥルーズのヘーゲル批判 第6回 デリダとナンシー 第7回 批判理論とポストモダン 第8回 ハーバーマスにおけるカント主義 第9回 ホネット承認論 第10回 ホネットのヘーゲル受容 第11回 多文化主義と承認 第12回 ブランダムのプラグマティズム 第13回 マクダウェルのヘーゲル主義？ 第14回 ヘーゲルの行為論？ 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートにて評価する。											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

個々の関心に基づいて授業内容を深めることが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET04 35236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		高野山大学 文学部 教授 山脇 雅夫 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヘーゲルの哲学的三位一体論									
【授業の概要・目的】											
<p>『精神の現象学』 「序論」において、「実体は主体であるということは、絶対者を精神とする表象に表現されている」とされ、またその表象は「近代とその宗教」に属するとされている。この場合の精神は三位一体の位格の一つ、「聖霊」にあたり、ヘーゲルが三位一体論を自分の哲学の中心に取り入れていたことが知られる。もちろんそれは、キリスト教の教理そのままではなく、ヘーゲル独自の解釈を受けた哲学的三位一体論とでもいべきものになっている。それは、同一哲学的無世界論でも、世界の存在しか認めない自然主義でもなく、世界に内在する超越の哲学である。しかしそれが、「近代とその宗教に属する」とされるのはどういうことだろうか？</p> <p>この講義では、『精神の現象学』と『大論理学』というヘーゲルの二つの主著を中心に、ヘーゲルの哲学的三位一体論の内実を説明する。そして、それが、ヘーゲルの考える近代主体性の構造の理論に他ならないことを明らかにすることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>ヘーゲルの哲学的三位一体論の構造を理解する。</p> <p>ヘーゲルの考える近代主体の存在構造を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回、『精神の現象学』 「序論」にみる「実体 = 主体」テーゼ</p> <p>第2回、実体 = 主体テーゼの背景 ヤコービの直接知の哲学</p> <p>第3回、実体 = 主体テーゼの背景 シェリングの同一哲学</p> <p>第4回、実体 = 主体テーゼと三位一体論</p> <p>第5回、『哲学史講義』におけるベーメの三位一体論</p> <p>第6回、『精神の現象学』 「自己意識」における「精神」の基本構造</p> <p>第7回、『精神の現象学』 「理性」における近代主体の構造</p> <p>第8回、『精神の現象学』 「理性」における言葉と自己</p> <p>第9回、『精神の現象学』 「良心」における言葉と神</p> <p>第10回、『大論理学』における主体性の構造 あるものと他もの</p> <p>第11回、『大論理学』における主体性の構造 反省の生成</p> <p>第12回、『大論理学』における主体性の構造 相互作用と主体性</p> <p>第13回、『大論理学』における主体性の構造 推論構造</p> <p>第14回、主体性と人格性</p> <p>第15回、精神としての絶対者</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義) (2)

[履修要件]

ドイツ語の参考資料を用いるので、ドイツ語が読めることが望ましい。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点50点

レポート50点

評価基準：

可：ヘーゲルの哲学的三位一体論を理解している。

良：ヘーゲルの哲学的三位一体論を理解し、その哲学的意義を説明できる。

優：ヘーゲルの哲学的三位一体論を理解し、それについて自らの見解を展開できる。

[教科書]

事前に講師が作成したプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

[授業外学習(予習・復習)等]

事前に、次回授業で検討するテキスト(ドイツ語)を配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET04 35236 LJ34										
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 植村 玄輝 確認用
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目		フッサールと「超越論的転回」										
【授業の概要・目的】												
<p>この講義では、『論理学研究』（初版1900/01年）から『イデーニ I』（1913年）のあいだにフッサールに生じた思想の発展を、これら二つの著作だけでなくフッサールの関連する講義原稿や研究草稿なども用いながら再構成する。この時期のフッサールの歩みをまずもって「超越論的転回（超越論的現象学への転回）」として捉える（もちろん大筋では間違っていない）標準的なストーリーを概観したうえで、そうした見方に基づく先行研究が取りこぼしてきた重要な細部を拾い上げながら議論を進めていきたい。その際とりわけ重要になるのは、次の4点になるはずである。（a）フッサールは『論理学研究』の成果の何が気に入らなかったのか、（b）その後の「超越論的転回」は学問的形而上学というフッサールが『論理学研究』の以前から掲げていたプロジェクトとどう関係するのか、（c）『イデーニ I』で最初に公式的に表明されるフッサールの超越論的観念論はどのような立場なのか、（d）現象学的還元やエポケーに関する方法論的な話題は、この時期のフッサールを理解するにあたって（どれくらい）重要なのか。</p>												
【到達目標】												
<ul style="list-style-type: none"> ・フッサールの思想の発展に関する標準的なストーリーとそこに残された問題を理解する。 ・フッサール現象学の基礎概念に習熟し、フッサールの議論を批判的な観点を交えながら吟味できるようになる。 												
【授業計画と内容】												
【1日目】												
<ul style="list-style-type: none"> (1) イントロダクション：フッサールの思想の発展に関する標準的なストーリーとその問題点 (2) 形而上学者としてのフッサール (3) 『論理学研究』の統一性と不整合 (i) 												
【2日目】												
<ul style="list-style-type: none"> (4) 『論理学研究』の統一性と不整合 (ii) (5) 『論理学研究』のプログラムの再調整 (1903-1905) (6) 形而上学の基礎部門としての超越論的哲学 (1906/07年冬学期講義) (i) 												
【3日目】												
<ul style="list-style-type: none"> (7) 形而上学の基礎部門としての超越論的哲学 (1906/07年冬学期講義) (ii) (8) 初期超越論的観念論1 (1907-1909) (9) 初期超越論的観念論2 (1907-1909) 												
【4日目】												
<ul style="list-style-type: none"> (10) 『イデーニ I』における初期超越論的観念論の残滓 (i) (11) 『イデーニ I』における初期超越論的観念論の残滓 (ii) (12) 『イデーニ I』における現実性の問題 (i) 												
【5日目】												
<ul style="list-style-type: none"> (13) 『イデーニ I』における現実性の問題 (ii) (14) 現実性と事実性の問題 (1914年もしくは1915年の草稿) 												
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----												

西洋哲学史(特殊講義) (2)

(15) まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートによって評価する。詳しくは初回の授業のときに伝える。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Edmund Husserl 『Husserliana. Edmund Husserl Gesammelte Werke』 (Nijhoff/Kluwer/Springer) (Huaと略記する。どの巻を参照するかは下記のコメントを参照のこと)

Edmund Husserl 『Husserliana Materialien』 (Kluwer/Springer) (Hua Matと略記する。どの巻を参照するかは下記のコメントを参照のこと)

Andrea Staiti (ed.) 『Commentary on Husserl's Ideas I』 (De Gruyter) ISBN:978-3-11-042909-1

Markus Barnard 『Belief and its Neutralization: Husserl's System of Phenomenology in Ideas I』 (SUNY Press) ISBN:978-2711622009

Jean-François Lavigne 『Accéder au transcendantal ? Réduction et Idéalisme transcendantal dans les Idées I de Husserl』 (Vrin) ISBN:978-2711622009

植村玄輝 『真理・存在・意識：フッサール『論理学研究』を読む』 (知泉書館) ISBN:978-4862852526 (アマゾン以外のオンライン書店や版元には在庫がまだある。)

ダン・ザハヴィ 『フッサールの現象学』 (晃洋書房) ISBN:978-4771028920

ベルネ、ケルン、マールバッハ 『フッサールの思想』 (哲書房) ISBN:978-4915922176

Dermot Moran 『Edmund Husserl: Founder of Phenomenology』 (Polity) ISBN:978-0745621210

Verena Mayer 『Edmund Husserl』 (Beck) ISBN:978-3-406-58688-0

Françoise Dastur 『Husserl. Des mathématiques à l'histoire』 (Presses Universitaires de France) ISBN:978-2130471097

佐藤駿 『フッサールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学』 (東北大学出版会) ISBN:978-4861632495

ダン・ザハヴィ 『フッサールの遺産：現象学・形而上学・超越論哲学』 (法政大学出版局) ISBN:978-4588010828

榊原哲也 『フッサール現象学の生成』 (東京大学出版会) ISBN:978-4130160292

Theodor de Bohr 『The Development of Husserl's Thought』 (Nijhoff) ISBN:9789400996915

【Hua/Hua Matについて】

各回の講義で主に参照することになる『フッサール全集』の巻号は以下の通り。

(1) : 特になし

(2) : Hua Mat I, II, III

(3) : Hua XVIII, XIX/1-2

(4) : Hua XVIII, XIX/1-2

西洋哲学史(特殊講義) (3)へ続く

西洋哲学史(特殊講義) (3)

- (5) : Hua Mat III, V
- (6) : Hua XXIV
- (7) : Hua XXIV
- (8) : Hua XVI, XXVI, XXVIII, XXXVI, Hua Mat VII
- (9) : Hua XVI, XXVI, XXVIII, XXXVI, Hua Mat VII
- (10) : Hua III/1
- (11) : Hua III/1
- (12) : Hua III/1
- (13) : Hua III/1
- (14) : Hua XXXVI (Text Nr. 7)
- (15) : 特になし。

『イデーニ I』(Hua III/1)の第2篇と第4編に目を通しておくと、後半の授業について行きやすくなるはずである(同書を通読できればそれが一番だが、第1篇と第3編に関しては、そのつど必要になる範囲で拾い読みするだけでもとりあえずいい。また、みずず書房版の翻訳は底本が異なるのでその点に注意すること。Dahlstromによる英訳 [Hacckett, 2014] を読むという手もある)。同書のコメントリーとしては、Staitiの編著が総じて助けになる(例外あり)。また、BrainardやLavigneによるコメントリー的な著作についても、本講義のなかでいくらか検討する予定である(『イデーニ I』との併読をせずにコメントリーだけを読むことはあまりおすすめできない)。

【その他の文献について】

本講義の第2回から第4回までは、植村『真理・存在・意識』を下敷きにしたものになる予定である。

フッサールにあまり馴染みがない場合、現在のもっともスタンダードな入門書であるザハヴィ『フッサールの現象学』をあらかじめ一読しておくことを薦める。中～上級向けの概説書としては、ベルネ他『フッサールの思想』が必読である(ただしそれなりに難しい本なので、第1章から通読しようと思わず、興味のある章からはじめたほうがいいのかも)。外国語で書かれた入門書・概説書としては、手堅く明晰なMoran、分析哲学に馴染みがある人にはとくに読みやすいであろうMayer(タイトルだけだと判別できないが、ドイツ語)、少し変わった切り口からフッサールの中心問題に迫るDasturを挙げておく。

本講義にとりわけ関係の深い話題についての予備知識を得たい場合は、佐藤『フッサールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学』からはじめて、次にザハヴィ『フッサールの遺産』に進むのがよい。また、榊原『フッサール現象学の生成』の第I部やDe Bohrの著作は、本講義をつうじて批判的に検討する先行研究のうちの代表格である。

その他の文献については授業中に紹介する。

(関連URL)

https://www.dropbox.com/s/2w9718pvfyul0g8/ideen1_2abs_online.pdf?dl=0(『イデーニ I』第2篇の植村による試訳。随時更新される予定。)

<http://ophen.org/series-506>(『フッサール全集(Husserliana)』の一部は、ここから無料で本文をダウンロードできる。)

http://socio-logic.jp/events/201708_phenomenology.php(現象学を出発点とした読書ガイド。)

西洋哲学史(特殊講義) (4)へ続く

西洋哲学史(特殊講義)(4)

[授業外学習(予習・復習)等]

予習：「参考書」欄のコメントを参考にして事前に文献を読んでおく。

復習：授業内容を整理するほか、参照されたフッサールのテキストや二次文献にも目を通す。

(その他(オフィスアワー等))

質問やレポートに関する相談は講義の前後の時間に受け付ける。質問については講義中にしてもらっても構わない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET04 35236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 平井 靖史 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ライブニッツにおける自由と時間の問題									
【授業の概要・目的】											
<p>ライブニッツ解釈において、彼の哲学を決定論の一種と見なして済まず立場がある (Adams (1994), Griffin (2013)など)。ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』も、一定の留保をつけつつも、決定論という言い方を用いている (拙訳、ちくま文庫、二三四頁)。</p> <p>本講義では、自由の問題を、これと密接に関連する、連続創造説、協働説、予定調和説、さらにそこに胚胎されているライブニッツ固有の時間概念の観点から近年の諸解釈を検討しつつ再吟味する。</p>											
【到達目標】											
<p>自由、持続、時間、永遠、自発性、作者性、偶然性といった概念装置が近世の哲学においてどのように議論されてきたか、また現在どのような諸理論が提示され、それらの対立点がどこに存するかを理解できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には以下の計画に沿って進める。ただし、講義の進み具合などに応じて、扱う項目や順序等は変更する。</p> <p>第1回 イン트로ダクション：授業の進め方、文献の紹介、履修上の注意 第2回～第5回 ライブニッツと自由：モナドロジーの基礎、自由の四要素 第6回～第8回 デカルトとスピノザにおける自由：意志と行為と観念の観念 第9回～第12回 創造と同時性の問題：一挙性という時間 第13回～第14回 自発性・作者性・偶然性：時間と自由 第15回 振り返りと総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>レポートにより評価する。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。 また、レポートの諸条件 (分量や書式など) については授業中に指示する。</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

根無一信 『ライプニッツの創世記：自発と依存の形而上学』(慶應義塾大学出版会)

稲岡大志 『ライプニッツの数理哲学』(昭和堂)

以下の論文の問題意識を引き継いでいるので、事前に目を通しておくとよい。

平井靖史「永遠と持続の非推移的同時性　ライプニッツ連続創造説における時間構造について」
『アルケー』第23号、関西哲学会、2015、29-40.

以下は旧いので参考程度に。

「最善世界は個体によって決定されるか」、『福岡大学研究部論集』A：人文科学編第4巻第5号、
福岡大学研究推進部編、2004、71-81.

「同一者の不可識別性について」、『西日本哲学年報』第11号、西日本哲学会、2003、49-63.

「スピノザにおける二つの平行論と観念の観念　必然主義のもとでの倫理学の可能性をめぐる」
、『スピノザーナ：スピノザ協会年報』第3号、スピノザ協会、2001/2002

上の論文に言及されているものの他の参考資料は授業中に紹介す

[授業外学習(予習・復習)等]

適宜、事前に読むべき資料を授業中に配布する。しっかり予習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 3 2

科目ナンバリング		U-LET02 35240 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		中畑 正志 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アリストテレス『形而上学』を読む									
[授業の概要・目的]											
授業参加者と協議の上で、アリストテレス『形而上学』の特定の箇所を選定して読み進める。											
[到達目標]											
古代のテキストを読むための語学力、文献学的な手続き、注解をはじめとした従来の解釈の整理と分析の能力、そして哲学の問題を平明かつ論理的に考える力を養う。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方を説明し、担当者の分担を決める。											
第2回～第29回 担当者の訳と報告にもとづいて、詳細な検討をおこなう。各授業で読む範囲は、担当者と担当箇所によって大きく異なるが、担当者は3-4回連続して報告する。											
なお、このテキストの読解には背景的な知識が必要となるので、教員から適宜必要な資料と説明を提供する。											
第30回 これまでの検討を集約し、アリストテレスの形而上学について、理解を深める。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（報告の担当と議論への参加の両方にもとづいて評価する）											
[教科書]											
W.D.Ross 『Aristotle's Metaphysics』（Clarendon Press）											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
毎回の授業で読む予定の範囲のテキストおよび指定された注解や関連文献を読み、あわせて各回の担当者から事前に配布される訳についても検討しておくこと。 担当者は報告する週の初めまでに授業参加者に担当箇所の訳文を配布すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系 3 3

科目ナンバリング		U-LET02 35240 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中畑 正志 文学研究科 准教授 早瀬 篤 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		古代哲学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討し、理解を深める。											
【到達目標】											
従来に関連する研究を踏まえた上で、哲学的に重要な問題を明晰に考察する能力と、建設的に討論する力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方について説明をおこない、各回の発表者を決定する。 第2回～第29回 西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討する。話題の選択は自由であるが、発表者には授業参加者が共有できるような明晰な議論が求められる。なお卒業論文提出予定者は、この授業で必ず論文の構想を発表すること。 第30回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（発表と議論への積極的な貢献の両方にもとづいて評価する）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 特になし											
【授業外学習（予習・復習）等】											
発表者は、発表する週の月曜日までに参加者に発表要旨を配布すること。参加者はその発表要旨を事前に読んでおくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET02 35241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『ゴルギアス』を読む(3)									
[授業の概要・目的]											
<p>古代ギリシアを代表する哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)が比較的若い時期に書いたと推定される対話篇『ゴルギアス』の原典を精読します。この対話篇では、ソクラテスが、古代の大弁論家ゴルギアス(c.485-c.380BC)、その弟子ポロス、若く先鋭的な論客カリクレスに対して、議論で挑みます。議論全体を通して「弁論術とは何か」「人はどのように生きるべきか」という問題が追究されます。とくに法・慣習における正義の欺瞞を非難し、自然における正義を称揚するというカリクレスの立場は、近代に至ってニーチェの超人思想に大きな影響を与えました。本授業では、比較的平易なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に『ゴルギアス』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。</p> <p>第2回から第14回 プラトン『ゴルギアス』購読 『ゴルギアス』の後半部分(カリクレスが快樂と善は同一だと主張するところ(494a6)から)を精読します。1回につきOCT〔教科書〕で3ページほど進みます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。</p> <p>第15回 まとめ これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p>											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習)(2)

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

Thompson, W. H. 『The Gorgias of Plato』 (London, 1871)

Dodds, E. R. 『Plato: Gorgias』 (Oxford, 1959)

Irwin, T. 『Plato: Gorgias』 (Oxford, 1979)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学習(予習・復習)等】

OCT 3 ページのギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがあります。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ありません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET02 35241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『ゴルギアス』を読む(4)									
[授業の概要・目的]											
<p>古代ギリシアを代表する哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)が比較的若い時期に書いたと推定される対話篇『ゴルギアス』の原典を精読します。この対話篇では、ソクラテスが、古代の大弁論家ゴルギアス(c.485-c.380BC)、その弟子ポロス、若く先鋭的な論客カリクレスに対して、議論で挑みます。議論全体を通して「弁論術とは何か」「人はどのように生きるべきか」という問題が追究されます。とくに法・慣習における正義の欺瞞を非難し、自然における正義を称揚するというカリクレスの立場は、近代に至ってニーチェの超人思想に大きな影響を与えました。本授業では、比較的平易なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション 最初に『ゴルギアス』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。</p> <p>第2回から第14回 プラトン『ゴルギアス』購読 『ゴルギアス』の最後の部分を精読します。1回につきOCT〔教科書〕で3ページほど進みます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。</p> <p>第15回 まとめ これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p>											
[履修要件]											
<p>古典ギリシア語の初級文法を習得しているか、少なくとも学習中であること。</p>											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

[教科書]

J. Burnet 『Platonis Opera III (Oxford Classical Text)』 (Oxford, 1903)
使用するテキストのコピーは授業で配布します。

[参考書等]

(参考書)

Thompson, W. H. 『The Gorgias of Plato』 (London, 1871)
Dodds, E. R. 『Plato: Gorgias』 (Oxford, 1959)
Irwin, T. 『Plato: Gorgias』 (Oxford, 1979)
必要な資料のコピーは授業で配布します。

[授業外学習(予習・復習)等]

OCT 3 ページのギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

演習の課題の都合上、きりのよいところまで読み進めるために、授業時間を延長することがあります。延長時間における参加は成績評価にさいして考慮せず、正規の授業終了時間に退席しても問題ありません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 3 6

科目ナンバリング		U-LET03 35242 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中世哲学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
中世哲学史を専攻している学生を中心とした参加者が自分の関心あるテーマについて発表を行い討論を行うことを通じて、中世哲学史のさまざまな領域の論点についての歴史的知識を深め、哲学的分析力を高めることを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋中世哲学の諸問題について広く学び、歴史的連関と哲学的重要性について説明できるようになる。 ・自身の哲学的関心を原典テキストに基づいて明快に記述することができるようになる。 ・他者の批判的吟味を理解し、それを自分の議論展開や論文作成に活かすことができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>隔週の開講とし、1回あたり参加者1名が発表を行い、その後担当教員や他の参加者との討論を行うこととする。発表の内容は参加者が自分で自由に選ぶことができるが、発表内容の梗概を事前に他の参加者に配布することが求められる。</p> <p>第1回 打ち合わせ、発表順の決定 第2-14回 各自の研究発表と質疑応答 第15回 まとめ、質問受付</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。発表の内容、討論への参加などにより評価するが、最低1回の発表を行うことが前提となる。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業の特性上、発表担当者は授業外にその準備をすることが必要である。また、その他の出席者も担当者の予告した発表内容について、あらかじめ予習することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
中世哲学史を専攻している学生は必修とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系 3 7

科目ナンバリング		U-LET03 35243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井澤 清 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アクィナス『対異教徒大全』精読 I									
[授業の概要・目的]											
トマス・アクィナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。											
[到達目標]											
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味が理解できるようになる。 トマス・アクィナスの哲学思想を原典にそくして理解し、批判的吟味ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
本年度は昨年度に引き続き、第2巻第69章以下の箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「知性論」に関する諸問題となる。 (1回) イントロダクション (2~14回) 『対異教徒大全』第2巻69章から75章の精読 (15回) まとめと整理											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を習得していること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点によって評価する。											
[教科書]											
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET03 35243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井澤 清 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナス『対異教徒大全』精読 II									
[授業の概要・目的]											
前期の「トマス・アキナス『対異教徒大全』精読 I」の続き。トマス・アキナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。											
[到達目標]											
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味が理解できるようになる。 トマス・アキナスの哲学思想を原典にそくして理解し、批判的吟味ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、第2巻第76章以下の箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「知性論」に関する諸問題となる。 (1回) イントロダクション (2~14回) 『対異教徒大全』第2巻76章から81章の精読 (15回) まとめと整理											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を習得していること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点によって評価する。											
[教科書]											
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET03 35243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アウグスティヌスの『八十三問題集』を読む									
[授業の概要・目的]											
アウグスティヌスの De diversis quaestionibus octoginta tribus(『八十三問題集』)の読解を通して、魂や身体、神についてのアウグスティヌスの基本的な考え方を理解する。											
[到達目標]											
魂や身体、神についてのアウグスティヌスの基本的な考え方を理解する。 ラテン語で書かれたテキストを読むことができるようになる。											
[授業計画と内容]											
アウグスティヌスの De diversis quaestionibus octoginta tribus (『八十三問題集』)のラテン語テキストを丁寧に読む。アウグスティヌスが、哲学・神学上の基本的な問題について論じたテキストを読むことで、各問題について、アウグスティヌスの基本的な考え方を理解する。											
第1回:イントロダクション：文献案内とテキストのコピー配布 第2-14回：テキストの読解：De diversis quaestionibus octoginta tribus 第15回：フィードバック：まとめ、質問受付											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点による。											
[教科書]											
Augustinus 『De diversis quaestionibus octoginta tribus』 (Brepols) (CSEL 44A テキストのコピーを配布する予定。)											
[参考書等]											
(参考書) Augustine 『Responses to miscellaneous questions』 (New City Press) (英語訳) そのほか、ドイツ語やフランス語の訳については、最初の授業で紹介する。											
(関連URL)											
http://www.augustinus.it/ (アウグスティヌスのテキスト、イタリア語訳)											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業で読む箇所の訳読ができるように予習する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET03 35243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 周藤 多紀 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスの『ニコマコス倫理学注解』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アリストテレスの『ニコマコス倫理学』第三巻前半部のトマス・アキナスの『ニコマコス倫理学注解』をラテン語原典で読み、アキナスがアリストテレスの行為論をどのように解釈しているかを考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語で書かれたトマスのアリストテレスの注解書の構造を理解しながら、読むことができるようになる。アリストテレスの用語・思想がラテン語でどのように翻訳され、受容されているか、トマスがアリストテレスの議論をどのように理解しているかを考察する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>トマス・アキナスの『ニコマコス倫理学注解』のラテン語テキストを第三巻の注解第一講から第六講を丁寧に読む。大体二回で一講を読み終える予定。</p> <p>アリストテレスの『ニコマコス倫理学』の該当箇所（第三巻、一・二章）では「自発性」と「選択」の概念が分析されている。トマスが、アリストテレスには不在の「意志」の概念を組み込みながら、どのように「自発性」や「選択」の概念を捉えているか等に留意しながら読む。</p> <p>(第1回)イントロダクション：文献案内、テキストのコピーの配布 (第2-14回)テキストの精読：三巻、第一講-第六講 (第15回)フィードバック：まとめ、質問受付</p>											
【履修要件】											
ラテン語の初級文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習)(2)

[教科書]

Thomas Aquinas 『Sententia Libri Ethicorum』 (Opera Omnia Iussu Leonis) (テキストのコピーを配布する予定。)

[参考書等]

(参考書)

C. J. Litzinger 『St. Thomas Aquinas, Commentary on Aristotle's Nicomachean Ethics』 (Dumb Ox Books) ISBN:1883357519 (マリエッティ版テキストに基づいた英訳。)

Thobias Hoffmann et al. 『Aquinas and the Nicomachean Ethics』 (Cambridge University Press) ISBN: 9781107002678 (最近の論文集)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業で読む箇所について訳読ができるように予習をすること。古典ギリシア語の知識があれば、対応するギリシア語のテキストにも目を通して、相違を考察してることが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET04 35244 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹内 綱史 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ニーチェ『悲劇の誕生』演習									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、ニーチェの哲学上の処女作『悲劇の誕生』（1872年）を精読する。同書は古典文献学の本として書かれてはいるが、当時の文化状況に一石を投じる意図のもと様々な問題意識が詰め込まれており、すでにニーチェ哲学の中心的な発想がすべて揃っているといっても過言ではなく、哲学史的にも一つの画期をもたらした本である。本演習ではその精読を通じて、ニーチェ哲学の核心を理解するとともに、後に「ニヒリズム」として論じられるようになる問題について検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 哲学の基礎文献を読み解く力をつける。 ・ 哲学史的な展望のもとで哲学書を読む力をつける。 ・ 哲学的な問題についてテキストに基づいて議論する力をつける。 ・ ニーチェ哲学の基本発想を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 『悲劇の誕生』という著作の概要や背景について解説する。基本的な訳書や概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方について周知する。</p> <p>第2回～第14回 『悲劇の誕生』精読 『悲劇の誕生』の第1節から精読する。テキストの一語一句について全員で議論する。毎回プロトコル担当者を決め、授業の最初に前回のプロトコルを発表してもらいそれについて検討してから、続くテキストの精読を行う予定。</p> <p>第15回 前期まとめ 前回まで読み終わった箇所についてまとめ、残された疑問点などについて全員で議論する。切りの良いところまで読了できていない場合、この回をあてることもある。</p> <p>第16回 後期イントロダクション 前期に読み進めた箇所について、残された課題等を確認する。必要に応じて、最新の研究動向についても紹介したい。</p> <p>第17回～第29回 『悲劇の誕生』精読 前期の続きを、前期と同じ形で精読する。</p> <p>第30回 まとめ 前回まで読み終わった箇所についてまとめ、残された疑問点などについて全員で議論する。切りの良いところまで読了できていない場合、この回をあてることもある。</p>											
----- 西洋哲学史(演習) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（訳読担当・プロトコル担当・議論への参加度）100点満点で評価する。

[教科書]

Friedrich Nietzsche 『Die Geburt der Tragödie』（Deutscher Taschenbuch Verlag）ISBN:3-423-30151-1（通称「KSA」と呼ばれるグロイター版ニーチェ全集ポケット版の第1巻。授業中に講読箇所のコピーを配布する。）

[参考書等]

（参考書）

Jochen Schmidt 『Kommentar zu Nietzsches "Die Geburt der Tragödie"』（De Gruyter）ISBN:978-3110286915（『悲劇の誕生』に関する比較的新しい注釈書）

Barbara von Reibnitz 『Ein Kommentar zu Friedrich Nietzsches "Die Geburt der Tragoedie aus dem Geiste der Musik" (Kapitel 1-12)』（J.B.Metzler）ISBN:978-3476008329（『悲劇の誕生』前半部に関する注釈書）

M.S.Silk and J.P.Stern 『Nietzsche on Tragedy』（Cambridge University Press）ISBN:978-1316507933（『悲劇の誕生』に関する英語圏における標準的注釈書）

[授業外学習（予習・復習）等]

訳読と議論が中心なので、授業前には必ず講読箇所を予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 4 2

科目ナンバリング		U-LET04 35245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		大河内 泰樹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋哲学史古典精読									
【授業の概要・目的】											
G. W. F. Hegel, <i>Phänomenologie des Geistes</i> 、理性章BおよびCを精読する。該当箇所は、ヘーゲルの社会哲学を提示するものとしてかつてから議論されてきた箇所であるが、近年では分析哲学の行為論から議論されている箇所でもある。新旧の視点を踏まえながら改めてこの賞を検討することで、ヘーゲルの実践哲学を検討する。											
【到達目標】											
哲学史研究に必要なテキスト精読の手法を身に付ける。 ヘーゲルを中心とした哲学史について理解する。 古典的テキストの現代的意義について考察することにより、哲学的思考の訓練を行う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション 『精神現象学』の成立と研究史について担当者より概説する。授業の進め方と準備・発表の方法を確認し、出席者の担当部分を決定する。 第2回~第14回 G. W. F. Hegel, <i>Phänomenologie des Geistes</i> の講読 G. W. F. Hegel, <i>Phänomenologie des Geistes</i> を精読し、内容について討論する。学生の習熟度や毎回の予定を示すことはできないが、おおむね下記のPHB版で1回2頁程度を目処として進行する。第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。この回を補充に充てることもある。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点にて評価を行う。											
【教科書】											
G. W. F. Hegel 『 <i>Phänomenologie des Geistes</i> 』 (Felix Meiner) ISBN:978-3-7873-0769-2 (Herausgegeben von Heinrich Clairmont und Hans Friedrich Wessels, Philosophische Bibliothek 414. 1987. Neuausgabe. Mit einer Einleitung von Wolfgang Bonsiepen) 他の版が手元にある場合にはそれでも構わない。											
----- 西洋哲学史〔近世〕(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

講読予定の箇所(2頁程度)について必ず予習してのぞむこと。(授業ではドイツ語の文法上の説明及び内容理解について問うのでそのつもりで準備すること) 関連箇所について既存のコメンタールなどを参照しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 4 3

科目ナンバリング		U-LET04 35245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		大河内 泰樹 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火4,5 隔週授業	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近世西洋哲学史の諸問題									
[授業の概要・目的]											
本授業では履修者が研究報告を行い、相互に検討し合う。											
[到達目標]											
論文や研究報告原稿を執筆する能力を身に付ける。 討論や質問の技法やマナーを身に付ける。 議論を通じて主体的に自分の研究を深めることができる。											
[授業計画と内容]											
第1回 ガイダンス 第2回 研究課題の設定 第3回~第14回 研究報告と検討 第15回 総括											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点にて評価を行う。具体的には報告内容、他の報告者の報告の際のコメント内容などに基づいて評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
報告者は事前に原稿を提出することを求められる。 他の報告者はその原稿を事前に精読して臨むこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系 4 4

科目ナンバリング		U-LET05 25302 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本哲学史)(講義) Japanese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		上原 麻有子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本哲学史講義 1									
[授業の概要・目的]											
日本哲学史を 西田幾多郎、近代日本哲学の発展から京都学派の哲学への二部に分けて日本哲学の形成過程を概観し、さらに、これまで論じられてきた主要問題を通して日本哲学のあり方、意義について検討する。このようにして日本哲学史についての理解を深めることが、授業の目的である。											
[到達目標]											
日本哲学における近代初頭から京都学派(第二次世界大戦まで)の主要テーマ、主要問題を理解し、さらにそれを自ら批評することを目標とする。											
[授業計画と内容]											
<p>以下のような課題に基づき、各課題につきおよそ次の回数で授業を進める予定である。</p> <p>ガイダンス：「日本哲学」とは何か【1回】</p> <p>西田幾多郎【4回】</p> <p>明治期から西田幾多郎までの日本哲学史概要【2回】</p> <p>西周、井上哲次郎、井上円了【3回】</p> <p>京都学派：三木清、戸坂潤【4回】</p> <p>フィードバック【1回】</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点50%と前期末のレポート試験50%による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
毎回の授業で紹介する参考書を手がかりとし、学んだ内容について理解を深める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系 4 5

科目ナンバリング		U-LET05 25304 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本哲学史)(講義) Japanese Philosophy (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		上原 麻有子 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本哲学史講義 2									
[授業の概要・目的]											
京都学派とその周辺の哲学者の思想を、いくつかのテーマを追う形で考察することが、この授業の目的である。さらに、講義で考察する日本哲学の問題が、私たち各自の経験においてどのような意義をもつのか、その経験とどのように結びつき得るのかについても検討する。											
[到達目標]											
九鬼周造、田辺元、和辻哲郎の哲学における主要テーマ、主要問題について理解を深め、さらにそれを自ら批評することを目標とする。											
[授業計画と内容]											
以下のような課題(日本哲学史上の主要問題)を講義では扱うが、1 課題に充てる講義の回数は 2 ~ 3 回である。 翻訳と言語：翻訳から見る哲学、和辻哲郎の「日本語と哲学の問題」 実存：九鬼周造 詩学：田辺元 風土：和辻哲郎 日本における主体性の問題とsubject フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点50%と後期末のレポート試験50%による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
毎回の授業で紹介する参考書を手がかりとし、学んだ内容について理解を深める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		上原 麻有子 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「行為的直観」の哲学の芸術的・技術的發展									
[授業の概要・目的]											
<p>本講義は、平成30年度後期に行った中井正一の芸術と技術の関連を問う研究に続くものであるが、今回は、西田幾多郎の後期哲学の中心的課題である「行為的直観」に焦点を当てる。人間の意識と身体と物の関係をポイエシスという観点から構築したのが、「行為的直観」という論理である。西田によれば、これはさらに歴史的現実の世界の形成的論理、制作的論理、創造的論理であると言い換えられる。しかし、具体的にどのような相において事実となり得るものなのか、西田の文脈ではそれほど明確には示されていない。本講義では、芸術と技術の具体的な場面を想定し、実際に芸術家、技術者のディスカールに照らして、また、西田周辺の木村素衛、田辺元、三木清らによる「行為的直観」を参照しつつ、より深く「行為的直観」を理解し、さらにその論理に欠落している側面を明らかにしながら、この有益な論理を具体的に即して発展させる見通しを立てる。これが本講義の目的である。</p>											
[到達目標]											
<p>西田幾多郎の「行為的直観」の内実を西田哲学の根幹である「場所」の論理、絶対弁証法、絶対矛盾的自己同一、「永遠の今」という時間概念に即して、深く理解することが第一の目標である。次に、「行為的直観」の応用として芸術(特に舞台芸術)と、技術(特に、芸術の中で必要とされる技)を取り上げ、そこでの具体的な人間の意識と身体と物、あるいはさまざまな意味での環境との関連について検討する。このようにして、日本哲学における一つの身体・政策・技術の論理を現象学的に発展させる可能性を学ぶことが第二の目標である。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。各課題に充てる予定の回数を、【 】内に示しておく。</p> <p>ガイダンス 趣旨説明(中井の技術と芸術の研究と本講義の関連について。今回の課題がもつ意義について。)【1回】 西田の「行為的直観」の哲学の解説【3回】 木村、田辺、三木による「行為的直観」と西田の「行為的直観」の比較【2回】 舞台芸術における「行為的直観」の検討 能面、音楽、役者、関係性【5回】 能面の制作【2回】 まとめ【1回】(「行為的直観」の批判と展望) フィードバック【1回】</p>											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点50%と後期末のレポート試験50%による。

【教科書】

使用しない
毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		浄土真宗本願寺派願泉寺 住職 小野 真龍 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本哲学における親鸞思想についての哲学的言説の系譜～ハイデガーの影響を中心に									
[授業の概要・目的]											
<p>親鸞思想は日本浄土教を徹底した立場であり、親鸞自身も言うように大乘仏教の「極致」である。この親鸞思想について、日本の哲学者はこれまでに多くの哲学的言説を積み上げてきた。しかしそもそもフィロゾフィーレン（哲学する）という姿勢によって、親鸞思想を語るということはどのような意義を持つのであろうか。フィロゾフィーレンという姿勢によって、親鸞思想ないしは仏教を語ることは、かえって仏教のめざす真理を覆うことはないのであろうか。この授業では、清沢満之、三木清、務台理作、西田幾多郎、西谷啓治、武内義範、大峯顕、長谷正當といった日本の哲学者たちの親鸞についての言説の系譜を吟味し、その言説の意義について考察する。またこれらの言説においては、ハイデガーの後期思想を含めた吸収を経たもの（西谷以降）とそれ以前のものとの大きな差異が見られ、日本哲学における親鸞及び仏教理解におけるハイデガーの大きな影響を感じることができる。この観点からハイデガー思想と親鸞思想の架橋の可能性についても検討したい。そのうえで、日本的な「聖なるもの」の変容の過程に迫り、現代における日本宗教の地下水脈を考察する。日本が西洋哲学の受容を行なったのは、日本の宗教地図の大きな変更の後だった。日本の哲学は、何を失った後に形成されたのか、また、プレ・モダンの宗教的コスモロジー回復の傾向に今後どのように関わっていくべきかを探る。</p> <p>なお授業では法会や祭礼そのもの、またそれらに付随する芸能についての映像を多く紹介し、視覚的にも「聖なるもの」の顕現の在り方を確認してもらいたいと考えている。</p>											
[到達目標]											
<p>親鸞思想については一般的な教学理解についても解説する。また、後期ハイデガー思想についても「聖なるもの」の次元や「住むこと」について語った『ヒューマニズム書簡』（1946年）について解説する。まず基本的に両者の思想の知識を得たうえで、日本哲学における親鸞言説について詳しく知ることができる。それぞれの哲学者の基本姿勢についても学ぶことができ、それぞれの哲学者が哲学理論またはハイデガー思想を手掛かりに親鸞ひいては日本仏教に対峙した姿勢を理解する。日本哲学を学ぶ者は、自分自身も日本仏教に哲学的に向きあわないことはできない。その際の自分のスタンスを決めるためのケーススタディにもなるであろう。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>基本的には以下のプランに従って講義を進める。</p> <p>第1回～第2回 親鸞思想についての哲学的言説の系譜の概観。前期及び後期ハイデガーの親鸞言説への影響</p> <p>第3回～第5回 親鸞思想についての一般的な教学的理解～梯実圓『教行信証の宗教構造』による親鸞思想概観</p> <p>第6回～第8回 後記ハイデガー思想吸収以前の日本哲学における親鸞理解～清沢満之「他力門哲学」、三木清「親鸞」、務台理作『場所の論理学』、西田幾多郎「逆対応」、田邊元「懺悔道」</p>											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

第9回～第11回 『ヒューマニズム書簡』におけるハイデガー思想

第12回～第13回 西谷啓治の親鸞言説のスタンス～間接的なハイデガーの影響

第14回～第15回 ハイデガーの言葉の思想 (Sprache spricht) と大峯顕の「名号論」・長谷正當における「住むこと (wohnen)」としての「願往生心」・フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

議論も活発にかわしたいので、平常点評価が6割とする。

加えて最終授業日に、授業のテーマに関連したレポートを提出してもらい、残り4割の評価にかえる。

基本的には講義をお聴きいただき、質疑応答で議論をするというスタイルになる。

受講人数にもよるが、可能ならば、受講学生による基本テーマのプレゼンの部分も設けたいと考えている。

【教科書】

教科書は特に指定しない。

参照すべき文献は、授業内でそのつど指摘していく。

毎回、授業内容のレジюмеを配布することを予定している。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

毎回、レジюмеを配布する予定であるので、レジюме記載の基本概念などで不明確な点があれば、毎回、各自で調べ直して、次の授業において質問する、ということを繰り返すことが肝要である。

授業では法要や祭礼の映像などもお見せする予定であるので、関連する動画などを、サイトで検索して確認することなども必要かと考える。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		公益財団法人日独文化研究所 水野 友晴 事務局長 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西田幾多郎と鈴木大拙の思想から「東洋」の現代的意義について探る									
【授業の概要・目的】											
<p>西田幾多郎と鈴木大拙は、ともに「世界文化の形成」を目的に置いた上で、「東洋」に注目した。すなわち彼らにとって「東洋」は、「世界文化」という新しい光に照らされることで新たにその意義が見いだされるべきものであった。</p> <p>本特殊講義では、西田と大拙が「世界文化」という言葉のもとでどのようなことを考え、また、そこから見て「東洋」について、現代ではどのような意義が置かれるべきと見ていたのかについて研究してゆく。このことは必然的に「西洋」や「現代」についての両者の見解を探ることにもつながり、また、「実在」、「知」、「自由」といった諸概念について彼らが採る基本的方向性を探ることにもつながる。それらはまた、彼らにおいて、「東洋」の顕彰が現代世界に対してどのような役割を果たすものとして期待されたかを知ることへと発展してゆく。</p> <p>このように西田幾多郎と鈴木大拙の思想中には、両者を同時に取り上げることを通じてよりよく見えてくるものがある。本特殊講義ではそれを提示することを目的としたい。</p>											
【到達目標】											
<p>西田幾多郎と鈴木大拙が「東洋」にどのような視座からアプローチしたかについて吟味することで、彼らの思想が有する基本的性格についての理解を深め、日本哲学・日本思想を各人が研究する際に応用できる基礎的教養が身に付けられる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。通常授業初回時には「ガイダンス」の機会を、また、通常授業15回時には「フィードバック」の機会を設けることとする。</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 西田哲学における「実在」の基本的な捉え方：純粹経験</p> <p>第3回 西田哲学における「実在」の基本的な捉え方：自発自展</p> <p>第4回 西田哲学における「実在」の基本的な捉え方：現象と本体</p> <p>第5回 西田幾多郎が「東洋」ということで見ようとしたもの：形なきもの</p> <p>第6回 西田幾多郎が「東洋」ということで見ようとしたもの：情的文化</p> <p>第7回 西田幾多郎が「東洋」ということで見ようとしたもの：世界的自覚</p> <p>第8回 鈴木大拙が「東洋」ということで見ようとしたもの：靈性的自覚</p> <p>第9回 鈴木大拙が「東洋」ということで見ようとしたもの：「西洋」と二元性</p> <p>第10回 鈴木大拙が「東洋」ということで見ようとしたもの：無、知、一元性</p> <p>第11回 鈴木大拙が「自由」「自然」といった用語から表現しようとしたもの：機心をめぐる議論</p> <p>第12回 鈴木大拙が「自由」「自然」といった用語から表現しようとしたもの：「詩」</p> <p>第13回 鈴木大拙が「自由」「自然」といった用語から表現しようとしたもの：創造性への復帰</p> <p>第14回 西田幾多郎と鈴木大拙の思想の共通性と差異性について：世界文化の形成と平和をテーマに</p> <p>第15回 まとめとフィードバック</p>											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点とレポート。
日常の授業への関わり方（授業への熱心な取り組み、問題意識を感じさせる発言等）30%、レポート70%。

【教科書】

水野友晴 『「世界的自覚」と「東洋」 西田幾多郎と鈴木大拙』（こぶし書房）

【参考書等】

（参考書）
藤田正勝 『西田幾多郎の思索世界 純粹経験から世界認識へ』（岩波書店）

【授業外学習（予習・復習）等】

授業内容について討議する時間を各回に設けるので、そのための準備や振り返りを各自で行い、討議の時間に持ち寄ることに務めて欲しい。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 35331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		明治大学 文学研究科		美濃部 仁 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西田幾多郎の哲学 「一般者」概念を中心に									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、とくに「一般者」（普遍）という概念に注目しつつ、西田の哲学を、その展開の必然性も含めて理解することを試みる。西田の「純粹経験」においてすでに「一般者」の経験が大きな役割を果たしていることをジェームズの「純粹経験」を顧みながら示した上で、その純粹経験における「一般者」が「無の場所」の概念を要求したと考えられること、さらに「無の場所」が「私と汝」、「個は個に対して個」の概念へと西田を導いたと考えられることを明らかにしたい。最後に、西田における「一般者」と宗教経験の関係に触れる予定。</p>											
【到達目標】											
西田の哲学の特徴を理解すること、また、その展開の必然性を理解することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
<p>ほぼ次のような順序で授業をすすめる予定。 ただし、難しい問題にぶつかった場合は、変更もありうる。</p> <p>第1回 西田哲学の概観 第2回 西田における純粹経験 第3回 ジェームズにおける純粹経験 第4回 ジェームズにおける自己 第5回 ヘーゲルの具体的一般者 第6回 純粹経験の自発自展 第7回 まとめとディスカッション 第8回 純粹経験と場所 第9回 無の場所と個物 第10回 絶対無と「私と汝」 第11回 個は個に対して個 第12回 一般的限定即個物的限定・個物的限定即一般的限定 第13回 弁証法的一般者としての世界 第14回 世界の自覚としての自己と宗教的自覚における自己 第15回 まとめとディスカッション</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

レポートによって評価する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

西田幾多郎 『善の研究』
西田幾多郎 『場所(論文)』
西田幾多郎 『私と汝(論文)』
西田幾多郎 『弁証法的一般者としての世界(論文)』
西田幾多郎 『場所的論理と宗教的世界観(論文)』
上田閑照 『西田幾多郎を読む』(岩波書店)

[授業外学習(予習・復習)等]

参考書欄に紹介した書籍や論文などを予め読み、質問をもって授業に臨むことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

積極的に質問していただきたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 25341 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本・アジアのキリスト教 賀川豊彦(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>日本・アジアのキリスト教の歴史を振り返りつつ、その新しい思想的可能性を探ることは、日本におけるキリスト教思想研究にとって重要な意味を有している。この演習では、年度や学期を超えて、明治期以降の重要なキリスト教の思想家たちを順次検討してゆくことによって、近代キリスト教思想の重要な局面の解明がめざされている。今年度前期は、昨年後期に引き続き、近代日本を代表するキリスト教思想家・実践家である賀川豊彦のテキストを読み進めてみたい。合わせて、賀川研究に関連した研究文献を講読する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアのキリスト教思想の動向とその現代的意義について、具体的な問題状況に即した説明ができるようになる。 ・賀川豊彦のキリスト教思想についての理解を深めるとともに、その意義を東アジアの文脈において考察するための手がかりを得ることができる。 ・賀川豊彦との関連において、現代キリスト教思想の動向（解放の神学や科学技術の神学、経済神学、政治神学など）についての理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回の授業では、本演習のオリエンテーションを行い、演習の目的や進め方を確認する。 二回目以降は、賀川豊彦のテキスト（今年度は、「第七章 十字架を通して神を見る」から）に所収の諸論考を、担当者の解説を通して、順番に精読してゆく。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。）											
【教科書】											
賀川豊彦 『賀川豊彦全集4』（キリスト新聞社）ISBN:0316-400277-6100 テキストは、使用部分について、コピーを用意する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 日本哲学史(演習)(2)へ続く -----											

日本哲学史(演習)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストを精読し、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で（これらを記載したレジメを作成すること）、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加することが必要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に各一回以上の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー（火3・水3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 25341 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本・アジアのキリスト教 賀川豊彦(3)									
【授業の概要・目的】											
<p>日本・アジアのキリスト教の歴史を振り返りつつ、その新しい思想的可能性を探ることは、日本におけるキリスト教思想研究にとって重要な意味を有している。この演習では、年度や学期を超えて、明治期以降の重要なキリスト教の思想家たちを順次検討してゆくことによって、近代キリスト教思想の重要な局面の解明をめざしている。今年度後期は、前期に引き続き、近代日本を代表するキリスト教思想家・実践家である賀川豊彦のテキストを読み進めてみたい。合わせて、賀川研究に関連した研究文献を講読する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアのキリスト教思想の動向とその現代的意義について、具体的な問題状況に即した説明ができるようになる。 ・賀川豊彦のキリスト教思想についての理解を深めるとともに、その意義を東アジアの文脈において考察するための手がかりを得ることができる。 ・賀川豊彦との関連において、現代キリスト教思想の動向（解放の神学や科学技術の神学、経済神学、政治神学など）についての理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回の授業では、本演習のオリエンテーションを行い、演習の目的や進め方を確認する。 二回目以降は、賀川豊彦のテキストを、担当者の解説を通して、順番に精読してゆく。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。）											
【教科書】											
<p>賀川豊彦 『友愛の政治経済学』（日本生活協同組合連合会）ISBN:978-4-87332-286-5 演習で扱う諸論考については、コピーを準備する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 日本哲学史(演習)(2)へ続く -----											

日本哲学史(演習)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストを精読し、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で（これらを記載したレジメを作成すること）、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加することが必要である。

（その他（オフィスアワー等））

受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に数回の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー（火3・水3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 25341 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		公益財団法人日独文化研究所 水野 友晴 事務局長 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西田幾多郎の「宗教」および「自己」と「世界」をめぐる思索									
【授業の概要・目的】											
<p>西田幾多郎は『善の研究』の「序」で、「宗教」を「哲学」の「終結」と位置づける彼の考えを披露している。一方で「純粹経験」論については彼の思想の「根柢」との考えが同箇所て提示される。哲学の「根柢」及び「終結」、西田によるこうした位置づけはどのようなことを物語るものなのであろうか。</p> <p>本演習では、西田哲学の初期から晩年までの全時期における、「宗教」についての西田の論考を精読することで、「宗教」について西田がどのような理解を抱き、また、「自己」と「世界」との関係について西田がどのような考えを抱いていたかについて考察してゆくことにする。</p>											
【到達目標】											
<p>「自己」と「世界」について西田がどのような視座から照射を行っているかを探求することは、西田哲学を理解する上で欠かすことの出来ない作業である。本演習ではこのことについての基礎的な教養を習得することができる。</p> <p>また、西田哲学の実テキストを精読することを通じて、日本哲学研究を行うための基礎力が養成される。</p>											
【授業計画と内容】											
『善の研究』第四編「宗教」や最後の完成論文「場所的論理と宗教的世界観」など、「宗教」の問題について論じた西田の論考を読み進めるとともに、同時期に交流のあった思想家や弟子たちとの書簡等でのやりとりも参照してゆく。各回、担当者の報告をもとに、全員で議論を進めることとする。											
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 西田の宗教思想の背景 「現今の宗教について」、「国文学史講話」の序</p> <p>第3回 『善の研究』第四編「宗教」 テーマ：宗教的要求</p> <p>第4回 『善の研究』第四編「宗教」 テーマ：宗教の本質</p> <p>第5回 『善の研究』第四編「宗教」 テーマ：神</p> <p>第6回 『善の研究』第四編「宗教」 テーマ：神と世界と悪</p> <p>第7回 『善の研究』第四編「宗教」 テーマ：知と愛</p> <p>第8回 『善の研究』 まとめと展望</p> <p>第9回 上田閑照「逆対応と平常底」 テーマ：場所的論理と絶対矛盾的自己同一</p> <p>第10回 上田閑照「逆対応と平常底」 テーマ：逆対応と平常底</p> <p>第11回 中間ディスカッション 西田は宗教をどのように見ているか</p> <p>第12回 「場所的論理と宗教的世界観」 テーマ：絶対矛盾的自己同一</p> <p>第13回 「場所的論理と宗教的世界観」 テーマ：逆対応</p> <p>第14回 「場所的論理と宗教的世界観」 テーマ：平常底と歴史的世界形成</p> <p>第15回 まとめ・フィードバック</p>											
----- 日本哲学史(演習)(2)へ続く -----											

日本哲学史(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点とレポート。
各回の演習時における発表や討議とレポートにより評価する。評価に際しては4分の3以上の出席を前提とする。その上で半々の割合で発表・討議（50%）とレポート（50%）を成績評価に採用する。

【教科書】

『善の研究』は岩波文庫版あるいは『西田幾多郎全集』（旧版、新版とも第1巻）。現今の宗教について」は旧版『西田幾多郎全集』第13巻、同新版第11巻。「『国文学史講話』の序」は『思索と体験』岩波文庫版あるいは『西田幾多郎全集』（旧版、新版とも第1巻）。」「場所的論理と宗教的世界観」は『西田幾多郎哲学論集III』（岩波文庫）あるいは旧版『西田幾多郎全集』第11巻、同新版第10巻。いずれの版を用いてもよい。上田閑照「逆対応と平常底」は、『哲学コレクション1 宗教』（岩波現代文庫）。出席者は自分で上記テキストを用意すること。上記以外の資料は授業中に配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

授業内容について討議する時間を各回に設けるので、そのための準備や振り返りを各自で行い、討議の時間に持ち寄ることに務めて欲しい。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、わからないことについては積極的な質問を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 25343 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(基礎演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹花 洋佑 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		西田幾多郎の『善の研究』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>「明治以後に邦人のものした最初の、また唯一の哲学書」（高橋里美）と評された西田幾多郎の『善の研究』は、幅広い読者を得て、大正期以降の日本の思想に強い影響を残した。本基礎演習ではこの『善の研究』の講読を行う。『善の研究』本文の精読するために、受講者には担当箇所の内容についての手短な発表を課し、この発表をふまえてディスカッションを行なっていく。これらの作業をとおして「いかに読むか」を学ぶ。また、『善の研究』成立の背景となった思想や『善の研究』がその後の日本の哲学に与えた影響、さらにそれが有する現代的意義に目を向けることによって、多角的にテキストを読解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 哲学のテキストを正確に読む力を身につける。 ・ 哲学のテキストを正確に読むことを通して、問いを発見し、的確に思考する力を養う。 ・ これらを基礎にして、他の授業参加者とディスカッションする力を養う。 ・ 西田および授業で扱った他の哲学者についての基礎知識を身につける。 											
【授業計画と内容】											
<p>『善の研究』は4つの編から構成されているが、この授業では第1編「純粹経験」と第2編「實在」を中心にテキストを読んでいく。毎回、指定された講読箇所を受講者の一人ないしは二人に発表してもらい、それに基づいてディスカッションを行なっていく。</p> <p>授業計画は以下の通りである。</p> <p>第1回 イン트로ダクション（『善の研究』の概要についての解説、および発表担当箇所の決定）</p> <p>第2回 第2編第1章「考究の出発点」</p> <p>第3回 第2編第2章「意識現象が唯一の實在である」</p> <p>第4回 第2編第3章「實在の真景」、第2編第4章「真實在は常に同一の形式を有って居る」</p> <p>第5回 第2編第5章「真實在の根本方式」、第2編第6章「唯一實在」</p> <p>第6回 第2編第7章「實在の分化発展」、第2編第8章「自然」</p> <p>第7回 第2編第9章「精神」、第2編第10章「實在としての神」</p> <p>第8回 第2編のまとめ</p> <p>第9回 第1編第1章「純粹経験」</p> <p>第10回 第1編第2章「思惟」</p> <p>第11回 第1編第3章「意志」</p> <p>第12回 第1編第4章「知的直観」</p> <p>第13回 第1編のまとめ</p> <p>第14回 第3編「善」についての概説</p>											
----- 日本哲学史(基礎演習) (2)へ続く -----											

日本哲学史(基礎演習)(2)

第15回 授業全体のまとめ(フィードバックを含む)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点(発表内容、発言等の授業への積極的参加)とレポートにより評価する。評価の内わけは、平常点:40%、レポート:60%とする。

【教科書】

西田幾多郎(注解・解説 藤田正勝)『善の研究』(岩波文庫〔2012年改版〕)ISBN:978-4-00-331241-4(2012年に改版されたものを用意するようにして下さい。)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

予習:次回の講読箇所を必ず読み、興味深いと考えた点、疑問点を整理しておくこと。
復習:授業の中で紹介された文献を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET05 25343 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(基礎演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 竹花 洋佑 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	木2	授業 形態	基礎演習	使用 言語	日本語
題目		和辻哲郎の倫理学									
【授業の概要・目的】											
<p>本基礎演習では、和辻哲郎の倫理学関連のテキストを丹念に読んでいく。『古寺巡礼』や『風土』の著者として知られ、日本倫理思想史や芸術論など幅広い領域で多くの著作を残した和辻であるが、彼の哲学者としての最大の業績は倫理学である。倫理は人と人との間に成立すると主張する和辻の「間柄」の思想がどのような意義と可能性とを持つのかを理解することが本基礎演習の目的である。その際、和辻が西洋哲学をどのように批判的に吸収したのか、また同時代の日本の哲学者の主張との関係で「間柄」という発想はどのような意味を持つのかという点に留意しつつ、テキストを読み進めていくことにする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 哲学のテキストを正確に読む力を身につける。 ・ 哲学のテキストを正確に読むことを通して、問いを発見し、的確に思考する力を養う。 ・ これらを基礎にして、他の授業参加者とディスカッションする力を養う。 ・ 木村および授業で扱った他の哲学者についての基礎知識を身につける。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業の前半では『人間の学としての倫理学』を、後半では『倫理学』を読んでいく。ただし、『倫理学』は大部な著作なので主要箇所のみを取り上げる。毎回、指定された講読箇所を受講者の一人ないしは二人に発表してもらい、それに基づいてディスカッションを行なっていく。</p> <p>授業計画は以下の通りである。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション（和辻哲郎についての簡単な解説、および発表担当箇所の決定）</p> <p>第2回 『人間の学としての倫理学』第1章・1～3 「倫理」という言葉の意味、「人間」という言葉の意味、「世間」あるいは「世の中」の意義</p> <p>第3回 『人間の学としての倫理学』第1章・4および5 「存在」という言葉の意味、「人間の学としての倫理学の構想」</p> <p>第4回 学説史の解説（『人間の学としての倫理学』第1章・6～11）</p> <p>第5回 『人間の学としての倫理学』第2章・12～14 人間の問い、問われている人間、学としての目標</p> <p>第6回 『人間の学としての倫理学』第2章・15および16 人間存在の通路、解釈学的方法</p> <p>第7回 『倫理学』第1章・第2節「人間存在における個人的契機」</p> <p>第8回 『倫理学』第1章・第3節「人間存在における全体的契機」</p> <p>第9回 『倫理学』第1章・第4節「人間存在の否定的構造」</p> <p>第10回 『倫理学』第1章・第5節「人間存在の根本理法（倫理学の根本原理）」</p> <p>第11回 『倫理学』第2章・第2節「人間存在の空間性」</p>											
----- 日本哲学史(基礎演習) (2)へ続く -----											

日本哲学史(基礎演習)(2)

- 第12回 『倫理学』第2章・第5節「人間の行為」
第13回 『倫理学』第2章・第6節「信頼と真実」
第14回 授業全体のまとめ
第15回 フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（発表内容、発言等の授業への積極的参加）とレポートにより評価する。評価の内わけは、平常点：40%、レポート：60%とする。

【教科書】

和辻哲郎 『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）ISBN:9784003811047

【参考書等】

（参考書）

和辻哲郎 『倫理学（一）』（岩波文庫）ISBN:9784003314494

和辻哲郎 『倫理学（二）』（岩波文庫）ISBN:4003811011

和辻哲郎 『倫理学（三）』（岩波文庫）ISBN:400381102X

和辻哲郎 『倫理学（四）』（岩波文庫）ISBN:4003811038

和辻哲郎 『初稿 倫理学』（ちくま学芸文庫）ISBN:4480098119

現在入手しにくい状態となっているが、可能であれば『倫理学（一）』は入手しておくことが望ましい。『倫理学』に関しては、授業ではプリントも配布する。

【授業外学習（予習・復習）等】

予習：次回の講読箇所を必ず読み、興味深いと考えた点、疑問点を整理しておくこと。

復習：授業の中で紹介された文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET06 35401 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(倫理学)(講義) Ethics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		水谷 雅彦 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		倫理学概論									
【授業の概要・目的】											
倫理学という学問分野について、その基礎から講述し、その基本的な知見を獲得することを目的とする。											
【到達目標】											
倫理学という学問の基本的な知見を獲得し、倫理的な課題に関して自分の頭で考えることができるようになることを目指す。											
【授業計画と内容】											
<p>前半においては、現代の倫理学の基本的な理論を概説するとともに、行為とはなにかについて論じる。後期においてはいわゆる応用倫理学の各部門について概説するとともに、いくつかの事例について検討する。ただ、本シラバス執筆時から開講までかなりの時間あるので、講義内容、計画は変更される可能性がある。実際の講義計画は初回の講義時に発表するので出席されたい。</p> <p>第一回 規範倫理学への導入</p> <p>第二回～第六回 行為とは何かを哲学的、倫理的理論を参照しつつ概説する。</p> <p>第二回 行為とは何でないか</p> <p>第三回 見ることと行うこと</p> <p>第四回 作ることと行うこと</p> <p>第五回 話すことと行うこと</p> <p>第六回 行為についての暫定的定義</p> <p>第七回～第十回 行為の規則、規範について哲学、倫理的的に検討する。</p> <p>第七回 行為と規則破り</p> <p>第八回 規則概念とそのパラドックス</p> <p>第九回 倫理規範の生成と維持</p> <p>第十回～第十二回 行為規範に関する倫理学上の諸理論を比較検討する。</p> <p>第十回 功利主義とその批判</p> <p>第十一回 義務論とその批判</p> <p>第十二回 リベラリズムと徳倫理</p> <p>第十三回～第十五回 倫理的な行為規範論の新しい可能性を探るとともに前期の総括を行う。</p> <p>第十三回 会話と社交の哲学</p> <p>第十四回 会話と社交の倫理学</p> <p>第十五回 前期の総括</p> <p>第十六回 応用倫理学への導入</p> <p>第十七回～第十九回 生命医療倫理学</p> <p>第十七回 生命倫理学の歴史</p> <p>第十八回 生命倫理学の現在</p> <p>第十九回 生命倫理学のトピックス（先端医療とその倫理的問題）</p> <p>第二十回～第二二回 環境倫理学</p> <p>第二十回 環境倫理学の歴史</p>											
----- 系共通科目(倫理学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(倫理学)(講義)(2)

- 第二十一回 環境倫理学の現在
第二十二回 環境倫理学のトピックス（予防原則という考え方）
第二十三回～第二五回 情報倫理学
第二十三回 情報倫理学の歴史
第二十四回 情報倫理学の現在
第二十五回 情報倫理学のトピックス（プライバシー概念について）
第二十六回～第二八回 その他の応用倫理学
第二十六回 ビジネス倫理学
第二十七回 スポーツ倫理学
第二十八回 宇宙倫理学
第二十九回～第三十回 総括とディスカッション

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

学年末試験

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

特になし。読んでおくとい文献については講義中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 5 6

科目ナンバリング		U-LET06 35430 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		水谷 雅彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		信頼の倫理学									
[授業の概要・目的]											
「信頼」というありふれた概念のもつ倫理的意味をコミュニケーション理論を援用しつつ考察する。											
[到達目標]											
古典的な倫理学における信頼の議論からはじめて、近年の社会学、心理学における信頼理論を再検討し、信頼概念の新しい可能性を探る。											
[授業計画と内容]											
第一回 イン트로ダクション 第二回～第三回 信頼理論のためのコミュニケーション理論的基礎 第四回～第八回 古典的信頼理論の概観。ホッブズ・ヒューム・カント 第九回～第十一回 ジンメル信頼論 第十二回～第十四回 ルーマンの信頼論 第十五回 前期まとめ 第十六回～第十八回 社会心理学的信頼論 第十九回～二十一回 会話分析と信頼論 第二十二回～第二十四回 多様な領域における信頼 第二十五回＝第二十七回 信頼の可視化と情報倫理学的問題 第二十八回～第三十回 まとめと討論											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業中の報告と年度末レポート。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
前の週に指定した文献を読んでくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET06 35431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 林 芳紀 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロールズ『正義論』第3部の検討(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>ロールズ『正義論』第3部を講読・検討する。この第3部では、公正としての正義と呼ばれるロールズの正義構想の安定性の問題が議論されており、後のロールズによる「政治的転回」を理解するうえでも非常に重要な箇所である。前期授業では、特に『正義論』第7章で展開されているロールズの善の理論（「合理性としての善さ」）について詳しく検討し、それを現代倫理学における福利の理論との関係の中で考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合理性としての善さと呼ばれるロールズの善の理論の要点を理解する。 ・ ロールズの善の理論を現代倫理学における福利の理論との関係の中で考察できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初3回の授業を全体の導入に充てる。以後は基本的に『正義論』第7章の章立てに沿う形で、以下の各項目について講読する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の順序は固定したものではなく、担当者の運営方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、担当者が適切に決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視座と問題意識：公正としての正義・現代福利論の基礎【3週】 2. 善の理論の必要性【1週】 3. いっそう単純な事例に即した善の定義・意味に関する覚え書き【2週】 4. 人生計画に即した善の定義【2週】 5. 熟慮に基づく合理性【2週】 6. アリストテレス的原理【2週】 7. 善の定義を人々に適用する【2週】 8. 合理性としての善さ：まとめと総括【1週】 フィードバック方法は授業中に説明します。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価（テキストの担当箇所の発表、および、授業内での積極的な発言）											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

[教科書]

必要に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

John Rawls 『A Theory of Justice: Revised Edition』 (Belknap Press of Harvard) ISBN:9780674000780
ジョン・ロールズ 『正義論 改訂版』 (紀伊國屋書店) ISBN:9784314010740

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・ 『正義論』第3部の議論は、それまでの箇所の議論をある程度前提としているので、ロールズ正義論についての基本的な知識(とりわけ『正義論』第1部)を事前に得ておくことが望ましい。
- ・ 事前に必ず該当講読箇所を読み、予習に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET06 35431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 林 芳紀 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロールズ『正義論』第3部の検討(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>前期に引き続き、ロールズ『正義論』第3部を講読・検討する。この第3部では、公正としての正義と呼ばれるロールズの正義構想の安定性の問題が議論されており、後のロールズによる「政治的転回」を理解するうえでも非常に重要な箇所である。後期授業では、特に『正義論』第7章で展開されているロールズの善の理論（「合理性としての善さ」）と、第9章で展開されている「正義と善さとの一致」に関する議論について詳しく検討し、ロールズの正義理論の中での自尊心の位置づけや、現代正義論における正義と善さとの一致の議論の重要性を考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ロールズの正義理論の中での自尊心の位置づけを理解できる。 ・ロールズによる正義と善さとの一致に関する議論の要点を理解できる。 ・正義と善さとの一致という問題を、現代正義論の文脈の中で考察できる。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初2回の授業を全体の導入に当てる。以後は基本的に『正義論』第7章および第9章の章立てに沿う形で、以下の各項目について講読する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。各項目の順序は固定したのではなく、担当者の運営方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、担当者が適切に決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の視座と問題意識：前期授業の復習【2週】 2. 自尊、卓越および恥辱【2週】 3. 正と善との間のいくつかの相違点【2週】 4. 自律と客観性【2週】 5. 社会連合という理念【2週】 6. 幸福と有力な人生目的【2週】 7. 自我の統一性【2週】 8. 正義と善さとの一致：まとめと総括【1週】 フィードバック方法は授業中に説明します。 											
【履修要件】											
前期に開講される同名題目(1)の授業を受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点評価（テキストの担当箇所の発表、および、授業内での積極的な発言）											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

[教科書]

必要に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

John Rawls 『A Theory of Justice: Revised Edition』 (Belknap Press of Harvard) ISBN:9780674000780
ジョン・ロールズ 『正義論 改訂版』 (紀伊國屋書店) ISBN:9784314010740

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・ 『正義論』第3部の議論は、それまでの箇所の議論をある程度前提としているので、ロールズ正義論についての基本的な知識(とりわけ『正義論』第1部)を事前に得ておくことが望ましい。
- ・ 事前に必ず該当講読箇所を読み、予習に努めること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET06 35431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 森村 進 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		福利と幸福の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の目的は、現代の英語圏を中心とするウェルビーイング（福利 幸福）の観念に関する諸説を検討するとともに、この観念を手掛かりとして倫理学上のいくつかの重要問題に取り組むことである。</p> <p>本授業ではウェルビーイング観念に関する一般的な「快樂説」「欲求実現説」「客観的リスト説」という三分法を基本的に採用し、これらの説に対する代表的な賛否の議論を検討した後で、幸福の時間的単位、比較可能性、分配的正義との関係、さまざまな科学における幸福の概念、Why be moral?論との関係、道徳内部における地位といった問題を取り上げたい。</p> <p>程度の差はあるが、説得力あるいかなる倫理学説も幸福の重要性を認めるだろうから、これらの問題の検討は多様な倫理学説の理解にも資するところが大だろう。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 幸福・ウェルビーイングの観念に関するさまざまなとらえ方を理解する。</p> <p>(2) その観念が倫理学の諸理論の中で占めている地位、果たしている役割を理解する。</p> <p>(3) その観念が経済学や法学といった他の学問分野や社会政策においてどのように使われているかを知り、倫理学における議論との異同を理解する。</p> <p>(4) 幸福の哲学内部のさまざまな議論のパターンを知ることにより、現代の分析哲学の発想法や議論の仕方を学び、使いこなせるようになる。</p> <p>(5) 日常的あるいは人生論的な幸福論の内容をより明確かつ厳密に説明し、評価できるようになる。</p> <p>(6) 哲学的価値論の基本的論点を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進み具合、参加者の関心、扱う問題の難易度に対応して順序等変えることがある。</p> <p>第1回 幸福・ウェルビーイングの哲学とは何か；効用・福利・エウダイモニアなどの用語法</p> <p>第2-3回 快樂説の検討</p> <p>第4-5回 欲求実現説の検討</p> <p>第6-7回 客観的リスト説の検討</p> <p>第8-9回 折衷説の検討</p> <p>第10回 幸福度判断の時間的単位</p> <p>第11回 幸福と「一生のかたち」</p> <p>第12回 正と死の価値と反価値</p> <p>第13回 効用の比較可能性</p> <p>第14回 分配的正義および人口問題</p>											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

第15回 道德内部の幸福の位置づけ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業内での発言（20点）、レポート課題（80点）により評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

森村進 『幸福とは何か』（ちくまプリマー新書）
受講希望者は受講前に眼を通して下さい

【参考書等】

（参考書）

ラザリ＝ラデク、シンガー 『功利主義とは何か』（岩波書店）
パーフィット 『理由と人格』（勁草書房）
松元、井上（編） 『人口問題の正義論』（世界思想社）

もし余裕があれば、参考書も関心に応じて一読して下さい。
それ以外に必要な文献があればコピーして配布する予定なので、授業後に読む時間を取っておいてください。

【授業外学習（予習・復習）等】

授業中の指示に応じて、指定文献の事前読み込みを行って下さい。

（その他（オフィスアワー等））

講義中でも講義後でも構いませんが、活発な質問を歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 6 0

科目ナンバリング		U-LET06 35440 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		水谷 雅彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		倫理学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。											
[到達目標]											
倫理学に関する論文執筆とプレゼンテーションの能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
出席者が自分の研究内容について報告し、討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジюмеを提出すること。他専修の参加も歓迎するが、倫理学専修の大学院生は必修。なお、報告者は必ず報告の一週間前に完全原稿を配布すること。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告と討論への参加によって評価する。但し報告しなかった3回生については平常点による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
事前配布レジюмеを熟読のこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系 6 1

科目ナンバリング		U-LET06 35440 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		水谷 雅彦 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2019・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		応用倫理学演習									
[授業の概要・目的]											
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。											
[到達目標]											
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆の能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
生命倫理・環境倫理・ビジネス倫理・工学倫理などの応用倫理学に関する諸問題を検討する。若干の予備的講義の後、毎週出席者による発表と討論を行う。他学部、倫理学専修以外の出席者も歓迎する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告の評価と出席などの平常点による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
特になし。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET06 35443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 北尾 宏之 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		カント『道徳形而上学』の研究									
[授業の概要・目的]											
カント倫理学の重要著作 Metaphysik der Sitten(『道徳形而上学』)の「法論」第2部の精読。カント倫理学・政治哲学についての知見を深めることを目的とする。あわせてドイツ語テキストの読解力の養成をめざす。											
[到達目標]											
カント倫理学・政治哲学についての知見を深める。 ドイツ語テキストの読解力を養う。											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イン트로ダクション カント倫理学の歩みおよび『道徳形而上学』の位置づけを説明する。使用テキストおよび基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。</p> <p>第2回～第14回 カント『道徳形而上学』の精読 毎時間、あらかじめ担当者を決めることなく、全員に訳読してもらい、解説を加え、内容について討論する。進度は、毎時間1ページ～1ページ半を予定しているが、受講者の語学力も勘案する。ドイツ語未習者については、英語訳の利用も可とする。必要に応じて、カントのその他の著作(たとえば『実践理性批判』や『道徳形而上学の基礎づけ』など)にあたりたりすることもあるが、まずは上記テキストを詳細に検討する。</p> <p>第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点(50%)と期末レポート(50%)											
[教科書]											
Immanuel Kant 『Metaphysik der Sitten』 テキストは初回授業時に配布するので、各自で購入する必要はありません。											
----- 倫理学(演習)(2)へ続く -----											

倫理学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎時間の進度は多くはないが、難解なテキストであるので、それなりの予習時間が必要となるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET06 35443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 教授 北尾 宏之 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		カント『道徳形而上学』の研究									
【授業の概要・目的】											
カント倫理学の重要著作 Metaphysik der Sitten(『道徳形而上学』)の「法論」第2部の精読。カント倫理学・政治哲学についての知見を深めることを目的とする。あわせてドイツ語テキストの読解力の養成をめざす。											
【到達目標】											
カント倫理学・政治哲学についての知見を深める。 ドイツ語テキストの読解力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション カント倫理学の歩み、『道徳形而上学』の位置づけ、前期セメスターで読了したところの要点を説明する。使用テキストおよび基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。</p> <p>第2回～第14回 カント『道徳形而上学』の精読(前期セメスターのつづき) 毎時間、あらかじめ担当者を定めることなく、全員に訳読してもらい、解説を加え、内容について討論する。進度は、毎時間1ページ～1ページ半を予定しているが、受講者の語学力も勘案する。ドイツ語未習者については、英語訳の利用も可とする。必要に応じて、カントのその他の著作(たとえば『実践理性批判』や『道徳形而上学の基礎づけ』など)にあたったりすることもあるが、まずは上記テキストを詳細に検討する。</p> <p>第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点(50%)と期末レポート(50%)											
----- 倫理学(演習)(2)へ続く -----											

倫理学(演習)(2)

[教科書]

Kant 『Metaphysik der Sitten』

テキストは初回授業時に配布するので、各自で購入する必要はありません。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎時間の進度は多くはないが、難解なテキストであるので、それなりの予習時間が必要となるであろう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 6 4

科目ナンバリング		U-LET06 35443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		レヴィナスを読む									
[授業の概要・目的]											
<p>レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。</p> <p>授業では彼の第二の主著とされる1974年のAutrement qu'être ou au-delà de essence. (『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』)の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。</p>											
[到達目標]											
レヴィナスの著作を精読することで、レヴィナスの思想を理解するとともに、道徳を極限まで押しつめて考える彼の思想を通じて、道徳というものを改めて考えなおすことをめざす。											
[授業計画と内容]											
<p>上記の著作はレヴィナスの思想のひとつの到達点である。授業はこの著作の中から「強迫」「痕跡」等々、第一の主著とされる『全体性と無限』の倫理観を先鋭化したとも言える主要概念を選び、その検討を行なう。そのためにふさわしい箇所を抜粋、熟読することで、彼の特異な倫理思想の大枠の理解を試みたい。</p> <p>第1回:ガイダンス 第2回～第14回:『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』の該当箇所の精読 フィードバックについては授業で周知する。</p>											
[履修要件]											
仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
テキストは上記著作の該当箇所をプリントにして配付する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
当日授業で扱う箇所の予習は不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系 6 5

科目ナンバリング		U-LET06 35443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		佐藤 義之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		レヴィナスを読む									
[授業の概要・目的]											
<p>レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。</p> <p>授業では彼の第二の主著とされる1974年のAutrement qu'être ou au-delà de essence. (『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』)の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。</p>											
[到達目標]											
レヴィナスの著作を精読することで、レヴィナスの思想を理解するとともに、道徳を極限まで押しつめて考える彼の思想を通じて、道徳というものを改めて考えなおすことをめざす。											
[授業計画と内容]											
<p>前期に引き続き、上記著作をテキストとして扱う。後期においては前期の基本的倫理思想の理解をふまえて、彼のこの時期の新展開と言える、「正義」「語ることと語られること」などの諸概念に関連する箇所を抜粋し熟読する。</p> <p>第1回:ガイダンス 第2回～第14回:『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』の該当箇所の精読 フィードバックについては授業で周知する。</p>											
[履修要件]											
仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
テキストは上記著作の該当箇所をプリントにして配付する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
当日授業で扱う箇所の予習は不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET07 25502 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(宗教学A)(講義) Philosophy of Religion A (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		宗教哲学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>宗教と哲学は、人間存在の根本に関わる問いを共有しながらも、歴史的に緊張をはらんだ複雑な関係を結んできた。その全体を視野に入れて思索しようとする宗教哲学という営みは、多面的な姿ととりながら歴史的に進展し、現代でも大きな思想的可能性を秘めている。この授業では、その今日までの変遷を通時的に追うことによって、宗教哲学という複雑な構成体について、受講者が一通りの見取図を得られるようにすることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>宗教と哲学の関係とその変遷を、両者が切れ結ぶ根本の問いにまで遡ってとらえる態度を身につける。それによって、宗教のもつ広大な意味世界への関心を養うとともに、哲学の概念的思考を生きた問題につなげられるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマについて授業を行っていく（細部は変更の可能性あり）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教と哲学：根本の問いから考える。 2. ミュートスからロゴスへ：哲学の誕生 3. ソクラテス、プラトン、アリストテレス：哲学における神 4. ユダヤ教、キリスト教、イスラム教：啓示と信仰の神 5. ヘブライズムとヘレニズムの出会い：キリスト教神学の成立 6. 中世における神学と哲学：スコラ哲学と神秘主義 7. 近世形而上学：デカルトと哲学的神学の流れ 8. 宗教哲学の成立と展開(1)：カントとシュライアマハー 9. 宗教哲学の成立と展開(2)：ヘーゲルとキルケゴール 10. 「神の死」とニヒリズム：ニーチェ 11. 哲学と宗教の「解体」的反復：ハイデガー 12. 日本の宗教哲学と仏教的伝統(1)：西田幾多郎 13. 日本の宗教哲学と仏教的伝統(2)：九鬼周造 14. アウシュヴィッツ以降の宗教哲学：レヴィナス 15. 今日の宗教哲学の課題 <p>* フィードバックの仕方については授業中に説明する。</p>											
----- 系共通科目(宗教学A)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(宗教学A)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

期末の定期試験（筆記）による。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

授業でわからなかった点について自分で調べる事。それでもわからなかった点については、次の授業で質問すること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、後期の宗教学B（講義）と密接に関連し、相補的な意味をもつものである。両方を合わせて受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 25503 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(宗教学B)(講義) Philosophy of Religion B (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		宗教学と宗教学 基本文献解題									
【授業の概要・目的】											
<p>宗教学とは、哲学の一形態であると同時に、宗教学研究のさまざまな道の一つでもある。この両面性とそれによる独自の意義が理解できるように、この授業では、宗教学と宗教学の歴史的関係を明らかにした上で、基本となる文献を幅広く選び、それぞれについて読解の手がかりとなるような解題を行っていく。それを通して、この分野における過去の重要な思索を自ら追思索し、宗教学という事象を視野に入れた哲学的・学問的思索の一端に触れることが、この授業の目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>宗教学と宗教学がどのような問いを開拓し、それをどのように思索してきたかを理解するとともに、思想的な文献に触れることを通して自ら思索する方法を学び、研究のための基礎力を身につけられるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマについて授業を行っていく（細部は変更の可能性あり）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教学と宗教学(1)：歴史的位置づけ 2. 宗教学と宗教学(2)：さまざまなアプローチ 3. 宗教学と宗教学(3)：現代的課題 4. パスカル『パンセ』：考える葦と隠れたる神 5. ヒューム『宗教の自然史』：経験主義的宗教論の嚆矢 6. カント『単なる理性の限界内の宗教』：根源悪論と宗教学 7. ニーチェ『道徳の系譜学』：ラディカルな宗教批判 8. ジェイムズ『宗教的経験の諸相』：宗教心理学の方法 9. 西田幾多郎『善の研究』：日本の宗教学の出発点 10. モース『贈与論』：宗教社会学の豊饒な可能性 11. ハイデガー『存在と時間』：「現存在」と「死への存在」 12. ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』：静的宗教と動的宗教 13. エリアーデ『聖と俗』：宗教現象学の射程 14. ヨナス『アウシュヴィッツ以後の神概念』：神概念の解体的変容 15. 総括 <p>* フィードバックの仕方については授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(宗教学B)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(宗教学B)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

期末の定期試験（筆記）による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業でわからなかった点について自分で調べる。それでもわからなかった点については、次の授業で質問すること。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、前期の宗教学A（講義）と密接に関連し、相補的な意味をもつものである。両方を合わせて受講するのが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		キリスト教思想研究入門A									
【授業の概要・目的】											
この特殊講義は、すでに系共通科目「キリスト教学講義」を受講し、キリスト教思想研究に関心のある学部生、あるいはキリスト教研究の基礎の習得をめざす大学院生を対象に行われる。キリスト教思想研究を目指す際に身につけておくべき事柄について、またいかなるテーマをどのように取り上げるのかについて、解説を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教学をテーマとした研究（卒論・修論）を行うために必要な方法や知識を身につけることができる。 ・キリスト教研究に関する広い知見をもとに、自主的な研究に取り組む能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>本年度前期のテーマは、「宗教改革から近代キリスト教思想へ」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 0．オリエンテーション 1．現代キリスト教思想の基本動向 2．現代神学1：自由主義神学と弁証法神学 3．カール・バルト 4．ブルトマン 5．ボンヘッファー 6．ティリッヒ 7．H・リチャード・ニーバー 8．ブルトマン学派と解釈学的神学 9．現代神学2、あるいはポスト近代 10．解放の神学 11．科学技術の神学 12．モルトマン 13．パネンベルク 14．アジア・アフリカ神学 15．フィードバック <p>フィードバックの具体的なやり方については授業にて説明を行う。</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートによる。(講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う。)
レポート内容についての相談は、個別的に行う。

【教科書】

使用しない
授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
授業において配付する資料によって、指示。

【授業外学習(予習・復習)等】

受講生には、講義内容を理解するために必要な復習を行うのはもちろんのこととして、各自の研究テーマとの関係づけを行うための発展的な学習が求められる。必要に応じて講義担当教員との研究相談を行うことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		キリスト教思想研究入門B									
【授業の概要・目的】											
この特殊講義は、すでに系共通科目「キリスト教学講義」を受講し、キリスト教思想研究に関心のある学部生、あるいはキリスト教研究の基礎の習得をめざす大学院生を対象に行われる。キリスト教思想研究を目指す際に身につけておくべき事柄について、またいかなるテーマをどのように取り上げるのかについて、解説を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教学をテーマとした研究（卒論・修論）を行うために必要な方法や知識を身につけることができる。 ・キリスト教研究に関する広い知見をもとに、自主的な研究に取り組む能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
本年度後期のテーマは、「旧約聖書と哲学的問い」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。											
<ul style="list-style-type: none"> 0．オリエンテーション 1．「文化の神学」の構想 2．聖書翻訳の意義 3．告白文学の系譜 4．修道制と文化構築 5．死と死後世界：煉獄思想の誕生 6．教会建築のコスモロジー 7．宗教改革と国民国家・国民文学 8．近代文学1：英文学 9．近代文学2：フランス文学 10．近代文学3：ドイツ文学 11．近代文学4：ロシア文学 12．近代文学5：日本文学 13．キリスト教と映画 14．キリスト教と音楽 15．フィードバック 											
フィードバックの具体的なやり方については授業にて説明を行う。											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートによる。（講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う。）
レポート内容についての相談は、個別的に行う。

【教科書】

授業中に指示する
授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
授業において配付する資料によって、指示。

【授業外学習（予習・復習）等】

受講生には、講義内容を理解するために必要な復習を行うのはもちろんのこととして、各自の研究テーマとの関係づけを行うための発展的な学習が求められる。必要に応じて講義担当教員との研究相談を行うことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（火3・水3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「解釈(学)」をめぐる諸考察 その宗教/哲学的射程									
【授業の概要・目的】											
<p>「哲学者たちは世界をさまざまに解釈してきたにすぎない。だが、大事なのは世界を変えることなのだ」(マルクス)。しかし、哲学と宗教の双方において、その原点となる言葉や書物に立ち返り、それをたえず新たに「解釈」していくことで思索を更新していくという営みがつねに行われてきた。そして、この営みについて「解釈学(Hermeneutik)」の名の下で方法的反省が繰り返られるようになり、20世紀以降には、哲学・宗教思想においてひとつの重要な潮流となっていく。</p> <p>「解釈」とは何をすることなのか。「解釈学」は宗教哲学にとっていかなる意義をもちうるのか。この授業では、そういった問題について、思想史的な流れをたどりながら考究していきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1. 「解釈」や「解釈学」をめぐる哲学・宗教思想史上の主要な考察を理解し、自ら思索していく上での基礎となる見識を身につける。</p> <p>2. 個々の思想家や思想的立場についての歴史的研究を、哲学的・宗教哲学的な思索へと関連づける仕方を学び、それを自らの学習や研究に役立てられるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2, 3回の授業を充てて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展を直接反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性ある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「解釈」とは何をすることか 導入的考察 2. 「解釈学」の前史 3. 「哲学的解釈学」の由来と展開 4. 宗教的言語の解釈(学) 5. 哲学的解釈学と宗教的解釈学 <p>なお、最後の授業は、本学期の講義内容全体をめぐる質疑応答と議論の場とし、講義内容の受講者へのフィードバックを図る。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

初回の授業の際に文献表を配布するので、自らの興味に応じていくつかのテキストを選んで精読し、自らの問いを携えて授業に参加できるように準備してほしい。また、各回の授業の後は、その回に扱った文献に目を通し、自分の思考を触発した部分を中心に、理解した事柄を自分の言葉でまとめ直すようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は、同じ教員が担当する後期の特殊講義に比べると、とくに学部生や修士課程学生の便宜を考えて、基本的な事柄の解説や情報提供に重点をおいている。そうすることで、この授業の受講が後期の特殊講義受講に向けての準備にもなるように配慮している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		田辺哲学研究									
[授業の概要・目的]											
<p>田辺元の哲学的思索は、その異様なまでの凝縮度と彼固有の論理への偏愛によって異彩を放っている。田辺は西洋哲学の最前線の動向、諸学問の最新の成果を飽くことなく摂取し、歴史的現実にもそのつど敏感に反応しつつ、それら全てに自前の思索によって緊密な総合を与えるべく、生涯血の滲むような努力を続けた。彼の濃密にすぎる文章はそのようにして生み出されたものである。この凝縮体を丁寧に解きほぐし、そこに封じ込められたさまざまな展開可能性を切り出すことによって、今日のわれわれがリアルな接触をもちうるような形で語り直すこと。それが本講義の狙いとするところである。本年度は、『懺悔道としての哲学』(1946)以降の後期田辺哲学の中核となった「実存協同」の概念の展開を追跡しつつ、1950年代以降の晩年の田辺の思索の二本柱というべき「死の哲学」と象徴主義文学への取り組みを扱いたい。この二系統の思索を、単に同時期になされた二つの探究として並列するのではなく、両者の深い次元での照応関係を再構成しつつ、同時代の西洋思想の布置の中に置き直すことが目的である。</p>											
[到達目標]											
<p>1．田辺哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な田辺のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</p> <p>2．一人の哲学者の思索の展開を、同時代的な思想連関の中で浮かび上がらせていくための方法論と視座を身につける。</p> <p>3．日本哲学と宗教哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2, 3回の授業を充てて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性がある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 『懺悔道としての哲学』までの田辺哲学の概観 「実存協同」という概念の成立と展開 「死復活」と「無の象徴」：両概念の生成とその連関 田辺の「死の哲学」とハイデガー 田辺の象徴主義文学研究と偶然性の問題 <p>なお、最後の授業は、本学期の講義内容全体をめぐる質疑応答と議論の場とし、講義内容の受講者へのフィードバックを図る。</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う田辺の主要テキストと参考文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後には、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の思索との接点を組織的に探ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は田辺哲学研究という体裁をとるが、必ずしも田辺哲学のみを扱うわけではない。むしろ、田辺の思索が同時代の国内外の諸思想に触発され、それらを驚くべき密度で消化吸収しながら展開していく様子を浮かび上がらせることによって、田辺哲学のみならず、田辺が吸収していった同時代の諸思想の方の哲学的潜勢力をも、新たな視点から掘り起こしていくことを目指している。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や諸学問の動向に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 下田 正弘 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		仏教思想論 歴史と解釈									
[授業の概要・目的]											
<p>仏教学は、洋の東西の人文学が邂逅して出現した近代人文学の縮図であり、その研究史には、近代から現代に至るまでの種々の思想的課題が、潜在的なかたちで胚胎されている。本講義は、近代における仏教研究の歴史を概観し、そこにふくまれた思想的課題を、歴史学と解釈学の弁別と調和という観点から照らし出す。</p>											
[到達目標]											
<p>仏教思想が構成されてきた歴史をたどることによって、その思想的特性を理解するとともに、研究史と研究との密接不可分な関係が把握できるようになる。ポスト近代を徴づける言語論的転回が便宜的歴史に依拠しがちな人文学をいかに深化させるかが、仏教学の最新の研究の批判的考察することを通して、理解できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>(研究史批判)</p> <p>第1回 知の対象としての仏教</p> <p>第2回 仏教歴史化の困難と歴史的ブツダ像の創出</p> <p>第3回 先行形象化としての初期仏教</p> <p>第4回 線的史観からトポスへ 大乘仏教研究の現在</p> <p>(方法論の多様化)</p> <p>第5回 社会人類学からの挑戦</p> <p>第6回 文献外世界の仏教</p> <p>第7回 東西思想が融合する研究パノラマ</p> <p>(聖典、聖人、トポス)</p> <p>第8回 聖典としての仏教</p> <p>第9回 非言語的エクリチュールと仏典</p> <p>第10回 聖人と場</p> <p>(仏教思想概観)</p> <p>第11回 無我から空へ 仏教思想の根底</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

- 第12回 二真理説の意義 言語と存在
第13回 意識の奥底へ 体系的思想としての唯識
第14回 仏の内部から外部へ 如来蔵思想
第15回 総括

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

1. 授業のうち数回、リアクション・ペーパーを提出してもらう予定。それを点数として重視（40パーセント）。
2. 授業終了時のレポート（60パーセント）

【教科書】

使用しない
プリントを配布します。

【参考書等】

- （参考書）
下田正弘他『大乘仏教とは何か』（春秋社）（第二章「経典研究の展開から見た大乘仏教」を参照。）
下田正弘他『大乘仏教の誕生』（春秋社）（第二章「経典を創出する 大乘世界の出現」を参照。）
下田正弘他『智慧／世界／ことば 大乘仏典 』』（春秋社）（第一章「初期大乘仏教のあらたな理解に向けて」を参照。）
下田正弘他『如来蔵と仏性』（春秋社）（第一章「如来蔵・仏性思想のあらたな理解に向けて」を参照。）
下田正弘他『仏と浄土 大乘仏典II』（春秋社）（第一章「浄土思想の理解に向けて」参照。）
それ以外の文献については授業中に紹介。

【授業外学習（予習・復習）等】

予習については特にありません。復習については、授業中に気になった点について、各自が自主的に学びを深めていただくことを期待します。

（その他（オフィスアワー等））

比較的すぐに回答ができる質問については、集中講義期間中にお答えします。それ以外の質問についてはメールでお答えします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Paul Ricoeur, La symbolique du mal を読む									
【授業の概要・目的】											
『悪のシンボリズム』は、ポール・リクールが「意志の哲学」の第2巻『有限性と罪責性』の第2分冊として1960年に刊行した著作である。この著作は、リクール哲学が「解釈学」へと変貌する転機となっただけでなく、同時期に刊行されたガダマーの『真理と方法』と共に、20世紀後半の解釈学的哲学を方向づける記念碑的な著作となった。 本演習では、この著作の序論を中心に精読していくことによって、哲学と宗教において「解釈」という営みがもつ意義と射程について、共に考察していきたい。											
【到達目標】											
1．演習での訳読作業を通して、フランス語の哲学テクストを読みこなすための基本的な語学力を身につける。 2．演習での教員による指導を通して、哲学テクストの精密な読解方法、およびそれを自分の思索に活用するための基本的な方法を身につける。 3．リクルールの重要著作を教師の指導と解説の下で通読することによって、リクール思想の根本問題とその哲学的・宗教哲学的意義を把握できるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 導入 テクストを読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。 第2回 14回 リクール『悪のシンボリズム』の序論を1回当たり2,3頁のペースで読み進めていく。 第15回 論文の全体を振り返り、疑問点等について出席者全員で討議を行う。 *フィードバックの方法は授業中に指示する。											
【履修要件】											
第二外国語としてフランス語を履修していることを絶対条件とするわけではないが、フランス語初心者は、できるだけ早いうちに訳読作業を行う上で最低限必要な語学力を身につけるように努めてほしい。											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加)(40%)と学期末のレポート(60%)による。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

Paul Ricoeur 『Philosophie de la volonté II Finitude et culpabilité』 (Aubier) ISBN:978-2700731033

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業前にはテキストを時間をかけて精読し、語学的・内容的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との関連で、深く掘り下げてみたい事柄について、問いを用意してることが望ましい。

授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Jankelevitch, La mort を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ここ10年来、哲学や宗教が長らく根本問題の一つとしてきた死や死者という問題が、たとえば「死生学」といった新たな意匠の下で盛んにとりあげられてきたが、その際「一人称の死」「二人称の死」「三人称の死」という区分法が自明の事のように用いられてきた。それを最初に提示したのが、ジャンケレヴィッチの名著『死』(1966)である。死の三区分が便利な符牒として独り歩きする一方で、独自の用語を駆使し濃密な文章で展開されるこの著の叙述自体は、ほとんどまともに理解されていないと言っても過言ではない。</p> <p>今期の授業では、昨年度に続いて、この著の第2部「死の瞬間における死」の第3章「不可逆なものおよび第4章「取り消しえないもの」から重要箇所を抜粋して読み、ジャンケレヴィッチの独特の形而上学的思索が死の問いへと迫る仕方を精密に理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>1．演習での訳読作業を通して、フランス語の哲学テクストを読みこなすための基本的な語学力を身につける。</p> <p>2．演習での教員による指導を通して、哲学テクストの精密な読解方法、およびそれを自分の思索に活用するための基本的な方法を身につける。</p> <p>3．ジャンケレヴィッチの重要著作の一つを教師の指導と解説の下で通読することによって、ジャンケレヴィッチ思想の根本問題とその哲学的・宗教哲学的意義を把握できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 テクストを読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。</p> <p>第2回 第2部前半までの内容紹介 昨年度の演習で取り上げた箇所を中心に紹介する。</p> <p>第3回 14回 ジャンケレヴィッチ『死』の第2部「死の瞬間における死」の第3章と第4章から抜粋した箇所を、1回当たり2頁程度のペースで精読していく。</p> <p>第15回 読み終えた箇所全体を振り返り、疑問点等について出席者全員で討議を行う。</p> <p>* フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

[履修要件]

第二外国語としてフランス語を履修していることを絶対条件とするわけではないが、フランス語初心者は、できるだけ早いうちに訳読作業を行う上で最低限必要な語学力を身につけるように努めてほしい。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加)(50%)と学期末のレポート(50%)による。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

Vladimir Jankelevitch 『La mort』(Flammarion) ISBN:2081218747 (テキストのコピーは授業中に配布する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業前にはテキストを時間をかけて読みこみ、語学的・内容的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との関連で、深く掘り下げてみたい事柄について、問いを用意してることが望ましい。

授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		キリスト教思想の基本文献を読む									
【授業の概要・目的】											
キリスト教思想を理解し、研究するには、その基本的な文献を広くまた深く読むことが必要である。この演習では、近代以降のドイツ語による文献を精読することによって、キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上をめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語テキストを精読することによって、ドイツ語テキストに基づいたキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。 ・近代キリスト教思想に関する基本的事項の理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>今年度は、昨年度に引き続き、ティリッヒのキリスト教思想に関わる文献から、次のものを取り上げ、演習を行う。</p> <p>Paul Tillich, Vorlesungen ueber Geschichtsphilosophie und Sozialpaedagogik (Frankfurt 1929/30), Ergaenzungs- und Nachlassbaende zu den Gesammelten Werken XV, De Gruyter, 2007.</p> <p>第1回：オリエンテーション（演習の目的、進め方などの説明）</p> <p>第2回：ティリッヒ神学の概観（講義）と演習担当者の決定</p> <p>第3～15回：担当者によるテキストの精読と討論</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。											
【教科書】											
使用するテキストについては、コピーを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 宗教学(演習) (2)へ続く -----											

宗教学(演習) (2)

[授業外学習(予習・復習)等]

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストの精読によって訳を行い、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で(これらを記載したレジメを作成すること)、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加すること。なお、受講者には、指定テキスト以外の文献の検討とその報告が求められる点に留意いただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に一回以上の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		レヴィナスを読む									
[授業の概要・目的]											
<p>レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。</p> <p>授業では彼の第二の主著とされる1974年のAutrement qu'être ou au-delà de essence. (『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』)の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。</p>											
[到達目標]											
レヴィナスの著作を精読することで、レヴィナスの思想を理解するとともに、道徳を極限まで押しつめて考える彼の思想を通じて、道徳というものを改めて考えなおすことをめざす。											
[授業計画と内容]											
<p>上記の著作はレヴィナスの思想のひとつの到達点である。授業はこの著作の中から「強迫」「痕跡」等々、第一の主著とされる『全体性と無限』の倫理観を先鋭化したとも言える主要概念を選び、その検討を行なう。そのためにふさわしい箇所を抜粋、熟読することで、彼の特異な倫理思想の大枠の理解を試みたい。</p> <p>第1回:ガイダンス 第2回～第14回:『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』の該当箇所の精読 フィードバックについては授業で周知する。</p>											
[履修要件]											
仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
テキストは上記著作の該当箇所をプリントにして配付する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
当日授業で扱う箇所の予習は不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

哲学基礎文化学系 77

科目ナンバリング		U-LET07 35541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		佐藤 義之 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		レヴィナスを読む									
[授業の概要・目的]											
<p>レヴィナスは倫理の問題を手がかりに、旧来の哲学の根本的革新を企て、思想界に大きな影響を残した。</p> <p>授業では彼の第二の主著とされる1974年のAutrement qu'être ou au-delà de essence. (『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』)の仏語原文をテキストとして、彼の思想を理解する。</p>											
[到達目標]											
レヴィナスの著作を精読することで、レヴィナスの思想を理解するとともに、道徳を極限まで押しつめて考える彼の思想を通じて、道徳というものを改めて考えなおすことをめざす。											
[授業計画と内容]											
<p>前期に引き続き、上記著作をテキストとして扱う。後期においては前期の基本的倫理思想の理解をふまえて、彼のこの時期の新展開と言える、「正義」「語ることと語られること」などの諸概念に関連する箇所を抜粋し熟読する。</p> <p>第1回:ガイダンス 第2回～第14回:『存在するとは別の仕方、あるいは存在することの彼方に』の該当箇所の精読 フィードバックについては授業で周知する。</p>											
[履修要件]											
仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点											
[教科書]											
テキストは上記著作の該当箇所をプリントにして配付する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
当日授業で扱う箇所の予習は不可欠である。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET07 25543 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学（基礎演習） Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		宗教哲学基礎演習A									
【授業の概要・目的】											
<p>宗教哲学の諸問題を考えるための基本となる文献を選び、宗教学専修の大学院生にも協力を仰ぎながら、それらを共に読み進み、問題を掘り起こし、議論を行う場となる授業である。授業への能動的な参加を通して、より専門的な研究への橋渡しになるような知識と思考法の獲得を目指す。宗教学専修の学部生の必修授業であるが、哲学と宗教が触れ合う問題領域に関心をもつ2回生、および他専修学生の参加も歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>宗教哲学の基本文献に馴染み、そこで問われてきた諸問題を自らの関心と結びつけて取り扱えるようになる。とくに宗教学専修の学部生については、この作業を通して、宗教哲学・宗教学に関する自らの研究課題を発見し、それを掘り下げていくための基本的能力を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>「人間とは何か」という問い、あるいはそのように問うことが宗教哲学においていかなる意味をもつかという問いを導きとして、九鬼周造「人間学とは何か」(1938)と西谷啓治「現代における人間の問題」を共に通読していく。各回2,3人の担当者を決め、授業の前半は、担当者の内容要約および考察の発表に充てる。授業の後半では、教員の司会進行の下、発表内容をめぐって、チューターの大学院生たちも交えて、質疑応答と議論を行っていく。隔週授業のため、全7回として各回のテーマを記しておく。（詳細は変更の可能性あり）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 九鬼周造「人間学とは何か」(1) 3. 九鬼周造「人間学とは何か」(2) 4. 九鬼周造「人間学とは何か」(3) 5. 西谷啓治「現代における人間の問題」(1) 6. 西谷啓治「現代における人間の問題」(2) 7. 総括 <p>* フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 宗教学（基礎演習）(2)へ続く -----											

宗教学（基礎演習）(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（発表・討論への参加、場合によっては小レポート等）による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

九鬼周造 『人間と実存』（岩波文庫）ISBN:978-4003314654

西谷啓治 『西谷啓治著作集 第14巻』（創文社）ISBN:978-4423197141

[授業外学習（予習・復習）等]

この授業は受講者があらかじめ指定の文献を熟読してくることを前提とするものである。最初は相当時間がかかるだろうが、ともかく全体を通読し、分からない点を明確にしてきてほしい。授業後は、教員とチューターの説明や質疑応答を通して新たに理解できたことを手がかりに、もう一度文献を読み直し、要約ノートを作るなど、自分の言葉でそれを咀嚼し直してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、後期の「宗教哲学基礎演習B」と狙いを共有し、密接な関連をもつものである。どちらも宗教学専修の学部生の必修授業となっているので、必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 25543 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学（基礎演習） Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		杉村 靖彦 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		宗教哲学基礎演習B									
【授業の概要・目的】											
<p>宗教学の基本文献を教師とチューター役の大学院生の解説を手がかりに読み進めていくことで、より専門的な研究への橋渡しになるような知識と思考法の獲得を目指す。4回生以上の宗教学専修在籍者にとっては、卒論の中間発表の場ともなる。</p> <p>宗教学専修の学部生を主たる対象とするが、哲学と宗教が触れ合う問題領域に関心をもつ2回生、および他専修学生の参加も歓迎する。</p>											
【到達目標】											
<p>宗教学の基本文献に馴染み、そこで問われてきた諸問題を自らの関心と結びつけて取り扱えるようになる。とくに宗教学専修の学部生については、この作業を通して、卒業論文の作成に向けての準備態勢が整えられるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>宗教学の基本文献といえる著作や論文を選んで各回の授業に割り振り、事前に出席者に読んできてもらう。そして、毎回教師とチューター役の大学院生の解説をもとに、質疑応答と議論を行っていく。また、卒論向けの発表の際には、論述の仕方や文献の扱い方なども指導し、論文の書き方を学ぶための機会とする。</p> <p>隔週の授業のため、全7回として各回のテーマを記しておく。なお、どのような文献を取り上げるかは、前期の「宗教哲学基礎演習A」の様子を見て決めることにする。それによって、各回で取り上げる文献の種類も、以下の記したものと異なる可能性もある。</p>											
<p>第1回 オリエンテーション・卒業論文の中間発表 第2回 宗教学の基本文献(近代イギリス)の読解・解説・考察 第3回 宗教学の基本文献(近代フランス)の読解・解説・考察 第4回 宗教学の基本文献(近代ドイツ)の読解・解説・考察 第5回 宗教学の基本文献(現代フランス)の読解・解説・考察 第6回 宗教学の基本文献(現代ドイツ)の読解・解説・考察 第7回 宗教学の基本文献(京都学派の哲学)の読解・解説・考察</p>											
*フィードバックの方法は授業中に指示する。											
----- 宗教学（基礎演習）(2)へ続く -----											

宗教学（基礎演習）（2）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

学期末のレポートによる。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

この授業は受講者があらかじめ指定の文献を熟読してくることを前提とするものである。最初は相当時間がかかるだろうが、ともかく全体を通読し、分からない点を明確にしてきてほしい。授業後は、チューターの説明や質疑応答を通して新たに理解できたことを手がかりに、もう一度文献を読み直し、要約ノートを作るなど、自分の言葉でそれを咀嚼し直してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

この授業は、前期の「宗教哲学基礎演習A」と狙いを共有し、密接な関連をもつものである。宗教学専修の学部生はどちらも必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 25551 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(講読) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 下田 和宣 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		宗教 / 世俗の系譜学 その1 タラル・アサド『宗教の諸系譜』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>いわゆる「宗教概念論」の基礎文献である、現代の宗教研究者タラル・アサド (Talal Asad) の主著『宗教の諸系譜』 (Genealogies of Religion, 1993) を読む。</p> <p>「宗教」の概念は、ヨーロッパ近代、とりわけプロテスタンティズムの刻印を強く受けたものであり、他文化における信念・儀礼大系に対する適切な解釈フレームとは原理的になりえない、にもかかわらずこれまで無反省に自明なものとして語られてきた。こうした宗教概念批判の視点は、今日において「宗教」を考えるうえで不可欠なものである。とはいえ、その結論のみを受容し、いわゆる「宗教」ないし「宗教学」の「死」を宣言するだけでは、それらに代わる健全中立で無色透明の代替概念があるわけではない以上、「宗教」をめぐる現状を適切に理解することからはむしる離れてしまう危険もある。</p> <p>そこで本授業では、宗教概念論の批判的結論の手前にあり、それを導き出す研究手法としての「系譜学」に着目する。「宗教」をめぐる言説の歴史的・文化的形成に立ち返り、概念をそのコンテクストへと引き戻すことは、一方で暴露的・批判的なあり方を取るが、他方であくまでも歴史的探求であろうとする。アサドのテキストが持つそうした側面に着目することで、概念批判論の抽象性に満足するのではなく、歴史形成の文脈探査という形での (本質的に複数かつ多様な) 宗教研究の可能性を理解することが、本講読の目的となる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文の研究文献を読解するための基本的な技法を習得する。 ・ 文献の精読を通じて、宗教概念論の基礎を理解する。 ・ 宗教研究の系譜学的アプローチと宗教哲学の接点を探る。 ・ 本質的に越境的な研究方法である系譜学の可能性について考える 											
【授業計画と内容】											
<p>『宗教の諸系譜』の記述は、複数のアプローチを備えたものである。アサドによる系譜学的探究を理解するために、前期ではそのなかでもとりわけ第一章「人類学の範疇としての「宗教」の構築」を読む。宗教を「シンボル」の文化システムであると理解するクリフォード・ギアツの理論がそこでの分析対象となるので、ギアツや、さらにそれを遡るところのカッシーラー哲学についても適宜目を配りつつ読解を進めたい。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 西洋における宗教 (religion) の歴史について概観しつつ、その批判としての宗教概念論を確認する。そこから、アサド『宗教の諸系譜』の見取り図を示す。そのうえで、授業の進め方、および扱うテキストについて説明し、訳読の割り当てを決める。</p> <p>第2回～第14回 『宗教の諸系譜』第一章を読む 担当者は英文訳読の用意をする (一回の担当でだいたい半ページくらい)。原典に対する正確な理解のために、アサドが行う引用についても、調べてみる。段落ごとに内容要約を行い、その理解について議論する。</p>											
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----											

宗教学(講読)(2)

第15回 フィードバック

全体を振り返り、残された課題や問題点などについてまとめ、議論する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（出席・担当）、および補足的な発表で評価する。

【教科書】

Talal Asad 『Genealogies of Religion: Discipline and Reasons of Power in Christianity and Islam, 1993』（Johns Hopkins University Press）ISBN:0801895936（邦訳：『宗教の系譜 キリスト教とイスラムにおける権力の根拠と訓練』、中村圭志訳、岩波書店、2004年）
授業中にテキストのコピーを配布する。

【参考書等】

（参考書）

タラル・アサド、磯前純一編 『宗教を語りなおす 近代的カテゴリーの再考』（みすず書房）
ISBN:4622072300

磯前純一 『宗教概念あるいは宗教学の死』（東京大学出版会）ISBN:9784130104098

深澤英隆 『啓蒙と霊性 近代宗教言説の生成と変容』（岩波書店）ISBN:9784000227537

Clifford Geertz 『The Interpretation of Cultures』（Basic Books）ISBN:9780465097197（邦訳：『文化の解釈学』、全二巻、吉田禎吾・中牧弘允・柳川啓一・板橋作美訳、岩波書店、1987年）
その他、適宜紹介を行う。

【授業外学習（予習・復習）等】

毎回、指定された範囲を前もって読んでおくこと。訳読担当者は訳稿・担当箇所の要約を作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワー：木曜12:00～12:45、文学部棟八階、宗教学研究室

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET07 25551 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(講読) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 下田 和宣 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時間	木3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		宗教 / 世俗の系譜学 その2 タラル・アサド『世俗の諸形成』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>前期に引き続きタラル・アサドを扱うが、『宗教の諸系譜』と問題的に関連する『世俗の諸形成』(Formations of the Secular, 2003)が後期講読の対象である。</p> <p>「宗教」の反対語として真っ先に思い浮かぶのは「世俗」だろう。ところでこの対概念の布置状況が形成されたのは、まさにヨーロッパ近代においてであった。近代科学一般に通底する(がゆえに見えなくなっている)基本的スタンスとして、「世俗」は「宗教」からの分離を要求し、自身の自律性を主張する。そのとき「宗教」は、そこから切り離され排除されるべき対象領域として見なされる。その排除の身ぶりによって、脱宗教化・脱神話化としての「世俗化」の過程は、「宗教」概念の伝統的理解を強力に変形するのである。こうして「世俗」概念を研究することは、「宗教」の系譜学を補完するための不可欠な作業となる。</p> <p>今日において顕著なのは、「世俗」から切り離され縮小されたはずの「宗教」が再びいろいろな局面において語られるという事態である。いわばこの「宗教の回帰」において、宗教 / 世俗の二分法が何を意味していたのか、その自己主張によって規定されていた「ヨーロッパ近代」とはどのような時代だったのか、根底的に問い直されるのである。そうした「ポスト世俗主義」の時代状況を引き受けながら、しかしそれを素朴に権威化するのではなく、なお事態の理解を試みようとするのであれば、「宗教 / 世俗」の歴史的(諸)形成へと向かうアサドの系譜学的視点は、ひとつの有効な参照軸となりうるだろう。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文研究文献を読解するための基本的な技法を習得する。 ・ 「世俗」をめぐる諸言説に対する検討から「宗教」について逆照射する、というアサド特有のアプローチについて理解する。 ・ 宗教 / 世俗の意味形成に立ち返ることで「ヨーロッパ近代」の特異性と、それが我々の現在をいかに決定しているか、研究的に主題化するための手がかりを得る。 											
【授業計画と内容】											
<p>議論の前提となる「世俗」(secular)、「世俗主義」(secularism)、「世俗化」(secularisation)は非常に錯綜した経緯を持つ諸概念である。それらを解きほぐすためには、テキストの読解と並び、60年代ドイツにおける世俗化論争(ブルーメンベルク、レーヴィット、カール・シュミット等)をはじめ、最近の「ポスト世俗主義」についての議論(ハーバーマス、チャールズ・テイラー等)に配慮することも有効であろう。授業ではそれらの文脈も積極的に考慮したい。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 前期の復習、「世俗」をめぐる諸議論についての概説、授業の進め方および扱うテキストについて説明する。訳読の割り当てを決める。</p> <p>第2回～第14回 『世俗の諸形成』第一章「世俗主義の人類学とはどのようなものであろうか?」を読む 担当者は訳読の用意をする。原文および議論の背景に対する正確な理解のために、事項の調査を積</p>											
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----											

宗教学(講読)(2)

極的に行う。段落ごとの内容要約を行い、その理解について議論する。

第15回 フィードバック

全体を振り返り、残された課題や問題点などについてまとめ、議論する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（出席・担当）、および補足的な発表で評価する。

【教科書】

Talal Asad 『Formations of the Secular: Christianity, Islam, Modernity』（Stanford University Press）
ISBN:9780804747684（邦訳：世俗の形成 キリスト教、イスラム、近代』、中村圭志訳、みすず書房、2006年）
授業中にテキストのコピーを配布する。

【参考書等】

（参考書）

ハンス・ブルームベルク 『近代の正統性』（法政大学出版局）ISBN:4588006061（とくに『近代の正統性 世俗化と自己主張』、斎藤義彦訳、法政大学出版局、1998年）
ユルゲン・ハーバーマス、チャールズ・テイラー 『公共圏に挑戦する宗教 ポスト世俗化時代における共棲のために』（岩波書店）ISBN:4000229389

【授業外学習（予習・復習）等】

毎回、指定された範囲を前もって読んでおくこと。訳読担当者は訳稿・担当箇所の要約を作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワー：木曜12：00～12：45、文学部棟八階、宗教学研究室

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35602 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(キリスト教学)(講義) Christian Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		キリスト教学 A (講義)									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は、キリスト教とはいかなる宗教であるのか、という問いに対して、現代宗教学の立場から客観的に論じることが目標としている。本年度は、宗教現象としてのキリスト教の基本構造を現代宗教学の諸方法（宗教現象学、宗教社会学など）によって解明し、宗教心理学から現代聖書学へと考察を進める。これによって、現代宗教学の全体像が明らかにされる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗教現象としてのキリスト教の基本構造を現代宗教学の諸方法（宗教現象学、宗教社会学など）によって説明できるようになる。 ・ 多岐にわたる現代宗教学の全体像とその特徴についての的確に指摘できるようになる。 ・ 日常生活において出会う諸事象を宗教学的に考える力がつく。 											
【授業計画と内容】											
<p>講義は、1回に1テーマのペースで進めます。最後（16回目）のフィードバックの仕方については、授業中に説明します。</p> <p>オリエンテーション＋序論：現代世界におけるキリスト教の動向 第1講：現代宗教学の起源と意義 第2講：意味論から宗教論へ 第3講：究極的関心と信仰 第4講：聖なるものの現象学（1） 宗教の諸類型と神 第5講：聖なるものの現象学（2） オットーとエリアーデ 第6講：宗教的な象徴世界 第7講：宗教心理学 フロイト 第8講：宗教心理学 ユング 第9講：近代聖書学とは何か 第10講：古代イスラエル民族と起源神話 第11講：キリスト教起源神話とキリスト教の起源 第12講：聖書の深層構造 第13講：イエスと神の国 第14講：聖書の家族論、講義のまとめ</p> <p>試験 フィードバック</p>											
----- 系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

成績評価は、講義内容が的確に理解できているかを確かめるための定期試験による。定期試験の内容とポイントに関しては、授業（第14講の「まとめ」）において詳しい説明を行う。

【教科書】

使用しない

講義においては、毎回プリントを配付し、同じものを、KULASIS上にアップする。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

授業において配付する資料によって、指示。

【授業外学習（予習・復習）等】

授業は、全体が体系的に構成されているので、講義の流れを的確に理解することが求められる。そのため、配付プリントやノート（メモ）をもとに、講義内容を整理することが必要となり、さらに配付プリントに記載の参考文献などによる発展的な学習が望まれる。

（その他（オフィスアワー等））

受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（火3・水3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35604 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(キリスト教学)(講義) Christian Studies (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		キリスト教学B (講義)									
【授業の概要・目的】											
現代世界における宗教を論じる場合、グローバル化と多元化という二つの動向は決定的な意義を持っている。この講義では、キリスト教思想の新しい動向(宗教と科学との関係論)を、現代世界が直面する多様な諸問題との関わりで学ぶことを目標とする。そのために、キリスト教の思想的源泉である聖書とキリスト教史(科学思想の関係性の歴史=「宗教と科学」関係史に留意する)とを参照しつつ、問題の核心に迫りたい。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・聖書からはじまるキリスト教思想の歴史的展開に即して、またキリスト教と社会との多層的な関わりに応じて、キリスト教思想を論じることができるようになる。 ・キリスト教思想の現代的意義を具体的に問題に即して考える力がつく。 ・現代を生きるキリスト教の動向を「宗教と科学」関係論の観点から分析できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
授業は、1回に1テーマのペースで進められる。最後(16回目)のフィードバックの仕方については、授業中に説明します。											
<p>オリエンテーション+序論：キリスト教思想の意義</p> <p>第1講：聖書の創造論</p> <p>第2講：罪・悪の起源 エデン神話</p> <p>第3講：創造から知恵思想へ</p> <p>第4講：ヘレニズム世界とキリスト教</p> <p>第5講：キリスト教神学の成立と自然神学</p> <p>第6講：12世紀ルネサンスと中世科学</p> <p>第7講：宗教改革と近代科学 ケプラーとガリレオ</p> <p>第8講：ニュートンとデザイン神学</p> <p>第9講：啓蒙的近代とキリスト教</p> <p>第10講：進化論論争とは何だったのか</p> <p>第11講：キリスト教と生命論(1)</p> <p>第12講：キリスト教と生命論(2)</p> <p>第13講：キリスト教と環境論</p> <p>第14講：科学技術とキリスト教、講義のまとめ</p> <p>試験</p> <p>フィードバック</p>											
----- 系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(キリスト教学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

成績評価は、講義内容が的確に理解できているかを確かめるための定期試験による。定期試験の内容に関しては、授業において詳しい説明を行う。

【教科書】

使用しない

講義においては、毎回プリントを配付し、同じものを、KULASIS上にアップする。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

授業において配付する資料によって、指示。

【授業外学習(予習・復習)等】

授業は、全体が体系的に構成されているので、講義の流れを的確に理解することが求められる。そのため、配付プリントやノート(メモ)をもとに、講義内容を整理することが必要であり、さらに配付プリントに記載の参考文献などによる発展的な学習が望まれる。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		キリスト教思想研究入門A									
【授業の概要・目的】											
この特殊講義は、すでに系共通科目「キリスト教学講義」を受講し、キリスト教思想研究に関心のある学部生、あるいはキリスト教研究の基礎の習得をめざす大学院生を対象に行われる。キリスト教思想研究を目指す際に身につけておくべき事柄について、またいかなるテーマをどのように取り上げるのかについて、解説を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教学をテーマとした研究（卒論・修論）を行うために必要な方法や知識を身につけることができる。 ・キリスト教研究に関する広い知見をもとに、自主的な研究に取り組む能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>本年度前期のテーマは、「現代キリスト教思想」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 0．オリエンテーション 1．現代キリスト教思想の基本動向 2．現代神学1：自由主義神学と弁証法神学 3．カール・バルト 4．ブルトマン 5．ボンヘッファー 6．ティリッヒ 7．H・リチャード・ニーバー 8．ブルトマン学派と解釈学的神学 9．現代神学2、あるいはポスト近代 10．解放の神学 11．科学技術の神学 12．モルトマン 13．パネンベルク 14．アジア・アフリカ神学 15．フィードバック <p>フィードバックの具体的なやり方については授業にて説明を行う。</p>											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートによる。(講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う。)
レポート内容についての相談は、個別的に行う。

【教科書】

使用しない
授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
授業において配付する資料によって、指示。

【授業外学習(予習・復習)等】

受講生には、講義内容を理解するために必要な復習を行うのはもちろんのこととして、各自の研究テーマとの関係づけを行うための発展的な学習が求められる。必要に応じて講義担当教員との研究相談を行うことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		キリスト教思想研究入門B									
【授業の概要・目的】											
この特殊講義は、すでに系共通科目「キリスト教学講義」を受講し、キリスト教思想研究に関心のある学部生、あるいはキリスト教研究の基礎の習得をめざす大学院生を対象に行われる。キリスト教思想研究を目指す際に身につけておくべき事柄について、またいかなるテーマをどのように取り上げるのかについて、解説を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教学をテーマとした研究（卒論・修論）を行うために必要な方法や知識を身につけることができる。 ・キリスト教研究に関する広い知見をもとに、自主的な研究に取り組む能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
本年度後期のテーマは、「キリスト教と文化」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。											
<ol style="list-style-type: none"> 0．オリエンテーション 1．「文化の神学」の構想 2．聖書翻訳の意義 3．告白文学の系譜 4．修道制と文化構築 5．死と死後世界：煉獄思想の誕生 6．教会建築のコスモロジー 7．宗教改革と国民国家・国民文学 8．近代文学1：英文学 9．近代文学2：フランス文学 10．近代文学3：ドイツ文学 11．近代文学4：ロシア文学 12．近代文学5：日本文学 13．キリスト教と映画 14．キリスト教と音楽 15．フィードバック 											
フィードバックの具体的なやり方については授業にて説明を行う。											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートによる。(講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う。)
レポート内容についての相談は、個別的に行う。

【教科書】

授業中に指示する
授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する
授業において配付する資料によって、指示。

【授業外学習(予習・復習)等】

受講生には、講義内容を理解するために必要な復習を行うのはもちろんのこととして、各自の研究テーマとの関係づけを行うための発展的な学習が求められる。必要に応じて講義担当教員との研究相談を行うことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	キリスト教思想と宗教哲学(6) キリスト教思想と言語の問題										
【授業の概要・目的】											
<p>現代世界において宗教は、深刻な対立要因の一つと見なされている。この対立図式自体の問題性は別にしても、キリスト教がこうした文脈で問われていることは否定できない。本講義では、こうしたキリスト教思想を取り巻く思想状況を念頭に置きながら、キリスト教思想の新なる展開の可能性について議論を行いたい。</p> <p>そのために本講義では、キリスト教思想とその宗教哲学的基盤の探求というアプローチが試みられる。キリスト教思想の新なる展開には、こうした根本からの議論の組み立てが要求されるからである。2019年度前期は、これまで数年の講義から浮かび上がった諸問題から、「言語」の問題を集中的に取り上げることによって、キリスト教的な視点から宗教哲学を構築する議論を始めたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教思想の新しい展開について、最新の知見を獲得することができる。 ・キリスト教思想を「言語」の問題から掘りさげるための手がかりを得ることができる。 ・近代以降のキリスト教思想がいかなる問題状況に直面しどのような思索を展開してきたかについて、思想史的理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第一回目のオリエンテーションに続き、以下の順番で講義は進められるが、授業は、一回につきほぼ一つの項目を講義するペースで行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 0. オリエンテーション：キリスト教にとって「言語」とはいかなる問題か 1. 現代思想における「言語」の問い 2. 現代聖書学の動向：歴史・文学・思想 3. 隠喩・レトリック1 4. 隠喩・レトリック2 5. 隠喩・レトリック3 6. イエスの譬え解釈1 7. イエスの譬え解釈2 8. イエスの譬え解釈3 9. 現代キリスト教思想：言語・解釈・物語1 10. 現代キリスト教思想：言語・解釈・物語2 11. 現代キリスト教思想：言語・解釈・物語3 12. コミュニケーションの問い1 13. コミュニケーションの問い2 14. コミュニケーションの問い3 15. フィードバック <p>フィードバックについては、授業中に説明します。</p>											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートによる。(講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う。)
レポート内容についての相談は、個別的に行う。

【教科書】

使用しない
講義では、毎回、詳細なプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

受講生には、講義内容を理解するために必要な復習を行うのはもちろんのこととして、各自の研究テーマとの関係づけを行うための発展的な学習が求められる。必要に応じて講義担当教員との研究相談を行うことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	キリスト教思想と宗教哲学(7) 脳・心・人間・倫理										
[授業の概要・目的]											
<p>現代世界において宗教は、深刻な対立要因の一つと見なされている。この対立図式自体の問題性は別にしても、キリスト教がこうした文脈で問われていることは否定できない。本講義では、こうしたキリスト教思想を取り巻く思想状況を念頭に置きながら、キリスト教思想の新たな展開の可能性について議論を行いたい。</p> <p>そのために本講義では、キリスト教思想とその宗教哲学的基盤の探求というアプローチが試みられる。キリスト教思想の新たな展開には、こうした根本からの議論の組み立てが要求されるからである。2019年度後期は、これまで数年の講義から浮かび上がった諸問題から、「脳科学とキリスト教」の問題を集中的に取り上げることによって、キリスト教的な視点から宗教哲学を構築する議論を進めたい。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教思想の新しい展開について、最新の知見を獲得することができる。 ・キリスト教思想を「脳科学・心・人間・倫理」の問題から掘りさげるための手がかりを得ることができる。 ・近代以降のキリスト教思想がいかなる問題状況に直面しどのような思索を展開してきたかについて、思想史的理解を深めることができる。 											
[授業計画と内容]											
<p>第一回目のオリエンテーションに続き、以下の順番で講義は進められるが、授業は、一回につきほぼ一つの項目を講義するペースで行われる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 0．オリエンテーション：「科学技術とキリスト教」系とは何か 1．モデルケースとしての進化論論争：対立図式とは何か 2．自然主義の二つのタイプ 3．キリスト教思想と心理学1 4．キリスト教思想と心理学2 5．キリスト教思想と心理学3 6．20世紀脳科学の宗教論1 7．20世紀脳科学の宗教論2 8．脳科学の進展：社会脳研究 9．社会脳研究のキリスト教にとっての意義 10．創発理論と次元論 11．キリスト教的人間学と脳・心1 12．キリスト教的人間学と脳・心2 13．脳・心・人間・倫理1 14．脳・心・人間・倫理2 15．フィードバック 											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

フィードバックについては、授業中に説明します。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

レポートによる。(講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う。)
レポート内容についての相談は、個別的に行う。

【教科書】

使用しない
講義では、毎回、詳細なプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

受講生には、講義内容を理解するために必要な復習を行うのはもちろんのこととして、各自の研究テーマとの関係づけを行うための発展的な学習が求められる。必要に応じて講義担当教員との研究相談を行うことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 狭間 芳樹 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本キリシタン史における排耶論の諸相と内実									
【授業の概要・目的】											
<p>近世日本において興隆したキリスト教（キリシタン）は、その後、迫害・禁教期を迎えるなかで排耶論と対峙することとなった。今年度の講義では近世から近代にかけての排耶論の系譜をたどりながら、その諸相と内実をつまびらかにするとともに、<耶蘇＝キリスト教>の名のもとで展開された排耶論が必ずしも反キリスト教論を意味するばかりではなく、むしろ排斥の対象が、「正」と見なされるものに対する「邪」であったことの意味を講究するところに目的を置く。あわせて、潜伏期の信徒および禁教が解かれた後の、いわゆるカクレキリシタンの信仰が、純粹（正統）なキリスト教ではないとの見方が許容されるのかという議論についても検討をおこない、考察をすすめていく。</p>											
【到達目標】											
<p>受講者はこの授業を履修することによって以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリシタンについての基礎的な知識を習得した上で、日本宗教史におけるキリスト教の位置づけを説明できるようになる。 ・東アジアのキリスト教を、比較宗教学の立場から考察する力を身につける。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマを中心にして進めていく予定であるが、受講者の関心によっては適宜、順序などを変更する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：近年のキリシタン研究と新たな視座の必要性 2. 近世日本におけるキリシタンへの迫害と排耶論 3. 排耶論の黎明期 宗論に見られる護教と排耶の論理 4. 転びキリシタンによる排耶論（沢野忠庵『顕偽録』） 5. 仏僧による排耶論（『破吉利支丹』『対治邪執論』） 6. 島原・天草の乱以降の排耶とキリシタン稗史（「吉利支丹御退治物語」） 7. 邪教（邪宗門）観の喧伝、扇動と定着 8. 幕末期における排耶書編纂（『破邪集』『闢邪管見録』） 9. 京坂「切支丹」一件を通して考える「異宗」と「異法」 10. 維新时期における排耶論 仏教の駁耶運動と国家 11. 明治期仏教者の排耶論 井上円了の「破邪」「顕正」「護法」観 12. 正と邪 東アジアのキリスト教とキリシタン（きりしたん） 13. 潜伏キリシタンとカクレキリシタン 「禁教期変容論」再考 14. 日本におけるキリスト教受容と近代 キリシタニズム、土着化、実生化 15. フィードバック：日本キリスト教史における「きりしたん」の意義 											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（20点）と学期末のレポート（80点）により評価する。
なお、レポートについては到達目標の達成度に基づき評価をおこなう。

[教科書]

教科書は使用しない。
講義テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配付する。

[参考書等]

（参考書）

五野井隆史 『キリシタン信仰史の研究』（吉川弘文館、2017年）ISBN:978-4642034791
同志社大学人文科学研究所編 『排耶論の研究』（教文館、1989年）ISBN:978-4764271302
大橋幸泰 『近世潜伏宗教論 キリシタンと隠し念仏』（校倉書房、2017年）ISBN:978-4751747308

[授業外学習（予習・復習）等]

参考文献は各テーマごとに授業内で随時紹介していくが、本講義全体に関わるものを「参考書」欄に挙げておくので、各回の授業でとりあげる内容について、当該する箇所を事前に目を通し、理解に役立てて欲しい。また授業後には、講義では概略のみ説明した部分について、紹介した参考文献で調べるといった積極的な取り組みを望む。

（その他（オフィスアワー等））

基本的に講義形式でおこなうものの、ミニッツペーパー（リフレクションカード）などを通して、受講者各人の疑問や主体的関心にも配慮して授業を進める。また授業外学習において生じた質問等については次週以降の授業前後に口頭で尋ねる時間を設ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		西南学院大学 国際文化学部 教授 文学研究科		津田 謙治 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初期キリスト教における異端思想概説									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、初期キリスト教における異端思想およびその論争点に関する基礎的な知識を提示することにある。異端の起源は使徒の時代に遡るとされており、古代における異端の発生を分析することによって、キリスト教の教理が形成される上で何が問題となり、何を解決点として模索しようとしたかが浮彫になると考えられる。それらの議論は、創造論、救済論、キリスト論、諸哲学との距離、神義論、厳格主義と寛容主義など多岐にわたる。本講義では、異端思想と正統信仰形成の間にあった緊張関係に目を向けつつ、教父たちが形成した教理や諸概念を分析する。											
【到達目標】											
主として5世紀くらいまでの教理論争の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における教父思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。											
【授業計画と内容】											
<p>・本講義は基本的に以下の講義計画に基づく。尚、集中講義は9月第1週の5日間を予定しているが、正式な日程が決まり次第、KULASISを通じて連絡をする。</p> <p>【第1回】「オリエンテーション：キリスト教の正統と異端」</p> <p>【第2回】「異端思想概論」</p> <p>【第3回】「ユダヤ的キリスト教」</p> <p>【第4回】「グノーシス思想（概説）」</p> <p>【第5回】「グノーシスと福音書」</p> <p>【第6回】「ウァレンティノス派」</p> <p>【第7回】「バシレイデス」</p> <p>【第8回】「マルキオン」</p> <p>【第9回】「ヘルモゲネス」</p> <p>【第10回】「モンタノス運動」</p> <p>【第11回】「マニ教」</p> <p>【第12回】「モナルキア主義」</p> <p>【第13回】「アレイオス（アリウス）」</p> <p>【第14回】「ネストリオス」</p> <p>【第15回】「まとめと総括およびレポート等に関する解説」</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

- ・平常点（授業への取り組み・発言など）・・・ 10点
- ・レポート・・・ 90点
- ・4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史上使徒教父からニカイア公会議まで』（一麦出版社）ISBN: 978-4863250185（2010年）

J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史下ニカイア以後と東方世界』（一麦出版社）ISBN: 9784863250192（2010年）

[授業外学習（予習・復習）等]

・授業中に取り上げる事典類などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

・初回の講義では、細かい注意事項を伝えるので、必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本・アジアのキリスト教 賀川豊彦(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>日本・アジアのキリスト教の歴史を振り返りつつ、その新しい思想的可能性を探ることは、日本におけるキリスト教思想研究にとって重要な意味を有している。この演習では、年度や学期を超えて、明治期以降の重要なキリスト教の思想家たちを順次検討してゆくことによって、近代キリスト教思想の重要な局面の解明がめざされている。今年度前期は、昨年後期に引き続き、近代日本を代表するキリスト教思想家・実践家である賀川豊彦のテキストを読み進めてみたい。合わせて、賀川研究に関連した研究文献を講読する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアのキリスト教思想の動向とその現代的意義について、具体的な問題状況に即した説明ができるようになる。 ・賀川豊彦のキリスト教思想についての理解を深めるとともに、その意義を東アジアの文脈において考察するための手がかりを得ることができる。 ・賀川豊彦との関連において、現代キリスト教思想の動向（解放の神学や科学技術の神学、経済神学、政治神学など）についての理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回の授業では、本演習のオリエンテーションを行い、演習の目的や進め方を確認する。 二回目以降は、賀川豊彦のテキスト（今年度は、「第七章 十字架を通して神を見る」から）に所収の諸論考を、担当者の解説を通して、順番に精読してゆく。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。）											
【教科書】											
賀川豊彦 『賀川豊彦全集4』（キリスト新聞社）ISBN:0316-400277-6100 テキストは、使用部分について、コピーを用意する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

[授業外学習(予習・復習)等]

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストを精読し、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で(これらを記載したレジメを作成すること)、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加することが必要である。

(その他(オフィスアワー等))

受講生には、キリスト教思想に対する関心と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うことができる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本・アジアのキリスト教 賀川豊彦(3)									
【授業の概要・目的】											
<p>日本・アジアのキリスト教の歴史を振り返りつつ、その新しい思想的可能性を探ることは、日本におけるキリスト教思想研究にとって重要な意味を有している。この演習では、年度や学期を超えて、明治期以降の重要なキリスト教の思想家たちを順次検討してゆくことによって、近代キリスト教思想の重要な局面の解明をめざしている。今年度後期は、前期に引き続き、近代日本を代表するキリスト教思想家・実践家である賀川豊彦のテキストを読み進めてみたい。合わせて、賀川研究に関連した研究文献を講読する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアのキリスト教思想の動向とその現代的意義について、具体的な問題状況に即した説明ができるようになる。 ・賀川豊彦のキリスト教思想についての理解を深めるとともに、その意義を東アジアの文脈において考察するための手がかりを得ることができる。 ・賀川豊彦との関連において、現代キリスト教思想の動向（解放の神学や科学技術の神学、経済神学、政治神学など）についての理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回の授業では、本演習のオリエンテーションを行い、演習の目的や進め方を確認する。二回目以降は、賀川豊彦のテキストを、担当者の解説を通して、順番に精読してゆく。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。）											
【教科書】											
<p>賀川豊彦 『友愛の政治経済学』（日本生活協同組合連合会）ISBN:978-4-87332-286-5 演習で扱う諸論考については、コピーを準備する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

[授業外学習(予習・復習)等]

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストを精読し、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で(これらを記載したレジメを作成すること)、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加することが必要である。

(その他(オフィスアワー等))

受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に数回の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		キリスト教思想の基本文献を読む									
【授業の概要・目的】											
キリスト教思想を理解し、研究するには、その基本的な文献を広くまた深く読むことが必要である。この演習では、近代以降のドイツ語による文献を精読することによって、キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上をめざす。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語テキストを精読することによって、ドイツ語テキストに基づいたキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。 ・近代キリスト教思想に関する基本的事項の理解を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>今年度は、昨年度に引き続き、ティリッヒのキリスト教思想に関わる文献から、次のものを取り上げ、演習を行う。</p> <p>Paul Tillich, Vorlesungen ueber Geschichtsphilosophie und Sozialpaedagogik (Frankfurt 1929/30), Ergaenzungs- und Nachlassbaende zu den Gesammelten Werken XV, De Gruyter, 2007.</p> <p>第1回：オリエンテーション（演習の目的、進め方などの説明）</p> <p>第2回：ティリッヒ神学の概観（講義）と演習担当者の決定</p> <p>第3～15回：担当者によるテキストの精読と討論</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。）											
【教科書】											
使用するテキストについては、コピーを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

[授業外学習(予習・復習)等]

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストの精読によって訳を行い、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で(これらを記載したレジメを作成すること)、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加すること。なお、受講者には、指定テキスト以外の文献の検討とその報告が求められる点に留意いただきたい。

(その他(オフィスアワー等))

受講者は、毎時間のテキストの予習と演習への積極的参加が求められ、特に一回以上の発表担当が課せられる。演習に関わる質問は、オフィスアワー(火3・水3)を利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 非常勤講師 浅野 淳博 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		新約聖書原典研究：ローマ書簡（上）									
【授業の概要・目的】											
<p>新約聖書は、キリスト教思想の基盤であり、キリスト教思想研究を志す者には、聖書原典を読む能力（語学・聖書学・聖書神学など）が求められます。本講義の目的は、受講者が辞書や既存の翻訳を手がかりとしつつも、自らローマ書簡（1-8章）を原典から翻訳するとともに、その背後にある神学および歴史・社会状況を深く理解することです。</p>											
【到達目標】											
<p>この講義を終えた際、受講者は以下のことができるようになっていくことが望めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パウロに特徴的なギリシア語表現を理解しつつ、適切な原典翻訳を試みる。 2. ローマ書簡前半部の神学的特徴を端的に述べる。 3. ローマ書簡が執筆された歴史のおよび社会的状況を端的に述べる。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：ローマ書簡序説 2. 翻訳演習（ロマ1.18-28） 3. 神学トピック#1：パウロの神観 4. 翻訳演習（ロマ3.19-31） 5. 神学トピック#2：贖いの蓋なるメタファ 6. 翻訳演習（ロマ4.1-12） 7. 神学トピック#3：アブラハムなる予型 8. 翻訳演習（ロマ5.12-21） 9. 神学トピック#4：アダムなる予型 10. 翻訳演習（ロマ6.5-19） 11. 神学トピック#5：バプテスマなるメタファ 12. 翻訳演習（ロマ7.7-20） 13. 神学トピック#6：「私」と罪と律法 14. 翻訳演習（ロマ8.9-29） 15. 神学トピック#7：「アッバ、父」と霊／フィードバック 											
【履修要件】											
ギリシャ語初級文法を習得していることが期待されます（必要があれば、個別的に相談）。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習での発表による貢献度と理解度（40%） 2. 期末レポート（60%）* レポートは日本語か英語で書いて下さい。 											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

[教科書]

B. Aland et al. 『『Nestle-Aland's Novum Testamentum Graece, 28th edn』 (Deutsche Bibelgesellschaft)』
(Deutsche Bibelgesellschaft) ISBN:1619700301

浅野淳博 『受講者ノート』 初回講義の際に指示します。

その他、様々な日本語や他言語の翻訳聖書をも参照しますが、それに関しては演習内で指示します。

[参考書等]

(参考書)

J.D.G.ダン 『『使徒パウロの神学』』 (教文館) (2019年3月発刊予定)

[授業外学習(予習・復習)等]

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストの精読によって訳を行い、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で(これらを記載したレジメを作成すること)、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加すること。

(その他(オフィスアワー等))

1. 原書講読の予習: 「受講者ノート」にある各問いに答え、テキストを翻訳する。
2. トピックの予習: 註解書等を見て、トピックに関する予備知識をつける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 35641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 文学研究科		河崎 靖 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ボンヘッファーのテキストをドイツ語原典で読む。									
【授業の概要・目的】											
<p>ボンヘッファーの主要なドイツ語テキストを読みこなす。 1906年生まれのドイツ人牧師・キリスト者ボンヘッファーは、当時のドイツの教会の多くがナチスに協力したのに対して、ヒトラーに激しく抵抗運動を展開した。彼は「汝殺すなかれ」を戒めとするキリスト者であり、かつ非暴力主義者ガンジーの影響も受けている。時代の流れに逆らい、反ナチス運動で逮捕されてからも獄中から多くの書簡を書き、その言葉の数々は現代の私たちにも、良心に生きるとはいかなることかを問い続けている。彼の書いたテキストを原典で読んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>ボンヘッファーは、1945年4月9日独裁者ヒトラーの暗殺計画に加担した容疑でナチスにより処刑された。彼はヒトラーの危険を当初から見抜き、そのユダヤ人政策を批判し、最後には文字通り命を賭してナチスの暴走を止めようとしたのである。ナチス以降もしくはホロコースト以降のドイツで、ボンヘッファーにキリスト者として生きる1つのモデルが求められているのも事実である。どのような論理・倫理でもって、キリスト者・牧師でありながら、暴力や殺人をも許容するヒトラー暗殺・クーデター計画に乗り出したのか、この問題を究めるため、その決定的瞬間にまで至るプロセスをボンヘッファー本人のテキストに則して検討する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ボンヘッファーは現代的意味でもその存在が注目されているドイツの宗教者・神学者である。彼を理解するため、次のような進行を予定している。</p> <p>第1回～第3回 ボンヘッファーのおいたち 第4回～第6回 カール・バルトとの関係 第7回～第9回 ニーメラーと告白教会 第10回～第12回 ボンヘッファーと「信仰告白」 第13回～第15回 ボンヘッファーの現代的意義</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
主に発表に基づいて評価する。必要に応じて、試験・レポートを課す。											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

[教科書]

こちらで準備(プリント教材)する。

[参考書等]

(参考書)

河崎 靖 『ボンヘッファーを読む』(現代書館)

[授業外学習(予習・復習)等]

こちらで用意するテキスト教材を、授業の前後(予習・復習)に確実に準備してもらおう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 25651 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学（講読） Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		キリスト教思想基礎文献を読む A									
【授業の概要・目的】											
<p>本講読は、キリスト教思想における基礎文献をじっくり読むことを通して、キリスト教思想研究とその方法について学ぶことを目的としている。前期は、キリスト教思想の古典というべきテキストを日本語訳で講読するが、その際に、まとまった分量のテキストから問題（テーマ）を取り出し、必要な調査（文献レベルでの）と分析が行われる。</p> <p>また、この講読は、キリスト教学専修に所属の学部生の卒論演習を兼ねており、研究発表の機会を設けることが予定されている。</p> <p>今年度は、ティリッヒの『信仰の本質と変化』を取り上げる。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教思想をその古典から学ぶことによって、今後キリスト教思想のさまざまな研究テーマに取り組むための基礎力をつけることができる。 ・まとまった分量のテキストから自分で問題を見つけ出し、さらにそれに取り組むための方法論を身につけることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回の授業では、本演習のオリエンテーションを行い、演習の目的や進め方を確認する。</p> <p>二回目以降は、ティリッヒ『信仰の本質と変化』を、担当者の解説を通して、順番に精読してゆく。なお、ティリッヒに関しては、教員が必要な解説を行う。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。）											
【教科書】											
<p>授業中に指示する</p> <p>授業では、ティリッヒ『信仰の本質と変化』のテキスト（邦訳、『ティリッヒ著作集 第6巻』白水社、に収録）のコピーを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>授業中に紹介する</p>											
----- キリスト教学（講読）(2)へ続く -----											

キリスト教学（講読）(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストを精読し、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で（これらを記載したレジメを作成すること）、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加することが必要である。なお、受講者には、指定テキスト以外の文献の検討とその報告が求められる点に留意いただきたい。

（その他（オフィスアワー等））

受講生には、キリスト教思想に対する関心と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（火3・水3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うことができる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET08 25651 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学（講読） Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		芦名 定道 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		キリスト教思想基礎文献を読む B									
【授業の概要・目的】											
<p>本講読は、キリスト教思想における基礎文献をじっくり読むことを通して、キリスト教思想研究とその方法について学ぶことを目的としている。後期は、キリスト教思想の古典というべきテキストを英語（あるいは英訳）で講読するが、その際に、まとまった分量のテキストから問題（テーマ）を取り出し、必要な調査（文献レベルでの）と分析が行われる。</p> <p>また、この講読は、キリスト教学専修に所属の学部生の卒論演習を兼ねており、研究発表の機会を設けることが予定されている。</p> <p>今年度は、H. Richard Niebuhr, Christ and Culture, Harper Perennial, 1951(2001) を読む。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教思想をその古典から学ぶことによって、今後キリスト教思想のさまざまな研究テーマに取り組むための基礎力をつけることができる。 ・まとまった分量のテキストから自分で問題を見つけ出し、さらにそれに取り組むための方法論を身につけることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回の授業では、本演習のオリエンテーションを行い、演習の目的や進め方を確認する。</p> <p>二回目以降は、H. Richard Niebuhr, Christ and Cultureを、担当者の解説を通して、順番に精読してゆく。なお、ニーバーの神学に関しては、教員が必要な解説を行う。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点による。（受講者には、数回の発表担当を課するが、その発表内容と、毎回の演習への参加度とから総合的に判断する。）											
【教科書】											
授業中に指示する H. Richard Niebuhr, Christ and Culture, Harper Perennial, 1951(2001) は、コピーを用意する。											
----- キリスト教学（講読）(2)へ続く -----											

キリスト教学（講読）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

受講者は、それぞれの担当箇所について、テキストを精読し、その要点・概要をまとめ、関連事項について調査、討論すべき問題点の明確化を行った上で（これらを記載したレジメを作成すること）、演習に出席することが望まれる。また、自分の担当箇所以外についても予習を十分に行い、討論に積極的に参加することが必要である。なお、受講者には、指定テキスト以外の文献の検討とその報告が求められる点に留意いただきたい。

（その他（オフィスアワー等））

受講生には、キリスト教思想に対する関心と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。質問は、オフィスアワー（火3・水3）を利用するか、メール（アドレスは、授業にて指示）で行うことができる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 25705 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(美学)(講義) Aesthetics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		美学入門・分析篇									
[授業の概要・目的]											
本講義は、美学という学問の輪郭（美学においてどのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか）を示すことにある。今学期は「分析篇」とし、美学が扱う多くの問題のうちの代表的ないくつか（以下の「授業計画と内容」を参照）を取り上げ、20世紀後半以後の英語圏において主流となった「分析美学」の方法に主として依拠しつつ、これを考察する。											
[到達目標]											
美学という学問において、どのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか、を分析的に理解する。											
[授業計画と内容]											
以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。											
1. 導入【1】											
2. 「分析美学」とは何か【1】											
3. 芸術は（いかにして）定義可能か【3】											
4. 「完全な贋作」の何が悪いのか【3】											
5. 芸術作品の解釈に際して作者の「意図」をどの程度・どのように考慮すべきか【3】											
6. 芸術作品の批評に用いられる言葉はどのような特徴を持つか【3】											
7. フィードバック【1】											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（毎回課す小レポート）60点と期末レポート40点に基づき評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書）											
ロバート・ステッカー（森功次訳）『分析美学入門』（勁草書房）ISBN:9784326800537											
西村清和（編・監訳）『分析美学基本論文集』（勁草書房）ISBN:9784326800568											
その他、授業中に適宜紹介する。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業中に紹介した参考文献・芸術作品などを、自らの関心・問題意識に照らして調べること。授業中に紹介した考え方を、別の事例・現象に適用して考察すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 25706 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋美術史)(講義) European Art History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		平川 佳世 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		近世ヨーロッパ絵画における風景表現の多彩な展開									
【授業の概要・目的】											
美術史における諸問題の考察を通じて、研究の基礎となる諸々の方法論や思考法に親しむとともに、西洋美術に関する基礎知識を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析などの美術史学の基礎的な方法論について、理解する。 ・16世紀の西洋美術についての基礎的な知識を習得する。 ・近世ヨーロッパ絵画における風景表現の発達についての基礎的な知識を習得するとともに、具体的な作品を美術史学の観点から分析しうる能力を身につける。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパ絵画における風景表現の多彩な展開について、特に16世紀の作例に着目して、多角的に論じる。基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション：初期ネーデルラント絵画と風景の発見 第2回～第5回 ドナウ派の風景表現 アルトドルファーの革新性 第6回～第9回 イタリアの風景表現 マンテーニャとベッリーニを中心に 第10回～第14回 風景画家パティニールの登場と世界風景 第15回 期末試験 フィードバック方法は授業中に説明します</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点（出席状況および小レポートなど、20点）と期末試験（80点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した者には、単位を認めない。 ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 											
----- 系共通科目(西洋美術史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋美術史)(講義)(2)

[教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

大学所蔵の関連書籍を適宜参照すること。

[授業外学習(予習・復習)等]

予習・復習については、授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

受講に際して、西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。また、関連作品の展覧会等には自主的に足を運び、実作品を鑑賞する機会を持つことが好ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 25707 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(美学)(講義) Aesthetics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史 文学研究科 確認用			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		美学入門・歴史篇									
[授業の概要・目的]											
本講義は、美学という学問の輪郭（美学においてどのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか）を示すことにある。今学期は「歴史篇」とし、美や芸術についての哲学的思索に「美学」という名が与えられた1735年から、この学が哲学の最高位にまで上昇した世紀転換期を経て「芸術の終焉」が宣言された1835年に至るまでの一世紀の（主として独語圏の）美学思想の歩みをたどり、誰がどのような問題にどのように取り組んだのかを解説・考察する。											
[到達目標]											
美学という学問において、どのような問題がどのようにしてどの程度解決されるのか、を歴史的に理解する。											
[授業計画と内容]											
以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、【 】で指示した週数を充てる。											
1. 導入【1】											
2. 美学を学ぶのになぜ美学史を学ぶ必要があるのか【1】											
3. 感性的認識（バウムガルテンを中心とするヴォルフ学派）【4】											
4. 趣味判断（カント）【4】											
5. 哲学の証書にして機関としての芸術（シェリングを中心とする初期ロマン主義）【2】											
6. 芸術終焉論（ヘーゲル）【2】											
7. フィードバック【1】											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点（毎回課す小レポート）60点と期末レポート40点に基づき評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 小田部胤久『西洋美学史』（東京大学出版会）ISBN:9784130120586 その他、授業中に適宜紹介する。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業中に紹介した参考文献・芸術作品などを、自らの関心・問題意識に照らして調べる。授業中に紹介した考え方を、別の事例・現象に適用して考察すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 25708 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本・東洋美術史)(講義) Japanese Art History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		根立 研介 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		奈良の仏像を観る									
【授業の概要・目的】											
<p>飛鳥時代（6世紀半ばから8世紀初頭）は、日本に仏教が伝来した初期の時代であり、日本の仏像製作もこの時代から始まる。この時期の仏像は、仏教をもたらした朝鮮半島やその淵源たる中国の影響を強く受けて仏像が造られている。特に初期の仏像は、朝鮮半島の影響が強い。しかしながら、7世紀後半以降は、遣唐使によって中国の文化が直接日本に伝えられる状況が出現し、初唐期の影響を受けてた仏像が見いだされる。飛鳥時代の彫刻史は、正しく当時の東アジアの国々との複雑な国際関係を反映した文物といえる。そして、この時期の仏像は、神秘的な姿を見せるものもある一方で、人体を理想化したような高い写実性を見せるものもあるなど多様である。現代の我々は、飛鳥時代の仏たちに魅了されるところがある。この時期の優れた造形美と文化現象の多様性を、飛鳥時代の主要な仏像を通して紹介する。</p>											
【到達目標】											
<p>日本で仏像がどのように造られ始め、どのように人びとに信仰され、文化的に受容されていったのかを、飛鳥時代の仏像を通して理解してもらう講義を受けることで、日本文化や日本美術のダイナミックな展開の様子や、こうした展開が生じる要因にどのようなものであったかを学び取ることが可能となり、日本美術史の知識を習得できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で取り上げる主な課題は以下の通りである。</p>											
1回目	はじめに										
2回目	法隆寺金堂釈迦三尊像										
3回目	法隆寺救世観音像と百済観音像										
4回目	広隆寺の二体の菩薩半跏像										
5回目	法隆寺金堂四天王像										
6回目	大阪・野中寺銅造弥勒半跏像										
7回目	興福寺（山田寺伝来）仏頭										
8回目	当麻寺金堂塑造弥勒仏像と乾漆四天王像										
9回目	大安寺釈迦如来像										
10回目	法隆寺の焼亡と再興造仏										
11回目	東京国立博物館法隆寺宝物館四十八仏										
12回目	法隆寺・伝橋夫人念持仏と夢違観音像										
13回目	奈良・薬師寺金堂薬師三尊像										
14回目	まとめ										
15回目	フィードバック										
-----系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(日本・東洋美術史)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

期末のレポートおよび出席状況により評価する。評価はレポート75%、出席状況25%。

【教科書】

使用しない
毎回、資料配付を行う。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

授業中に配付するレジユメを必ず読み返すこと。また、授業中に紹介する参考文献や、参考論文は復習のためにぜひ読んでおいてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

授業で取り上げる作品は、京都や奈良の寺院や博物館で実際に見ることが出来るものが多いので、できるだけ実物を見てください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 25709 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋美術史)(講義) European Art History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		平川 佳世 確認用	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		アダム・エルスハイマーと17世紀のローマ美術									
【授業の概要・目的】											
美術史における諸問題の考察を通じて、研究の基礎となる諸々の方法論や思考法に親しむとともに、西洋美術に関する基礎知識を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様式分析、図像分析などの美術史学の基礎的な方法論について、理解する。 ・ 17世紀の西洋美術についての基礎的な知識を習得する。 ・ アダム・エルスハイマーの芸術について理解するとともに、具体的な作品を美術史学の観点から多角的に分析しうる能力を身につける。 											
【授業計画と内容】											
<p>17世紀初頭のローマで活躍したドイツ人画家アダム・エルスハイマーの芸術について、本年度は同時代のローマの芸術状況という観点から論じる。基本的に以下のプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン 若きエルスハイマーとドイツの造形伝統 第2回～第5回 17世紀初頭のローマ 新しい芸術潮流の出現 第6回～第8回 エルスハイマーの戦略 小型絵画における付加価値の追求 第9回～第14回 エルスハイマーの描く銀河 第15回 期末試験 フィードバック方法は授業中に説明します</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点（出席状況および小レポートなど、20点）と期末試験（80点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原則として、4回以上授業を欠席した者には、単位を認めない。 ・ 原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 											
----- 系共通科目(西洋美術史)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋美術史)(講義)(2)

[教科書]

使用しない
必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
大学所蔵の関連書籍を適宜参照すること。

[授業外学習(予習・復習)等]

予習・復習については、授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

受講に際して、西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。また、関連作品の展覧会等には自主的に足を運び、実作品を鑑賞する機会を持つことが好ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 25710 LJ34									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(日本・東洋美術史)(講義) Japanese Art History (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		日本絵画史概説									
[授業の概要・目的]											
古代から近代にいたる日本絵画の歴史について、画家の動向に着目しながら概観する。各時代の絵画の名品、主要な画家の基礎的な知識を学ぶとともに、絵を見るときはどのような行為か理解することを目指す。											
[到達目標]											
近年の日本絵画史の研究成果を把握するとともに、何が明らかとなっていないかを理解して、今後の研究の足掛かりとする。											
[授業計画と内容]											
各時代の主要な作品と画家を取り上げて検討を加える。各項目には()に示した週数を充当する。講義の進捗は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。											
1 序論および奈良時代以前(1~2週)											
2 平安時代(2~3週)											
3 鎌倉・南北朝時代(1~2週)											
4 室町時代(1~2週)											
5 桃山時代(2~3週)											
6 江戸時代(2~3週)											
7 近代(1~2週)											
8 試験及びフィードバック フィードバック方法は授業中に説明します。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業内で行う試験により評価する。知識の習得だけでなく基礎概念に対する深い理解が見られる場合には高い点を与える。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ることが望ましい。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		根立 研介 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		平安時代後期彫刻史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>平安時代後期（10世紀末頃から12世紀末期）の彫刻史の展開を論じる。本期は、10世紀末から11世紀半ば頃までの彫刻史を取り上げる。具体的には、康尚と定朝という二人の著名な仏師の事績の検討を主に行っていく。ただし、定朝は、重要な事績が多いので、晩年の平等院鳳凰堂阿弥陀如来像の事績辺りまで論じることとし、残りの事績については、後期の継続授業で検討を加える予定である。この時期の仏像製作は、和様の彫刻様式が大成される時代であり、また寄木造りの技法が大成される時期でもあるので、日本彫刻史の中でも最も注目すべき時期の一つである。そのためもあって膨大な先行研究があるが、この授業ではこれらの先行研究に先ず目を向けた上で、近年の歴史学を含む最新の研究成果を紹介しながら授業を進め、この時期の彫刻史の動向についての理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>平安時代後期の主要な彫刻を概観した講義を受けることで、古代から中世へと展開するこの時期の美術の中枢を学び、日本の文化の造詣をより一層深めることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で取り上げる課題は以下の通りである。</p> <p>第1回目 はじめに 第2～6回目 康尚の時代 第7回目 康尚から定朝への移行期についての幾つかの問題 第8～11回目 定朝の時代 第12、13回目 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像 第14回目 まとめ 第15回目 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末のレポートおよび出席状況により評価する。評価はレポート80%、出席状況20%。</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
毎回、資料配付を行う。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に配付するレジユメを必ず読み返すこと。また、授業中に紹介する参考文献や、参考論文は予習・復習のためにぜひ読んでおいてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

授業で取り上げる作品は、実際に見ることができるので、できるだけ実物を見てください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		根立 研介 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		平安時代後期彫刻史研究									
【授業の概要・目的】											
<p>平安時代後期（10世紀末頃から12世紀末期）の彫刻史の展開を論じる。本期は、11世紀半ば頃から12世紀末に至る彫刻史を取り上げる。具体的には、定朝の最晩年期の重要遺品である平等院鳳凰堂関連の遺品の検討から始め、定朝次世代の仏師、さらにそれに続く院政期のいわゆる院・円・奈良仏師という三派仏師たちの事績や、鎌倉時代へと繋がる初期慶派仏師の動向と言ったことを中心に論じる。この時期の仏像製作は、大成された和様（定朝様）が継承され、展開していった時期に当たり、院や天皇、摂関家といった権門が膨大な造仏の注文を行い、三派の仏師たちが盛んに活動を行った時期である。優れた遺品も数多く遺されており、権門貴族の日記などに仏師たちの活動が詳細に残されている時代である。そのためもあって膨大な先行研究があるが、この授業ではこれらの先行研究に先ず目を向けた上で、近年の歴史学を含む最新の研究成果を紹介しながら授業を進め、この時期の彫刻史の動向についての理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>平安時代後期の主要な彫刻を概観した講義を受けることで、古代から中世へと展開するこの時期の美術の中枢を学び、日本の文化の造詣をより一層深めることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業で取り上げる課題は以下の通りである。</p> <p>第1回目 はじめに 第2、3回目 定朝の事績の補足（平等院鳳凰堂関連遺品を中心として） 第4～6回目 定朝次世代の仏師たちの活動 第7、8回目 摂関期の彫刻史の背景 第9～11回目 円・院派仏師の活動 第12回目 奈良仏師の動向 第13回目 初期慶派仏師の活動 第14回目 まとめ 第15回目 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末のレポートおよび出席状況により評価する。評価はレポート80%、出席状況20%。</p>											
【教科書】											
<p>毎回、資料配付を行う。</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に配付するレジユメを必ず読み返すこと。また、授業中に紹介する参考文献や、参考論文は復習のためにぜひ読んでおいてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

授業で取り上げる作品は、実見できるものが多いので、出来るだけ実物を見てもらいたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		平川 佳世 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宗教画をめぐる考察 墓碑画を中心に									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。本年度前期は、キリスト教における画像の役割と芸術家の創意について、特に墓碑画に注目し、イタリアおよび北方ヨーロッパの中世末期から近世初頭の諸事例の具体的な分析を行いつつ、考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・キリスト教における画像の役割と宗教画を描く際の芸術家の創意工夫について、特に墓碑画を中心に、見識を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>西欧では、偶像崇拝を禁止するキリスト教の基本理念にもかかわらず、宗教心をかきたて祈りを促すため、様々な機能をもった画像が発達した。本授業では、中世末期から近世初頭にかけて制作された各種の宗教画のなかでも、特に墓碑画に注目して、それぞれの機能と表現の在り方を理解するとともに、こうした絵画を描くに際して画家が行う芸術的創意と宗教的機能の調停の工夫について、考察する。授業は、講義形式と、受講生による討論をを織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション キリスト教における画像の使用 第2回～第3回 キリスト教における葬礼 第4回～第8回 ヨーロッパにおける墓碑浮彫と彫刻の伝統 第9回～第11回 死者を追悼する絵画 墓碑画 第12回～第14回 墓碑画と芸術表現 第15回 まとめ フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポート（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

レポート作成に際しては、各自、関連する文献を読み、それに基づいて調査研究することが必要となる。そのための授業外学習には十分な時間を確保してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には、議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や関連資料の作成指導も必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心をもち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		平川 佳世 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		花の静物画の成立と展開 16世紀末の事例を中心にして									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。本年度後期は、近世ヨーロッパ絵画における花の描写の発展と花の静物画の成立について、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・花の静物画の成立の経緯について、見識を深める。 											
【授業計画と内容】											
ヨーロッパにおける花の静物画の絵画ジャンルとしての成立は17世紀初頭にさかのぼる。本年度は、フフナーヘル、サーフェリー、ヤン・プリューゲルなど、花の静物画の誕生に寄与した芸術家たちの活動について分析し、ヨーロッパにおける花の静物画成立の背景について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。											
<p>第1回 イン트로ダクション 16世紀までの花の描写の展開</p> <p>第2回～第5回 イタリアの動向 古代の花綱装飾の復活とラファエロ工房</p> <p>第6回～第9回 写本装飾とフフナーヘル一族</p> <p>第10回～第14回 花の静物画の考案をめぐって</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポート（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。											
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。 ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

レポート作成に際しては、各自、関連する文献を読み、それに基づいて調査研究することが必要となる。そのための授業外学習には十分な時間を確保してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心を持ち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		美学史研究 Empfindnis概念の系譜学									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の目的は、美学史の再構築を通じて美学研究の（一つの）ありようを示すことにある。今学期は、Empfindnisというドイツ語（「感覚(Empfindung)」からの造語で「感覚態」「感覚感」「再帰的感覚」などと訳されてきたが定訳は存在しない）で示される概念を原典に即して精確に検討する。それを通じて、近年進展しつつある美学の感性論的(aesthetic)転回 その語源aisthesisに立ち返ることによる「感性の学」としての自己規定 に歴史的に貢献することが、本授業の目的である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・一次文献に基づく美学（史）研究の方法に習熟する。 ・近世美学の諸相について、見識を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>フッサールを一応の基準点として、そこから過去へと遡る形で各思想家における用法を、受講者の理解の程度や関心の所在を勘案しながら、おおよそ【 】で指示した週数を充てて検討する。毎回、受講者に輪番でプロトコル（調書）を作成してもらい、授業内容の理解の深化を図る。検討するテキストは、（既存のものを含めて）日本語訳を担当教員が用意するので、ドイツ語読解能力は求めない（もちろん、あるにこしたことはない）が、日本語訳に基づくテキスト解釈をめぐる議論に積極的に参加することが望まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入【1】 2. フッサール【4】 3. ヘルダー【2】 4. メンデルスゾーン【2】 5. テーテンス【3】 6. 各用法間の関係【2】 7. フィードバック【1】 フィードバック方法は授業中に説明します。 											
【履修要件】											
美学講義を履修済みであることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
プロトコル（調書）の最低1回の作成担当を主、議論への参加を従とする平常点で評価する。プロトコルの作成要領は初回授業で解説する。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

担当教員がコピーを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

テキストの解釈をめぐる議論に積極的に参加できるよう(その意味では、演習的な要素を持つ特殊講義である)、授業中に紹介する文献やその他の参考文献に目を通し、自らの問題意識を明確化しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

担当教員が同学期に開講する「美学美術史学(演習)」では、本授業に関連するドイツ語のテキストを講読する予定であるので、同時に履修すると理解が深まるであろう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代美学研究 真正性の分析美学									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、現代美学の研究・議論状況の一端を提示することにある。今学期は、「真正性 (authenticity)」という概念について、主に分析美学の議論を参照しつつ検討する。この概念は、芸術作品の真贋問題や同一性をめぐる存在論的問題における基礎概念の一つであるが、世界遺産の登録に必須の要件であるなど、文化遺産保護という実践的な領域においても重要な役割を演じている。近年、この概念が分析的な手法を用いて活発に議論されているが、その成果は必ずしも遺産保護の現場には還元されていない。本授業では、理論と実践の双方に目を配りながら、「真正性」概念について考察する。</p>											
【到達目標】											
現代美学の研究・議論状況を理解し、それを自らの研究に応用することができる。											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度や関心の所在を勘案しながら、おおよそ【 】で指示した週数を充てる。毎回、受講者に輪番でプロトコル(調書)を作成してもらい、授業内容の理解の深化を図る。受講者からの活発な議論を期待している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入【1】 2. 文化遺産保護行政における真正性【4】 3. 著作権を哲学する【2】 4. グッドマン【3】 5. ダントー【2】 6. コースマイヤー【2】 7. フィードバック【1】 フィードバック方法は授業中に説明します。 											
【履修要件】											
美学講義を履修済みであることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
プロトコル(調書)の最低1回の作成担当を主、議論への参加を従とする平常点で評価する。プロトコルの作成要領は初回授業で解説する。											
【教科書】											
必要な資料は、担当教員がコピーして配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

【授業外学習（予習・復習）等】

議論に積極的に参加できるよう、授業中に紹介する文献やその他の関連文献を調べたり、授業中に紹介した事例を別の事例・現象に適用してみたりして、自らの問題意識を明確化しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

担当教員が同学期に開講する「美学美術史学（演習）」では、本授業に関連する英文文献を講読する予定であるので、同時に履修すると理解が深まるであろう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 稲本 泰生 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教美術研究									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度前期は五代十国～北宋時代の中国に対応する時期の東アジア仏教美術の遺品について、王朝の興亡や国際情勢との関係を視野に入れつつ検討を加える。各項目には【 】に示した週数を充当する。講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．本講義の視点と問題意識【1～2週】 2．五代十国～北宋期東アジアにおける仏教美術の展開【3～4週】 3．北宋期の宮廷と仏教美術【2～3週】 4．北宋仏教美術の朝鮮半島・日本への波及【3～4週】 5．まとめと総括【1～2週】 <p>フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
必要な資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくことが望ましい。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 稲本 泰生 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教美術研究									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>本年度後期は、唐宋時代における仏教美術の展開について、主な尊種ごとに重要作例を取り上げて検討する。各項目には【 】に示した週数を充当する。講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．本講義の視点と問題意識【 1～2週】 2．唐宋時代における釈迦信仰・高僧信仰の美術に関する諸問題【 3～4週】 3．唐宋時代における観音・地藏・文殊信仰の美術に関する諸問題【 3～4週】 4．唐宋時代における薬師・阿弥陀信仰の美術に関する諸問題【 2～3週】 <p>まとめと総括【 1～2週】 フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない 必要な資料を配布する。</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくことが望ましい。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		岡田 暁生 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モーツァルトの現代性について									
[授業の概要・目的]											
モーツァルトは音楽史最大の「天才」として名高い。しかし天才とは何なのか、一体モーツァルトの何が、どのような意味で不滅なのであるか等については、正面から論じて来られたことはあまりない。この講義ではモーツァルトの生きた18世紀の思想的な文脈から彼の音楽の特質を明らかにする。											
[到達目標]											
モーツァルトの生涯と主要作品ならびに18世紀啓蒙思想とのつながりについての基本的な知識を習得する。											
[授業計画と内容]											
1回-3回：モーツァルトの何が比類ないのか（少年時代、天才の概念の歴史、教育パパの問題などを扱う） 4回 - 6回：天才と成熟について（ウィーン時代および自由芸術家について扱う） 7回 - 10回：「偉大」と「父性」について（主としてバッハならびにベートーヴェンとの比較） 11 - 12回：芸術作品の不滅性と賞味期限について 13 - 15回：モーツァルトと啓蒙思想（「愛」「礼節」「優美」「メランコリー」等の概念について扱う）											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 岡田暁生 『恋愛哲学者モーツァルト』（新潮社）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 文学研究科		岡田 暁生 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		モーツァルトと21世紀について									
【授業の概要・目的】											
音楽史で最大の天才として名高いモーツァルトであるが、その不滅性は作品の「美的な質」にあるだけではない。21世紀の今日なお彼の音楽は、極めてアクチュアルな時代の問いを我々につきつけてくる。この講義ではモーツァルトの音楽を通して、我々が直面している21世紀的な諸問題を考える。 。											
【到達目標】											
この講義ではモーツァルトに「ついて」というより、むしろモーツァルトを「通して」、現代芸術の諸問題について考える。単なる知識ではなく、身近でアクチュアルな問題について一人一人が自分自身で思索することを望む。											
【授業計画と内容】											
1 - 3回：モーツァルトを胎教に使ってはいけない（美の冷酷さおよび「人間性」の概念について） 4 - 9回：AIはモーツァルトをシミュレーションできるか（アドリブ精神（Takt）および時間芸術の諸問題について） 10 - 12回：音楽が時間芸術だということの意味（独創性という概念の歴史、「表現」と「提示」の違いについて） 13 - 15回：光を追いかけるアインシュタインの夢（芸術のアクチュアリティと未来性について）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
ネット動画などでとりあげられる音楽作品を自分自身で出来るだけ聴くこと

[参考書等]

(参考書)
岡田暁生 『恋愛哲学者モーツァルト』 (新潮社)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 加須屋 明子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代美術研究									
[授業の概要・目的]											
<p>多様化する同時代における、現代美術の様々なありかたを考察する。具体的には、60年代以降のいわゆる現代美術の諸様相を検討しつつ、旧東欧地域においてどのように社会状況と関わりながら美術が変容してきたのかを考え、また合わせて日本の戦後美術の成り立ちについても触れる。</p>											
[到達目標]											
<p>現代美術の成り立ちについて理解し、西欧諸国のみならず、旧東欧地域における美術の様相について基本的事項を知り、日本との比較を通じて同時代の芸術表現について積極的に関わる姿勢を養う。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>1 授業概要，ガイダンス【2週】 2 現代美術の成り立ち【4週】 アースワーク、ランドアート、自然との関わり 3 美術と社会との関わり【4週】 パブリック・アート、クリティカル・アート、社会的関与 4 身体と記憶【4週】 パフォーマンス、演劇と美術 5 まとめ【1週】</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
評価方法： レポート											
[教科書]											
<p>使用しない 適宜、プリント資料を配付する。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書) クレア・ビショップ 『人工地獄』(フィルムアート) 加須屋明子 『ポーランドの前衛美術』(創元社)</p>											
[授業外学習(予習・復習)等]											
積極的な予習復習を歓迎します。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等はメールで kasuya@kcu.ac.jp まで。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 駒田 亜紀子 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西洋中世彩飾写本研究									
【授業の概要・目的】											
<p>西洋では、15世紀後半以降に活版印刷術が普及するまで、書物とは、仔牛や羊などの皮革を加工して作られた獣皮紙（羊皮紙）に本文を手で筆写した、「写本（手写本）」であった。これらの写本の中には、コンテンツや用途に応じて、手描きの挿絵やイニシアル等の彩飾（イルミネーション）を施した作例があり、無名の修道僧から国王付き宮廷画家の作品まで、西洋中世絵画の主要な媒体のひとつとなった。</p> <p>本講義では、中世美術全般の歴史的展開や地域的多様性との関わりの中での作品展開を概観した後、写本のレパートリーや画家の活動、コレクション形成などのトピックスについて検討する。</p>											
【到達目標】											
西洋中世美術の一ジャンルとしての彩飾写本の位置づけと、歴史的展開・地域的多様性を把握する。書物の挿絵・装飾という表現媒体に固有の特性を踏まえ、対象に適した研究方法を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>以下の各項目について講述する。各項目には、受講者の理解の程度を確認しながら、適切な授業回数を充てる予定。なお、各項目の講義の順序は固定したのではなく、担当者の講義方針と受講者の理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概略と問題の所在 2. 西洋中世写本の基本構成と装飾要素 3. 西洋中世彩飾写本の文化圏・時代・地域別概観（1）古代末期 4. 西洋中世彩飾写本の文化圏・時代・地域別概観（2）中世初期 5. 西洋中世彩飾写本の文化圏・時代・地域別概観（3）中世盛期 6. 西洋中世彩飾写本の文化圏・時代・地域別概観（4）中世後期 7. 西洋中世彩飾写本の文化圏・時代・地域別概観（5）中世末期 8. 福音書写本の彩飾 9. ラテン語聖書写本の彩飾 10. 俗語訳聖書写本の彩飾 11. 祈祷書・典礼書の彩飾 12. 世俗写本の彩飾 13. 彩飾写本画家の活動：ケース・スタディ 14. 彩飾写本コレクションの形成 15. まとめとフィードバック 											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

授業の節目ごとにリアクション・ペーパーの提出を求め、授業の理解度や参加態度を評価する資料とする。期末レポートでは、受講生各自の研究テーマとの関連を視野に入れつつ、作品の客観的な記述・分析と、研究対象に適した研究視座・研究方法を踏まえた論述の達成度を、到達目標に基づき評価する。

評価割合は、リアクション・ペーパー30%、期末レポート70%とする。

【教科書】

使用しない

講義は、配布プリント（レジュメ、参考資料）とデジタル・スライド提示画像を使用して進める。講義中に提示する画像のサムネイル等のコピーは原則として配布しない。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

附属図書館に配架されている美術全集等を通して、西洋中世美術全般に関する知識を予め確認する。授業では彩飾写本を中心に扱うが、同時代の他のジャンル（建築、彫刻、壁画、ステンドグラス、タピスリー、工芸など）との関連を視野に、予習・復習する。また、授業に先立ち、関連する文献についての予習を指示する場合がある。

（その他（オフィスアワー等））

本講義では、日本国内の美術館・展覧会等では実見が困難な作品を扱う場合がほとんどですが、近年は、各種の展覧会等において、中世・ルネサンス期の彩飾写本が取り上げられる機会が増えつつあります。とくに、2019年秋～2020年冬にかけては、3期にわたり、国立西洋美術館の常設展示スペース（版画素描展示室）にて、国立西洋美術館所蔵の西洋中世彩飾写本零葉（断簡）の展覧会を予定しています。ご見学の機会があれば、幸いです。

また、版画や初期印刷本など、隣接ジャンルを扱う美術館・展覧会等においても、彩飾写本に関する情報・知見を得る機会が増えています。キリスト教や中世文学あるいは書物の歴史という観点から、関連領域への関心を広げるのも良いと思います。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芸術生成論									
[授業の概要・目的]											
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。											
[到達目標]											
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。											
[授業計画と内容]											
<p>1．現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2．受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3．それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4．講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p>											
[履修要件]											
後期の連続的な履修が望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告および議論の内容による。											
[教科書]											
使用しない 適宜、資料を配付する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
特になし											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芸術生成論									
[授業の概要・目的]											
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。											
[到達目標]											
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。											
[授業計画と内容]											
<p>1．現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2．受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3．それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4．講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p>											
[履修要件]											
前期の連続的な履修が望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
報告および議論の内容による。											
[教科書]											
使用しない 適宜、資料を配付する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
特になし											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都工芸繊維大学 工芸学部 准教授 文学研究科		永井 隆則 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代美術の「近代性」(続)									
【授業の概要・目的】											
新古典主義からポスト印象派までの流れを辿った昨年度の講義の続編で、今年度は、ポスト印象派からバウハウスまでの19世紀末から20世紀半ばまで展開した近代美術の流れを概説しながら近代美術における「近代性」とは何であったかを明らかにする。											
【到達目標】											
近代美術の基礎知識と流れを学習し、学生諸君が各自、興味を持った芸術家や美術運動における「近代性」に関して考察する事ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回 ポスト印象主義(1)セザンヌ 第2回 ポスト印象主義(2)ゴッホ 第3回 ポスト印象主義(3)ゴーギャン 第4回 新印象主義 第5回 ポン=タヴェン派とナビ派 第6回 象徴主義 第7回 アール・ヌーヴォー(1) 第8回 アール・ヌーヴォー(2) 第9回 素朴派、野獣派、表現主義 第10回 未来派、ダダイスム 第11回 立体主義とピュリスム 第12回 エコール・ド・パリ 第13回 デ・スティールとロシア・ヴァンギャルド 第14回 ドイツ工作連盟とバウハウス 第15回 まとめとフィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポート(100%)達成目標に従った達成度を評価する。											
【教科書】											
永井隆則 『越境する造形—近代の美術とデザインの十字路口』(昱洋書房、2003)											
永井隆則 『デザインの力』(昱洋書房 2010)											
永井隆則 『フランス近代美術史の現在—ニュー・アート・ヒストリー—後の視座から』(三元社 2007)											
永井隆則 『セザンヌ—近代絵画の父とは何か?』(三元社 2019)											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

永井隆則 『モダン・アート論再考ー制作の論理から』 (思文閣出版 2004)

永井隆則 『セザンヌ受容の研究』 (中央公論美術出版 2007)

永井隆則 『もっと知りたいセザンヌ』 (東京美術 2012)

[参考書等]

(参考書)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に教科書の中の幾つかの論文を復習として精読するように指示する。

(その他(オフィスアワー等))

演習II(英、仏、独)を受講する事が望ましい。

質問等の連絡は以下のメールでお願いします。

t-nagai@kit.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世日本絵画史研究									
[授業の概要・目的]											
「奇想」の画家と呼ばれる江戸時代の絵師たちを取り上げ、その実像について検討を加える。各作家の生い立ちと作品を検証し、これまでの研究動向と実態との乖離について理解を深め、画家像を再構築することを目指す。											
[到達目標]											
先行研究を踏まえて江戸時代絵画史に対する理解を深め、今後の考察の足掛かりとする。											
[授業計画と内容]											
前期は、最初に日本の中世以前あるいは中国の個性的な画家たちを取り上げ、「奇想」と呼ばれる概念の歴史的な背景について検討を加える。その後江戸後期の画家長澤蘆雪を取り上げ、その伝記及び作品について考察する。各項目には()に示した週数を充当する。講義の順序や進捗は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。 1 序論・「奇想」概念の考察(1～2週) 2 日本中世及び中国の「奇想」の画家たち(2～3週) 3 長澤蘆雪の生涯と作品(9～10週) フィードバック方法は授業中に説明します。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ることが望ましい。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 35731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世日本絵画史研究									
[授業の概要・目的]											
「奇想」の画家と呼ばれる江戸時代の絵師たちを取り上げ、その実像について検討を加える。各作家の生い立ちと作品を検証し、これまでの研究動向と実態との乖離について理解を深め、画家像を再構築することを目指す。											
[到達目標]											
先行研究を踏まえて江戸時代絵画史に対する理解を深め、今後の考察の足掛かりとする。											
[授業計画と内容]											
後期は江戸時代初期の画家岩佐又兵衛を取り上げ、その伝記及び作品について考察する。各項目には()に示した週数を充当する。講義の順序や進捗は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。 1 序論及び岩佐又兵衛伝承の検討(1~2週) 2 岩佐又兵衛の伝記(1~2週) 3 作品研究 古浄瑠璃絵巻(2~3週) 4 作品研究 風俗画(2~3週) 5 作品研究 伝統画題(1~2週) 6 作品の伝来(1~2週) 7 まとめ(1週) フィードバック方法は授業中に説明します。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ることが望ましい。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		平川 佳世 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美術史学の諸概念									
【授業の概要・目的】											
本演習では、美術史に関する英語文献の精読を通じて、英語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語で執筆された美術史に関する専門的な文献を正確に読解する能力を習得する。 ・ 様式概念やイメージ解釈等、美術史学における基礎的な思考法についての知見を得る。 											
【授業計画と内容】											
<p>本年度は、Berel Lang (ed.), <i>The Concept of Style</i> (London, 1987) 等の精読を通じて、様式概念やイメージ解釈、受容層の問題等、美術史学における基礎的な思考法について理解を深めることをめざす。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明する。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当箇所を決定する。</p> <p>第2回～第14回 上記論文集の所収論文等の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても議論する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に一度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜、調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>第15回 定期試験</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
・ 美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって熱心に授業に参加してほしい。											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（授業への参加および担当箇所の精読の発表、40点）と期末試験（60点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

授業中に指示する
講読テキストは、プリントで配付します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業に際しては、あらかじめテキストを各自精読し、不明な単語を調べ、文法構造を正しく理解し、適切な日本語に翻訳する予習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、インターネット、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外の英語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		真正性の分析美学(講読篇)									
【授業の概要・目的】											
<p>「真正性(authenticity)」は、芸術作品の真贋問題や同一性をめぐる存在論的問題における基礎概念の一つであるが、世界遺産の登録に必須の要件であるなど、文化遺産保護という実践的な領域においても重要な役割を演じている。近年、この概念が分析的な手法を用いて活発に議論されている(が、その成果は必ずしも文化遺産保護の現場には還元されていない)。本授業では、その最新の成果の一つである、コースマイアー(Carolyn Korsmeyer, 1950-)の『物』(2019)を講読しながら、文化財・文化遺産保護の実践をも視野に入れながら、「真正性」概念について考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた美学の議論を正確に理解することができるようになる。 ・現代美学の諸課題へのアプローチ方法を学ぶ。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 テキストおよび参考文献を紹介・解説し、授業の進め方と準備の方法を周知する。</p> <p>第2回～第14回 テキストの講読 テキストを精読し、内容についても議論する。原則として毎回の授業で1人1回1段落程度は訳読を課す。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>第15回 まとめ 講読の成果を総括・議論する。 基本的には輪読形式を進めるが、途中から担当者を決めて内容を要約して発表してもらうことも考えている(具体的な方法については受講者と協議して決定する)。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点(輪読における訳読状況、議論への参加度、発表を行う場合は、その出来具合)によって行う。</p> <p>理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には単位認定を行わない。</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[教科書]

Carolyn Korsmeyer 『Things: In Touch With the Past』 (Oxford University Press) ISBN:9780190904876
(希望者には講読箇所のコピーを配布する。)

[参考書等]

(参考書)

コースマイヤー (長野・石田・伊藤訳) 『美学 ジェンダーの視点から 』 (三元社) ISBN:
9784883032570

その他、授業中に紹介する。

[授業外学習 (予習・復習) 等]

テキストのどの箇所を指定されても日本語訳できるように不明な単語・事項を調べておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

担当教員が同学期に開講する「美学美術史学 (特殊講義) 」では、本授業で講読するテキストをより広い文脈において検討する予定であるので、同時に履修すると理解が深まるであろう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 文学研究科		平川 佳世 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		絵画作品の解釈をめぐる諸問題									
【授業の概要・目的】											
本演習では、美術史に関するドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・美術史に関するドイツ語専門文献を読解する能力を習得する。 ・美術史学におけるイメージ解釈についての知見を得る。 											
【授業計画と内容】											
<p>本年度は、Oskar Bätschmann, Einführung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik (Darmstadt, 1986; 2001)の精読を通じて、絵画作品の解釈をめぐる諸問題について理解を深めるとともに、美術史学の思考法について多角的に考察する。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明する。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 上記論文集の所収論文の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>第15回 期末試験</p> <p>フィードバック方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・中級程度のドイツ語を習得していること。 ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって熱心に授業に参加してほしい。 											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（出席状況および担当箇所の精読の発表、40点）と期末試験（60点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

講読テキストはプリントで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

授業に際しては、あらかじめテキストを各自精読し、不明な単語を調べ、文法構造を正しく理解し、適切な日本語に翻訳する作業を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、インターネット、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美学史研究 テーテンス『人間本性とその展開についての哲学的試論』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、美学にかんするドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美学の諸問題について理解を深めることを目指す。今学期は、テーテンス(Johann Nikolaus Tetens, 1736-1807)の『人間本性とその展開についての哲学的試論』(1777. 以下『試論』と略)より「感情(Gefühl)」にかんする箇所を選読する。同書は、心の能力を「感情」「悟性」「意志」に三分割した点でカントの批判哲学の、したがって、その「感情」にかんする箇所は近代美学の出発点たる『判断力批判』の、先駆と見なしうる。この講読を通じて、近代美学の前史の一端を探る。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・美学にかんするドイツ語文献を的確に読解する能力を習得する。 ・美学史についての知見を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 テキストおよび参考文献を紹介・解説し、授業の進め方と準備の方法を周知する。</p> <p>第2回～第14回 テキストの講読 テキストを精読し、内容についても議論する。受講者のドイツ語読解能力によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、原則として毎回の授業で1人1回は訳読を課す。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>第15回 まとめ 講読の成果を総括・議論する。</p>											
【履修要件】											
中級程度のドイツ語を習得していること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>平常点（毎回の訳読状況）によって評価する。 理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には、単位認定を行わない。</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[教科書]

Johann Nikolaus Tetens (hg. von Udo Roth und Gideon Stiening) 『Philosophische Versuche über die menschliche Natur und ihre Entwicklung』 (De Gruyter) ISBN:9783110372489 (講読箇所のコピーを配布する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習 (予習・復習) 等]

講読箇所を翻訳し内容を説明できるように不明な単語・事項を調べておくこと。

(その他 (オフィスアワー等))

ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めてほしい。
また、担当教員が同学期に開講する「美学美術史学 (特殊講義) 」では、本授業で講読するテキストをより広い文脈において検討する予定であるので、同時に履修すると理解が深まるであろう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都工芸繊維大学 工芸学部 准教授 文学研究科		永井 隆則 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		セザンヌ受容の研究									
【授業の概要・目的】											
フランスの画家、ポール・セザンヌ (Paul Cezanne,1839-1906)のフランスにおける受容の問題について、以下を講読しながら講じる。 Laure Caroline Semmer,Cézanne, une histoire française,Scala,2011											
【到達目標】											
「受容」研究の方法論的前提と具体的手法に関する知識を習得できる。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス (受講者の受講動機、専門分野等に関してアンケートを実施する)											
第2回 アンケートに基づいて、受講者一人一人に情報提供を行う。											
第3回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第4回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第5回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第6回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第7回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第8回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第9回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第10回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第11回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第12回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第13回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第14回 Laure Caroline Semmerを受講者に、毎回、一文一文、翻訳して頂く。											
第15回 フィードバック (アンケートを実施し、学生諸君に、授業に関する疑問点、改善点等や今後の課題に関して回答して頂き、教員がこれにお応えする)											
【履修要件】											
講読予定のテキストはガイダンスの日に配布します。 フランス語文法の基礎知識を身につけておくこと。											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

毎回の講読での翻訳発表（平常点：50点）と各自が各自の専門として選んだテーマに関するフランス語テキストの翻訳（レポート：50点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

永井隆則 『モダン・アート論再考－制作の論理から』（思文閣出版）
永井隆則 『フランス近代美術史の現在－ニュー・アート・ヒストリー以後の視座から』（三元社）
永井隆則 『方法と探求 フランス近現代美術史を解剖する』（晃洋書房）
永井隆則 『<場所>で読み解くフランス近代美術』（三元社）
永井隆則 『セザンヌ受容の研究』（中央公論美術出版）

[参考書等]

（参考書）

永井隆則 『もっと知りたいセザンヌ』（東京美術）
永井隆則 『越境する造形－近代の美術とデザインの十字路』（晃洋書房）
永井隆則 『デザインの力』（晃洋書房）
永井隆則 『セザンヌ 近代絵画の父とは何か』（三元社）

[授業外学習（予習・復習）等]

毎回、講読する予定の頁を翻訳しておくこと。
適宜、教科書、参考書の中で指定した箇所を精読するよう補習を促す。

（その他（オフィスアワー等））

授業中、終了後、メール等で随時、質問、相談に応じます。

アドレス：
t-nagai@kit.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸学院大学人文学部 講師 倉持 充希 文学研究科 確認用			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		絵画における感情表現									
【授業の概要・目的】											
<p>・本演習では、西洋美術に関するフランス語の専門書の精読を通じて、フランス語の読解力を高めると同時に、絵画における感情表現について考察することを目的とする。</p> <p>・具体的には、以下の著作を中心に精読し、情念の定型的表現、テキストとそのイメージ化の方法、芸術論等について検討する。</p> <p>Giovanni Careri, Gestes d'amour et de guerre. La Jérusalem délivrée, images et affects (XVIIe-XVIIIe siècle), Paris, 2005.</p>											
【到達目標】											
<p>・西洋美術史に関するフランス語の専門書を読むために必要な読解力を習得する。</p> <p>・16～18世紀の物語画における、身振りをを用いた感情表現の手法について知見を得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨN まず、講読テキストの概要について説明し、内容の理解を助ける参考文献や予習方法、評価方法を示す。次回以降の担当箇所を割り振るので、受講を希望する人は必ず初回に出席すること。あわせて、受講生の興味関心や専門分野、要望を知るためのアンケートも実施する。</p> <p>第2回～第15回 テキストの精読 各受講生が、割り当てられた担当箇所について翻訳を行い、内容理解を確認する。担当者の習熟度によって進捗は大きく異なるため、毎回の予定を示すことはできないが、毎週ないし隔週で各受講生に精読発表の機会が与えられるよう、適宜調整を行う。必要に応じて、文法事項や専門用語、歴史的事象、研究史などに関して、補足説明をする。</p> <p>フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
フランス語の中級以上の知識を習得していること。											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（毎回の講読での発表40点）と、期末レポート（精読部分の訳文の提出60点）に関して、文法理解・適切な訳文・内容理解という観点から評価する。

- ・原則として、4回以上欠席した場合は、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

初回に、講読テキストのコピーを配布する。

Giovanni Careri, Gestes d'amour et de guerre. La Jérusalem délivrée, images et affects (XVIIe-XVIIIe siècle), Paris, 2005. ISBN : 2713220637

[参考書等]

（参考書）

- ・初回に、以下の参考文献等を紹介し、講読テキストに関する予備知識をつける。
加藤哲弘「解題〈パトス・フォルメル〉とその受容をめぐって」、アビ・ヴァールブルク『デュラーの古代性とスキファノイア宮の国際的占星術』、加藤哲弘訳、ありな書房、2003年、157-202頁。ISBN : 4756603815
- ・その他、授業中に紹介し、適宜、必要箇所のコピーを配布する。

[授業外学習（予習・復習）等]

- ・予習としては、各自テキストを精読し、不明な単語や文法事項を調べ、適切に翻訳できるように準備しておくこと。文中に登場する固有名詞、図像、参考図版についても、事前に調べておくこと。
- ・復習としては、授業中の発表と解説に基づいて訳文の再検討を行い、期末レポートの作成を進める。

（その他（オフィスアワー等））

- ・質問や相談は、授業前や授業中に、あるいはメールでも受け付ける。
- ・ラジオやオンライン教材、講演会などを活用し、実践的なフランス語運用能力を養う機会を積極的に設けて欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET09 35745 SJ34											
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科				非常勤講師 江尻 育世 確認用	
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		肖像画の諸問題											
【授業の概要・目的】													
本演習では、美術史に関するイタリア語文献の講読を通じて、イタリア語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。													
【到達目標】													
<ul style="list-style-type: none"> ・美術史に関するイタリア語専門文献を読解する能力を習得する。 ・西洋美術の主要ジャンルである肖像画について、知見をえる。 													
【授業計画と内容】													
<p>Enrico Castelnuovo, <i>Ritratto e Società in Italia</i>, curato da F. Crivello e M. Tomasi, Torino, 2015などの講読を通じて、肖像画について多角的に理解することを目指す。 昨年度は古代～中世の章まで講読したので、本年度はルネサンス以降の近世の肖像画の章を読み進める。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明する。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 肖像画に関する諸論文の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>第15回 期末試験</p> <p>フィードバック方法は授業中に説明します。</p>													
【履修要件】													
<ul style="list-style-type: none"> ・中級程度のイタリア語を習得していること。 ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって熱心に授業に参加してほしい。 													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
平常点（出席状況および担当箇所の精読の発表、40点）と期末試験（60点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。													
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----													

美学美術史学(演習II)(2)

- ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

講読テキストはプリントで配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業に際しては、あらかじめテキストを各自精読し、不明な単語を調べ、文法構造を正しく理解し、適切な日本語に翻訳する作業を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のイタリア語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

哲学基礎文化学系 1 2 7

科目ナンバリング		U-LET09 25753 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁 文学研究科 確認用			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		日本美術史講読(古文)									
[授業の概要・目的]											
日本美術の史料に関する基礎的素養を身に付け、史料の読解能力を高める目的で、江戸時代の版本・絵巻の詞書・古文書等を読む。様々なテキストを取り上げ、アプローチの方法論を学ぶ。											
[到達目標]											
前近代の史料の基礎的知識を身に付け、崩し字の初歩的な読解能力の習得を目指す。											
[授業計画と内容]											
江戸時代の画論書・技法書、絵巻の詞書、画家に関する古文書などを取り上げて読み込む。受講者の背景や理解の状況に応じ、担当を割り振って読解作業を行ってもらうことがある。 第1週 序論 第2～14週 版本・詞書・古文書の読解 第15週 期末試験及びフィードバック フィードバック方法は授業中に説明します。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点50%(報告、授業内での発言)と授業内で行う試験50%によって評価する。担当個所の報告について、入念な準備を行っているものには、高い点を与える。											
[教科書]											
使用するテキストほかの資料は、授業中に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
担当箇所を割り振って、ある程度の分量の読解作業を行ってもらうことがある。その場合は事前の準備をしておくことが望ましい。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET09 25753 LJ34											
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(講読) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 助教 文学研究科				高井 たかね 確認用	
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語		
題目		漢書講読											
【授業の概要・目的】													
<p>日本・東洋美術史学では、作品や作者を研究する際に様々な文献を読むことがしばしば要求される。この授業では、漢文体で書かれた史料を読むための基礎的な能力を養うことを目的とする。清、李漁『閒情偶寄』居室部をテキストとし、今年度は居室部牆壁から読み始める予定。授業では、出席者に訓読および現代語訳をしてもらい、語法の確認をしながら漢文読解の訓練をおこなう。各回の担当者を決めないので、全員毎回の予習が必要。</p>													
【到達目標】													
<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢文読解のための基礎的知識、能力を身につける。 ・ 具体的には、漢文の語法について基礎的理解を得る、また訓読、現代語訳のために必要な基本的な工具書を知り、それらを使いこなせるようになること。 ・ 文章の背景にある中国文化に対する理解を深める。 													
【授業計画と内容】													
<p>第1回 講義趣旨説明 清、李漁『閒情偶寄』の概要説明。授業の進め方、評価方法等についての確認。必要な工具書、参考図書の紹介。</p> <p>第2～14回 『閒情偶寄』居室部の精読 居室部・牆壁から読みすすめる予定。 進度は、はじめは半葉程度になるかと思われるが、これを2, 3回続けたあとは1回に約一葉は進むようになる。</p> <p>第15回 総括 読解部分についてまとめ、疑問点を再考する。また、前回までの進み具合によっては引き続き輪読をおこなうための予備日とする。</p>													
【履修要件】													
特になし													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
<p>平常点評価 授業時の訓読・現代語訳のほか、出席も考慮する。</p>													
----- 美学美術史学(講読)(2)へ続く -----													

美学美術史学(講読)(2)

[教科書]

漢和辞典が必要。
テキスト，参考資料はコピーを配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

各回の精読箇所について、必ず予習が必要。漢和辞典等を使用して訓読、現代語訳しておく。

(その他(オフィスアワー等))

毎回、一定量のテキストを読むので、参加者には相応の予習が要求される。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。